



ユーザーズ・マニュアル

システム・データバックアップソフト

HD 革命®
Backup *Next*
Ver.6

HD革命/バックアップ ネクスト Ver.6

目 次

第1章 HD 革命 /BackUp Next の使用開始にあたって

・ ご利用いただける動作環境 (システム要件)	1-2
・ BackUp Next のインストール	1-4
・ BackUp Next のアンインストール	1-6
・ Windows PE 起動用メディアの作成	1-7
・ Windows PE 起動用メディアでコンピューターを起動	1-12
・ BackUp Next のメイン画面	1-13
・ 設定メニューの各機能	1-18
・ BackUp Next をご利用時の注意事項・制限事項	1-26

第2章 バックアップ

・ バックアップ方式について	2-2
・ バックアップの種類について	2-4
・ Welcome バックアップ	2-5
・ バックアップの選択	2-7
・ ワンステップバックアップ	2-9
・ 簡単ウィザードバックアップ	2-11
・ 詳細バックアップ (セクターバックアップ方式)	2-14
・ 詳細バックアップ (ファイルバックアップ方式)	2-17
・ 項目から選択	2-22
・ ファイルの絞り込み	2-23
・ ファイルの除外	2-26
・ スケジュールの設定	2-28
・ バックアップの種類	2-32
・ オプションの設定	2-35
・ ネットワークドライブにバックアップ	2-37
・ 暗号化環境のバックアップについて	2-38
・ 暗号化環境のセクターバックアップ方式	2-39
・ 暗号化環境のファイルバックアップ方式	2-42
・ ISO イメージファイルにバックアップ	2-45
・ タイムスライスバックアップ	2-48
・ 実行されなかったスケジュールを選択して実行	2-50

第3章 復元

- ・復元方式について…………… 3-2
- ・簡単復元…………… 3-3
- ・詳細復元（セクターバックアップ方式で「ディスク単位」）…………… 3-6
- ・詳細復元（セクターバックアップ方式で「パーティション単位」）…………… 3-10
- ・詳細復元（ファイルバックアップ方式）…………… 3-18
- ・差分、増分バックアップの復元…………… 3-22
- ・復元オプションの設定（ファイルバックアップ方式の復元）…………… 3-24
- ・暗号化環境のバックアップファイルを復元…………… 3-28
- ・バックアップファイルの内容確認（バックアップファイルのマウント）…………… 3-30

第4章 メイン画面のタスクとログ

- ・タスクとログ…………… 4-2
- ・バックアップファイルからタスクを再構成…………… 4-11

第5章 Windows PE 起動用メディアで起動してバックアップ・復元

- ・Windows PE 起動用メディアで起動してバックアップ…………… 5-2
- ・Windows PE 起動用メディアで起動して復元…………… 5-5
- ・Windows PE 起動用メディアで起動してロック解除…………… 5-9

第6章 ツール

- ・バックアップファイルの検査…………… 6-2
- ・バックアップファイルから ISO ファイルを作成…………… 6-4
- ・ISO ファイルの書き込み…………… 6-6
- ・メディアの消去…………… 6-8
- ・パーティションツール…………… 6-9
- ・ドライブ情報の取得…………… 6-12
- ・コンピューター情報の取得…………… 6-13
- ・アップデータの確認…………… 6-15
- ・ネットワークドライブの割り当てと IP アドレスの設定…………… 6-17

第7章 参考資料

- ・ネットワークドライブの割り当て…………… 7-2
- ・ディスクの初期化とパーティションの作成…………… 7-3
- ・USB メモリーのフォーマット…………… 7-5
- ・回復ドライブの作成…………… 7-6

第 1 章

HD 革命 /BackUp Next の使用開始にあたって

(動作環境・インストール・注意事項 / 制限事項)



ここでは、HD 革命 /BackUp Next の動作環境、インストール方法、ご利用いただくにあたってあらかじめお読みいただきたい注意事項や制限事項について説明しています。

ご利用いただける動作環境 (システム要件)

HD 革命 /BackUp Next (本マニュアルでは以降「**BackUp Next**」といいます) をご利用いただくためには、次のコンピューターハードウェアおよびオペレーティングシステムが必要です。

インストールして使用する場合

オペレーティングシステム	Windows 11 (バージョン 25H2) (※ 1) (※ 2) (※ 3)
コンピューター (CPU)	Intel/AMD/Arm の CPU が搭載されたコンピューター (※ 4) (※ 5)
メモリー	4GB 以上 (8GB 以上を推奨)
ストレージ	150MB 以上の空き領域がある HDD/SSD (※ 6)
ファイルシステム	FAT32、NTFS、exFAT (※ 7)
ディスプレイ	画面解像度が 1280 × 1024 以上のディスプレイ
その他	光学ドライブ (※ 8) インターネット接続環境 (※ 9)

- ※ 1 「Windows の表示言語」が日本語の環境のみ対応となります。
- ※ 2 インストールして使用するには管理者 (Administrator) 権限が必要です。
- ※ 3 2026 年 5 月 31 日現在の対応 OS となります。Windows の大型アップデートについての最新情報は、Web サイトでご確認ください。マイクロソフト社がサポートを終了したオペレーティングシステムは、製品のサポートも終了とさせていただきます。
- ※ 4 Windows 11 が動作するシステム要件を満たしたコンピューターが必要です。
- ※ 5 Mac や Android デバイスにおける仮想化環境の Windows 11 は動作保証外となります。
- ※ 6 インストール用の最低空き領域となり、このほかにバックアップファイルを保存するための空き領域が必要です。
- ※ 7 ダイナミックディスクの環境では使用できません。
- ※ 8 製品 CD からインストールする場合に必要となり、ダウンロード版の場合は不要です。CD/DVD/BD の書き込み可能なメディアをバックアップ先や起動用メディアとして使用する場合は、それぞれのメディアへの書き込みに対応した光学ドライブが必要です。
- ※ 9 アップデータのダウンロード、ユーザー登録や Web 上に記載された記事の閲覧を行う際に必要となります。

Point

BackUp Next は、HDD (ハードディスク) のほかに SSD でも使用できますが、本マニュアルでは、デバイスの種類を特別に区別する場合を除き「ディスク」と記載します。

Windows PE 起動用メディアを作成して起動して使用する場合

「**BackUp Next**」は、インストール後にバックアップや復元を行うための起動用メディアを作成することができます（1-7 ページ参照）。この起動用メディアは最小限の機能を持ち、メモリー上で動作するコンパクトな Windows OS である「Windows PE」を使用しています。本製品ではこの起動用メディアを「Windows PE 起動用メディア」といい、起動するには以下のシステム要件が必要です。

「Windows PE 起動用メディア」は、Windows が起動しない環境でも復元を行うことができるようになりますので、インストール後に作成するようにしてください。

オペレーティングシステム	Windows PE を起動するため、コンピューターにインストールされているオペレーティングシステムに依存しません。
コンピューター（CPU）	インストールして使用する場合と同様
メモリー	512MB 以上（1GB 以上を推奨）
ファイルシステム	インストールして使用する場合と同様
ディスプレイ	インストールして使用する場合と同様
その他	光学ドライブ（※ 1）

※1 CD/DVD/BD の書き込み可能なメディアを「Windows PE 起動用メディア」とする場合に必要です。



- ・Windows PE は起動してから 72 時間後に自動的に再起動します。
- ・「Windows PE 起動用メディア」は、基本的にバックアップを行う PC で作成してください。環境が異なるコンピューターで作成すると、起動ができない可能性があります。
- ・作成した「Windows PE 起動用メディア」から起動するには、コンピューターによっては設定の変更や追加が必要となる場合があります。起動するデバイスの変更方法はメーカーや機種に依存してさまざまであるため、その具体的な方法は弊社ではお答えすることはできません。以下を参考にするか、コンピューターのマニュアル、メーカーの Web サイトなどをご確認ください。

《起動デバイスの設定例》

《Dell/NEC/Lenovo/ 富士通》

- ①コンピューターの電源をオンにした後、メーカーのロゴ画面で「F12」キーを連打する。
- ②「Boot Menu」が表示されたら、リストから起動したいデバイス（USB メモリー等）を選択し、Enter キーを押す。

《HP》

- ①コンピューターの電源をオンにした後、すぐに「Esc」キーを連打し、スタートアップメニューを表示させる。
- ②「F9」キーを押して「Boot Menu」を選択する。

- ③リストから起動したいデバイス（USB メモリー等）を選択し、Enter キーを押す。

《ASUS/ASRock/GIGABYTE/MSI/Intel》

- ①コンピューターの電源をオンにした後、すぐに以下のキーを連打する。
 - ・ASUS : 「F8」 ・ASRock : 「F11」
 - ・GIGABYTE : 「F12」 ・MSI : 「F11」
 - ・Intel : 「F10」
- ②「Boot Menu」が表示されたら、リストから起動したいデバイス（USB メモリー等）を選択し、Enter キーを押す。

※ Windows 上で「スタート」→「設定」→「システム」→「回復」→「PC の起動をカスタマイズする」を選択しコンピューターを再起動後、「デバイスの使用」で起動したいデバイス（USB メモリー等）を選択することでも起動できます。

BackUp Next のインストール

インストールは、以下の手順で行います。旧バージョンの **BackUp Next** がインストールされている場合は、アンインストールしてからインストールを始めてください。

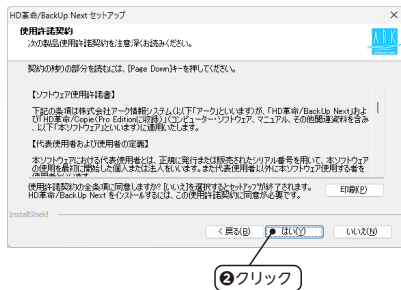
1 インストール開始

「インストール開始」をクリックします。



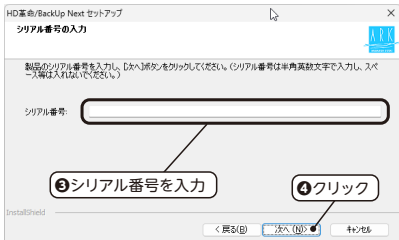
2 ソフトウェア許諾書の確認

使用許諾契約が表示されます。本ソフトウェアをご利用いただくには契約内容への同意が必要です。必ず下までスクロールして内容を確認いただき、同意をする場合は「はい」ボタンをクリックします。



3 シリアル番号の入力

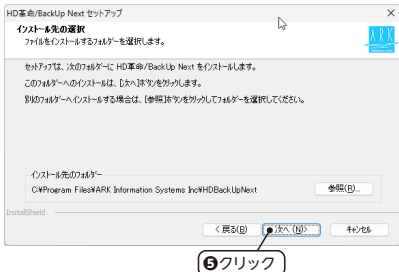
シリアル番号を入力して「次へ」ボタンをクリックします。



- シリアル番号は、半角英字の大文字と半角数字で入力してください。ハイフン(ー)も必要です。
- (例) ABCD-E12-FGH345JK67
- 受け付けられないときは、全角文字や小文字になっていないかどうかを確認してください。

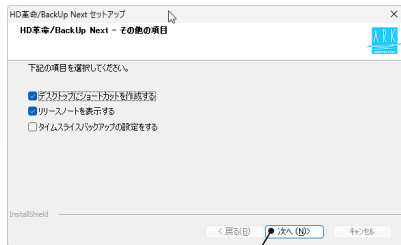
4 インストール先の選択

インストール先を指定して「次へ」ボタンをクリックします。特に問題がない場合は、インストール先は変更しないでください。



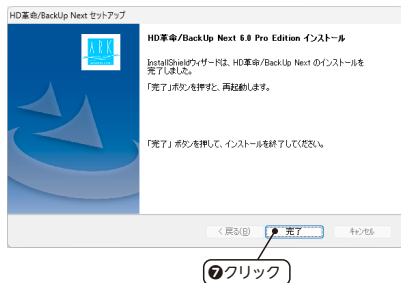
5 タイムスライスバックアップの設定

タイムスライスバックアップの設定をするには、チェックボックスにチェックを入れて「次へ」ボタンをクリックします。ここで行わなくてもインストール後に設定することができます(2-48 ページ参照)。



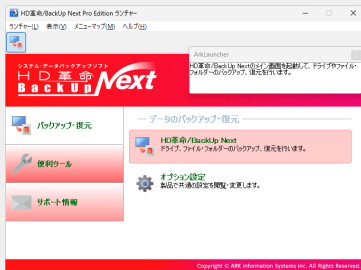
6 再起動

「完了」ボタンをクリックしてコンピューターを再起動します。



Ark ランチャーについて

インストール後、デスクトップに「Arkランチャー」のアイコンが作成されます。Arkランチャーから **BackUp Next** のメイン画面や各種ツールを起動することができます。



スライド機能について

インストール後に製品の紹介を行うスライド機能が表示されます。「ログオン(サインイン) 時にスライド機能を表示しない」にチェックが入った状態で画面を閉じると、次回以降は表示されません。このスライド機能は、メイン画面の「機能」メニューから呼び出すことができます。



BackUp Next のアンインストール

アンインストールは、以下の手順で行います。

1 「スタート」 ボタンをクリック

「スタート」 ボタンをクリックします。



2 「設定」 をクリック

「設定」 ボタンをクリックします。



3 「インストールされているアプリ」 をクリック

「アプリ」→「インストールされているアプリ」をクリックします。



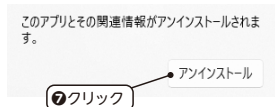
4 革命製品の選択

アプリ一覧の中から「HD 革命 /BackUp Next」を表示し、右側にある「…」をクリックします。メニューが開きますので、「アンインストール」をクリックします。



5 アンインストールの確認

確認ダイアログが表示されますので、「アンインストール」 ボタンをクリックします。



6 タスクとログの削除

アンインストール時にタスクとログを削除するかどうかを選択できます（ログとタスクを残しておくことで、再度インストールしたときにその設定でコピーの実行が可能）。

選択後「次へ」 ボタンをクリックし、開いた画面で「完了」ボタンをクリックしてコンピューターを再起動します。



Point

BackUp Next では、設定ファイルを以下フォルダーに保存しています。

このフォルダーは隠しフォルダーとなっていますので、ファイルを参照する場合は Windows の「PC」画面で「表示」メニューを開き、「隠しファイル」にチェックを入れてください。

C:\ProgramData\ARK Information Systems Inc\BackUp Next

Windows PE 起動用メディアの作成

BackUp Next の Ark ランチャーから、Windows PE で操作を行うための起動用メディアを作成することができます。ただし、Windows PE 起動用メディアから起動した状態では作成できません。

重要 はじめにお読みください

- Windows PE 起動用メディアは、Windows が起動しない環境において復元を行うために必要となります。Windows PE 起動用メディアは、可能な限りインストール直後に作成するようにしてください。
- Windows PE 起動用メディアは、操作を行うコンピューターで作成してください。作成した環境と起動する環境が異なると起動できません。

《環境が異なる例》

- CPU の世代が異なる
(Intel CPU の第 8 世代で作成したものを、Intel CPU の第 15 世代で使用する場合など)
- CPU が異なる
(Intel CPU 環境で作成したものを、Arm CPU 環境で使用する場合など)

1 「Windows PE 起動用メディアの作成」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「Windows PE 起動用メディアの作成」とクリックします。



「Windows PE 起動用メディアの作成」が表示されます。



2 起動用メディアの作成方法を選択

最初に「起動用メディアの作成方法を選択」から、Windows PE 起動用メディアを作成する際に必要なファイルをどこから取得するかを選択します。

A 各項目の詳細

●このコンピューターの Windows 回復環境 (Windows RE) からファイルを取得して作成 (推奨)

システムディスクに存在する Windows 回復環境 (Windows RE) から、ファイルを取得して Windows PE 起動用メディアを作成する方法です。ノート PC では、Windows ADK を使用して作成する方法だとタッチ패드などが動作しないことがあります。この方法で作成した Windows PE 起動用メディアで起動すると動作することがあります。特殊な環境でない場合は、最も推奨される作成方法となります。ただし、Windows 回復環境が存在しない、破損しているなど環境に問題があるとこの方法は使用できません。

●コンピューターメーカーが配布する Windows 回復イメージ (ファクトリ回復イメージ) を使用 コンピューターメーカーが配布する [Windows 回復イメージ (ファクトリ回復イメージ)] (以下 [Windows 回復イメージ] と言います。)

が存在する場合、それを元にして起動用メディアを作成する方法です。
[Windows 回復イメージ] がコンピューターメーカーより提供されていない場合、この作成方法は選択できません。[Windows 回復イメージ] は、あらかじめコンピューターメーカーの Web サイトからダウンロードし、ZIP ファイルの場合は展開しておいてください。

● Windows ADK のダウンロードとインストールを行い作成

Windows ADK (アセスメント&デプロイメントキット) とアドオンをダウンロードしてインストールを行い、Windows PE 起動用メディアを作成する方法です。この方法では、インターネット接続が必要となります。

●作成済みの起動可能な ISO イメージファイルを使用して作成

ISO イメージファイルから Windows PE 起動用メディアを作成する方法です。通常は、後述の起動用メディアの作成先で「ISO イメージファイル」を指定して作成した ISO イメージファイルを指定しますが、起動可能な ISO イメージファイルであれば、他のアプリケーションで作成したものでも使用可能です。

■デバイスドライバを追加

Intel VMD (Intel RST) や、ネットワークアダプター用のデバイスドライバを追加することができます。「作成済みの起動可能な ISO イメージファイルを使用して作成」を選択して Windows PE 起動用メディアを作成する場合は選択できません。

このオプションであらかじめデバイスドライバを追加しておくことで、Windows PE 起動用メディアで起動後に Ark ランチャーからデバイスドライバをインストールする必要がなくなります。

3 起動メディアの作成先を選択

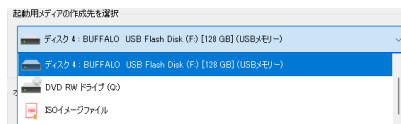
次に、Windows PE 起動用メディアの作成先とするメディアを選択します。

B メディアの作成先とオプションの詳細

●メディアの作成先を選択

リストの中から Windows PE 起動用メディアの作成先を選択します。また、ISO イメージファイルとして保存する場合は「ISO イメージファイル」を指定します。あらかじめ、メ

ディアは光学ドライブに挿入、USB メモリーは USB ポートに接続しておいてください。



⚠ Windows 回復環境、Windows 回復イメージからファイルを取得する場合、CD-R/RW メディアには収まりませんので、DVD ±R/RW、BD-R/RE メディアを使用してください。

■単一パーティションで USB メモリーを構築する

USB メモリーを Windows PE 起動用メディアとする場合、通常は起動用のファイルが保存される先頭のパーティション(ボリューム名: ARKPETOOL) と、バックアップファイルを保存できる後方のパーティション(ボリューム名: ARKPEDATA) の 2 つのパーティション構成となります。先頭のパーティションには隠し属性がついているため、ボリューム名とドライブ文字は見えません。

このオプションにチェックすることで全体が 1 つのパーティションとして構築されますが、64GB 以上の USB メモリーを使用した場合は、パーティション全体が NTFS でフォーマットされてしまうため、Windows PE 起動用メディアから起動することはできません。

チェックなしで作成した USB メモリーのパーティション構成

ディスク 4 リムーバブル 115.43 GB オンライン	4.00 GB 正常 (アクティブ、プライマリ)	ARKPEDATA (F:) 111.43 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)
--	-----------------------------	--

チェックありで作成した USB メモリーのパーティション構成

ディスク 4 リムーバブル 115.43 GB オンライン	HDBN6P1IX64 (F:) 115.43 GB NTFS 正常 (アクティブ、プライマリ パーティション)
--	--

4

オプションの選択

必要に応じてオプションを選択します。

○ オプションの詳細

■ SMBv1 (Server Message Block Version 1) を有効化する

SMB (Server Message Block) は、ファイルを共有するためのプロトコル (規約) ですが、脆弱性の観点から使用が推奨されなくなりました。しかし、古い NAS では SMBv1 を使用していることがあり、その場合、無効のままでは NAS にアクセスができません。

このオプションを使用すると Windows PE 起動用メディアの作成時に SMBv1 を有効にしますので、古い NAS にもアクセスできるようになります。

■作成終了後、Windows ADK をアンインストールしない

従来は、Windows PE 起動用メディアの作成終了後に Windows ADK (アドオンも含む) を必ずアンインストールしていましたが、このオプションを使用することでアンインストールを行わないようにします。このオプションにチェックを入れることで、毎回 Windows ADK のインストールとアンインストールを行うことによる問題を防ぎ、作成時間を短縮する効果があります。



USB 接続の HDD/SSD を起動用メディアとする

BackUp Next は、USB 接続の HDD/SSD を Windows PE 起動用メディアとすることができませんが、いくつかの注意事項・制限事項があります。

- ・ USB 接続の HDD/SSD は、パーティションが存在しない空（ディスク全体が未割り当て）の状態である必要があります。空でない場合は作成できませんので、あらかじめパーティションをすべて削除してください。
- ・ 作成先のファイルシステムは、起動中の Windows 環境（OS、ディスクスタイルなど）から判断して自動的にフォーマットされるため、MBR 環境では 2TB を超える領域が使用できません。
- ・ USB メモリーと同様に 2 つのパーティションが作成され、後方のパーティションにはバックアップファイルを保存できます。
- ・ 一度「Windows PE 起動用メディア」としたディスクは、パーティションが存在していても使用できます。後方のパーティションに存在するデータはそのまま残りますので、製品のアップデータを適用した場合は、ファイル更新のため「Windows PE 起動用メディアの作成」を再度行ってください。

使用可能なディスクの状態

ディスク 3 ベーシック 238.46 GB オンライン	238.46 GB 未割り当て
---------------------------------------	--------------------

作成後のディスクの状態

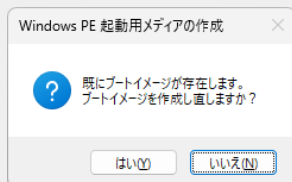
ディスク 3 ベーシック 238.46 GB オンライン	ARKPETOOL 4.00 GB FAT32 正常 (ベーシック データ パーティ)	ARKPEDATA (G:) 234.46 GB NTFS 正常 (ベーシック データ パーティション)
---------------------------------------	---	--



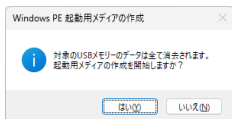
ブートイメージの再作成

「Windows PE 起動用メディアの作成」で一度起動用メディアを作成すると、インストールフォルダーにブートイメージファイルが作成されます。次回の作成からこのブートイメージをメディアに書き込みますので作成時間が短くなります。

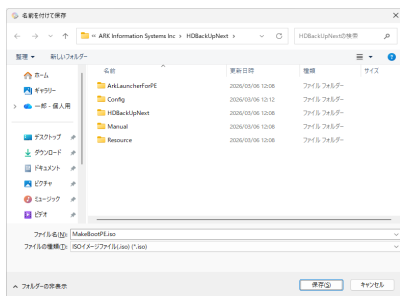
ただし、製品のアップデータを適用した場合は、更新したファイルでブートイメージを作成し直す必要がありますので、「はい」をクリックしてください。



USB メモリーを指定した場合は、以下のメッセージが表示されます。USB メモリー内のデータは削除され元に戻すことはできませんので、必要なデータが残っていないことを確認してから作成を開始してください。

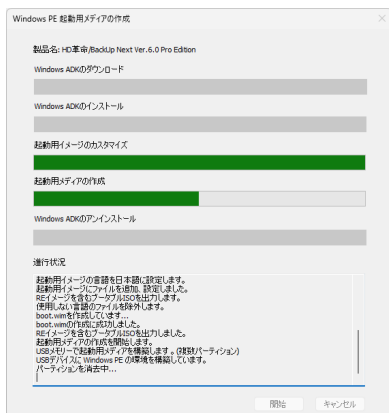


ISO イメージファイルとして保存する場合は、保存場所を指定します。

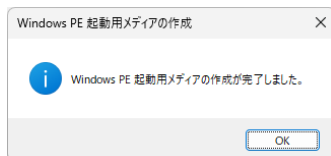


Windows PE 起動用メディアの作成中は進行状況が表示され、操作ごとの状況が確認できます。

ただし、Windows ADK のダウンロードを行わない作成方法の場合、実際の操作を伴わないプログレスバーはグレー表示となります。途中で「ドライブ X: をフォーマットする必要があります。」とメッセージが表示されることがありますが、「キャンセル」をクリックし、フォーマットは実行しないでください。



Windows PE 起動用メディアの作成が完了すると次のメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。



Windows PE 起動用メディアでコンピューターを起動

BackUp Nextで作成したWindows PE 起動用メディアでコンピューターを起動し、バックアップ・復元を行うことができます。

1 コンピューターを起動

起動用 CD をドライブに挿入（起動用 USB メモリーと USB 接続 HDD/SSD は USB ポートに接続）した状態でコンピューターを起動します。

2 起動の選択（CD/DVD/BD の場合）

次のメッセージが表示されている間に、キーボードで何かキーを押します。

Press any key to boot from CD or DVD...

- Windows PE 起動用メディアから起動できない場合は、起動できるようにコンピューターの設定を変更する必要があります。1-3 ページのコラムを参考にしてください。なお、変更方法が不明な場合は、ご使用のコンピューターメーカーにお問い合わせください。



デバイスドライバーのインストールとドライブレターの割り当て

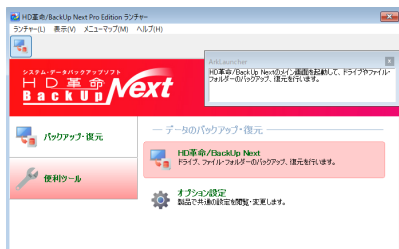
Ark ランチャーで、「便利ツール」→「デバイスドライバーのインストール」と選択し、ドライバ情報ファイル（inf ファイル）を選択して RAID や SATA などのデバイスドライバーを追加できます。ディスクが認識できている場合はこの操作は不要です。

デバイスドライバーのインストール後にデバイスが認識されていてもドライブレターが表示されていない場合は、「便利ツール」→「ドライブレターの割り当て」と選択してください。ドライブレターが割り当てられます。なお、この操作を行う際にメッセージや画面は表示されません。

3 Ark ランチャーの起動

Ark ランチャーが起動しますので、操作を選択します。操作手順は各機能のページを参照してください。

なお、ディスクが認識されていない場合は、左下のコラムを参照し、デバイスドライバーをインストールしてください。



Windows PE 起動用メディアの制限

Windows PE 起動用メディアで起動して操作を行う場合、Windows 上で操作を行う場合と異なり、すべての機能が使用できず、以下の機能が制限されます。

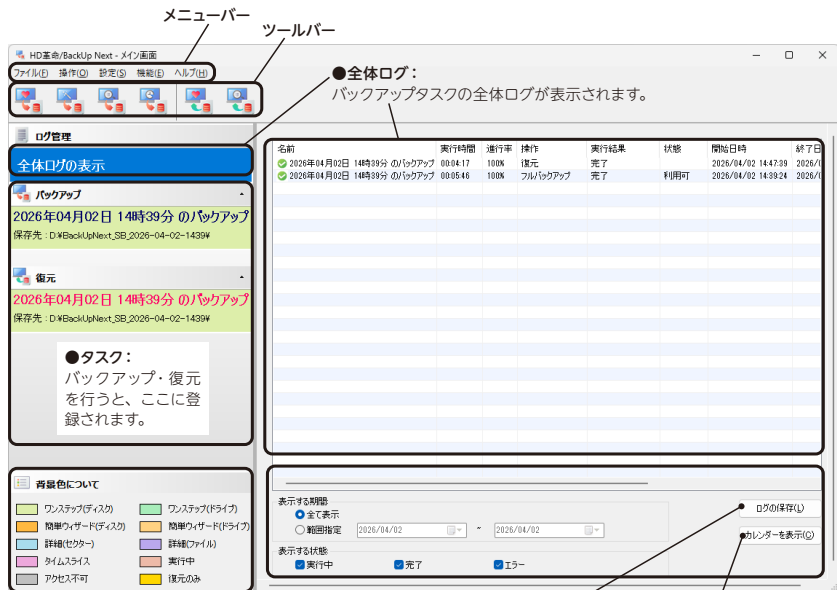
- ・タイムスライスバックアップ
- ・バックアップ時の差分、増分の選択
- ・スケジュールの設定
- ・バックアップ方式の選択
- ・バックアップ完了後に実行する動作のスリープと休止状態
- ・Windows PE 起動用メディアの作成
- ・バックアップファイル名やフォルダー名の日本語入力
- ・メイン画面のメニューでグレー表示となり選択できない機能

BackUp Next のメイン画面

メイン画面は、**BackUp Next** の各操作機能を一元管理する画面となっています。バックアップや復元のタスク、ログの確認のほか各種機能呼び出し、実行することができます。

「HD 革命 / BackUp Next」を選択 — メイン画面

Ark ランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命 / BackUp Next」を選択します。
BackUp Next のメイン画面が起動します。



タスクはバックアップの種類により背景色が変わります。

●ログの表示と保存:
ログの表示を期間や状態に応じて変更できます。
「ログの保存」をクリックすることで、表示されているログを保存できます。

●カレンダーを表示:
バックアップの状況を確認できます。

〈バックアップタスク選択時の画面〉

バックアップタスクを選択すると、そのタスクの個別ログが表示されます。

●バックアップの詳細：
バックアップタスクの詳細が表示されます。

バックアップのタスク
を選択

●個別ログ：
選択したバックアップタスクの
個別ログが表示されます。

〈復元タスク選択時の画面〉

復元タスクを選択すると、そのタスクの個別ログが表示されます。

●復元の詳細：
復元タスクの詳細が表示されます。

復元のタスクを選択

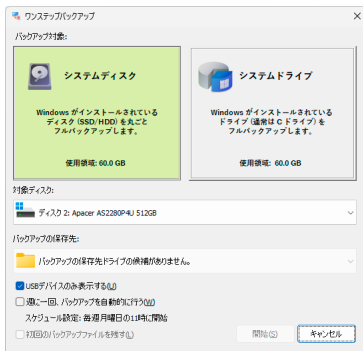
ツールバーの各機能

ツールバーでは、バックアップ、復元の各機能呼び出すことができます。



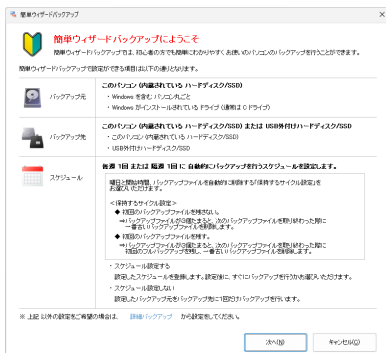
ワンステップバックアップ

ワンステップバックアップの操作画面を呼び出します。



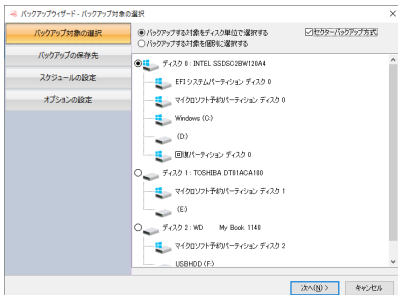
簡単ウィザードバックアップ

簡単ウィザードバックアップの操作画面を呼び出します。



詳細バックアップ

詳細な設定を行いながらバックアップを行うバックアップウィザードを呼び出します。



タイムスライスバックアップ

タイムスライスバックアップの設定を行います。





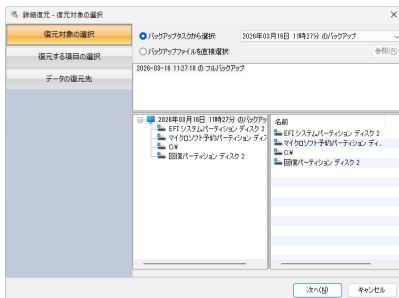
簡単復元

簡単復元を行うための復元ウィザードを呼び出します。



詳細復元

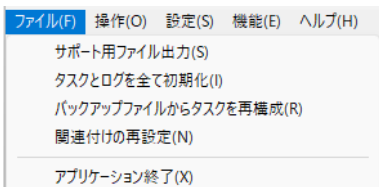
詳細復元を行うための復元ウィザードを呼び出します。



メニューバーの各機能

メニューバーでは、タスクとログに関する各操作と、設定画面を呼び出します。

「ファイル」メニュー



●サポート用ファイル出力

このメニューを選択すると、サポートに必要なコンフィグファイルとログファイルが圧縮されて ZIP ファイルとして出力されます。ユーザーサポートにて要請があった場合に、出力されたファイルを送付することで問題が解決できる場合があります。

なお、出力する情報に個人情報は含まれていません。

●タスクとログを全て初期化

このメニューを選択すると、メイン画面上に登録されているバックアップや復元のタスクとログがすべて削除されます。また、設定されているバックアップのスケジュールも削除されます。

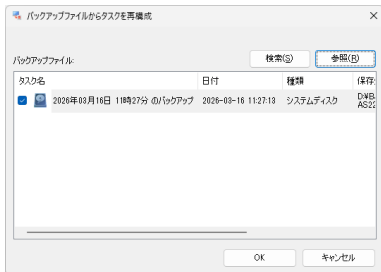
ただし、作成したバックアップファイルは削除されませんので、バックアップファイルを直接指定して復元は可能です。

一度初期化を行うと元の状態に戻すことはできませんので、よく確認してから実行するようにしてください。

●バックアップファイルからタスクを再構成

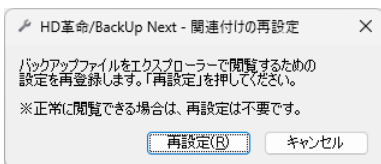
このメニューを選択すると、以下の画面が表示されます。「検索」または「参照」ボタンをクリックし、再構成を行いたいタスクを

追加します。ただし、タイムスライスバックアップで作成したタスクと旧バージョンで作成したタスクは再構成することができません。



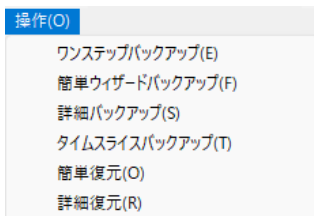
●関連付けの再構成

このメニューは、Windows のエクスプローラーにおけるバックアップファイル (HDB ファイル) の関連付けを、インストール時の状態に再設定します。バックアップファイルのマウントができなくなった場合に使用します。



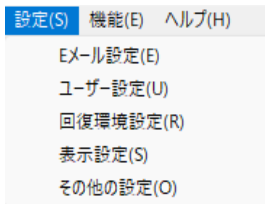
「操作」メニュー

ツールバーのボタンと同じ「バックアップ」と「復元」の機能呼び出します。



「設定」メニュー

「オプション設定」から呼び出す設定画面でタブを指定して表示します。

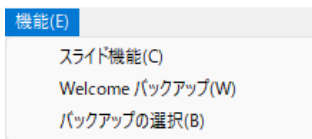


Point

「Eメール設定」と「ユーザー設定」は、Pro Edition のみ選択できます。

「機能」メニュー

「スライド機能」、「Welcome バックアップ」、「バックアップの選択」の操作画面を呼び出します。



 Ark ランチャーの「オプション設定」

「設定」メニューの画面は、Ark ランチャーの「オプション設定」からも呼び出すことができます。



設定メニューの各機能

「設定」メニューでは、メールの通知やバックアップの起動、表示などを設定することができます。

Pro Edition のみ

E メールの設定

「状態をメールで送信する」にチェックを入れると、このタブで設定した内容でメールを送信することができます。

ただし、メール送信機能は、プロバイダーやメールソフトによっては利用できない場合があります。Windows PE 起動用メディアで起動した場合は、E メールの設定はできません。



a メールアドレス

送信元と送信先のメールアドレスを入力します。送信元と送信先が、同じメールアドレスでもかまいません。

b サーバー

・SMTP サーバー

SMTP サーバーのアドレスを入力します。設定内容は、プロバイダーや管理者の方に確認してください。

・暗号化

暗号化は、以下の 3 方式から選択できます。変更時にポート番号が方式ごとの既定値に更新されます。

方式を変更後にポート番号を変更することで、既定値以外のポート番号を設定できます。

なし：暗号化なしのメール送信を行います。ポート番号は 25 となります。

SSL：OpenSSL の「SSL」方式を使用してメール送信を行います。ポート番号は 465 となります。

TLS：OpenSSL の「TLS」方式を使用してメール送信を行います。ポート番号は 587 となります。

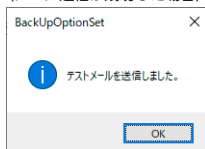
・SMTP 認証を行う

SMTP のアカウント名とパスワードを入力します。設定内容は、プロバイダーや管理者の方に確認してください。

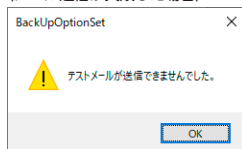
・送信テスト

「送信テスト」ボタンをクリックすると、設定したメールアドレスに対してテストメールを送信します。

〈メール送信が成功した場合〉



〈メール送信が失敗した場合〉



⑥ 送信するタイミング（トリガー）

チェックを入れたタイミングでメールを送信します。

・処理開始時

バックアップや復元の開始時にメールを送信します。

・処理終了時

バックアップや復元の終了時にメールを送信します。ただし、システムドライブの復元のように、再起動して復元を行うような復元方法では、メールの送信は行われません。

・エラー発生時

エラーまたはキャンセルを行った時にメールを送信します。

・バックアップの空き領域が少なくなった時

バックアップファイルの保存先領域が、指定したサイズ以下となった場合にメールを送信します。

〈送信されるメールの例〉

--Ark Information Systems Inc.「HD 革命 /BackUp Next」ログ
ファイル --

HDBackUp Next - BackUp Start -

コンピューター名：ARK

IP アドレス：111.11.11.11

タスク名：C ドライブのフルバックアップ

バックアップファイル名：C ドライブのフルバックアップ .hdb

タスク種類：バックアップ

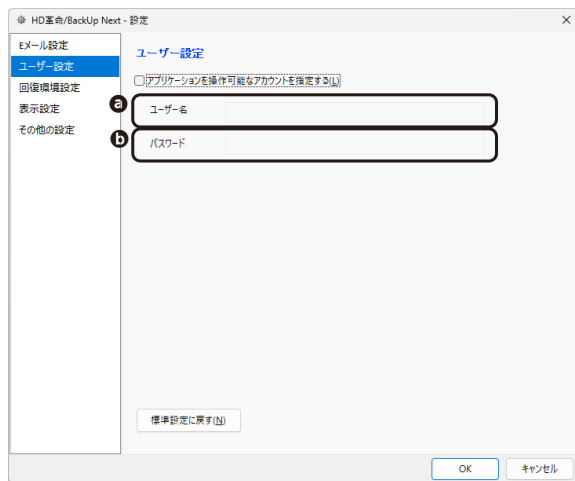
バックアップ種類：フルバックアップ

開始日時：2020-11-01 12:00:00

ユーザー設定

「アプリケーションを操作可能なアカウントを指定する」にチェックを入れると、指定したユーザー以外は **BackUp Next** を起動することができなくなります。

Windows PE 起動用メディアで起動した場合は、ユーザー設定はできません。



① ユーザー名

管理者権限を持つローカルアカウントを入力します。マイクロソフトアカウントでサインインしている場合は、ユーザーフォルダー名として指定されている文字（マイクロソフトアカウントの最初の 5 文字）を入力します。

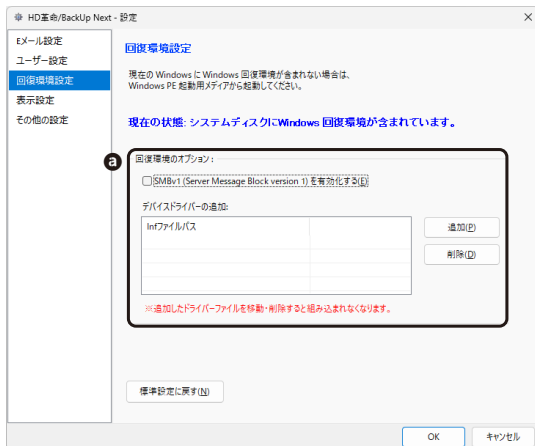
② パスワード

ユーザー名で入力したユーザーのサインインパスワードを入力します。マイクロソフトアカウントの場合でも PIN は使用できません。

回復環境設定

回復環境のオプションを設定します。SMBv1 (Server Message Block version 1) の有効化とデバイスドライバの追加を行うことができます。

Windows PE 起動用メディアで起動した場合は、回復環境設定はできません。



a 回復環境のオプション

- ・ SMBv1 (Server Message Block version 1) を有効化する

このオプションは、SMBv1 にしか対応していない古い NAS をバックアップ先とした場合にチェックを入れます。

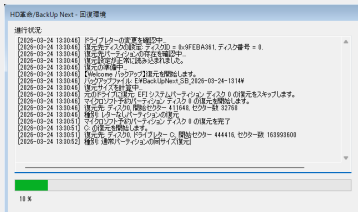
・デバイスドライバの追加

内蔵ディスク、その他ハードウェアを認識させるためのデバイスドライバを追加する必要がある場合に、そのセットアップ情報ファイル (inf ファイル) を指定します。ここで指定したデバイスドライバは、起動用イメージを作成する際に自動的にインストールされます。

指定するファイルは inf ファイルですが、inf ファイル単体では動作しませんので sys ファイルなど必要なファイルを inf ファイルと同じ場所に置いてください。

Point

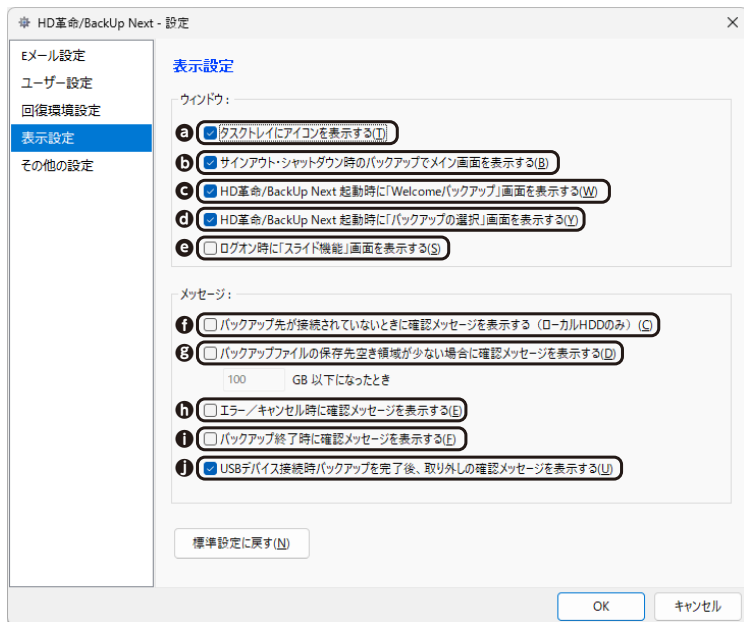
回復環境でバックアップ、復元中は、次のような画面で進行状況が表示されます。**BackUp Next**では、この環境を「回復環境」といいます。Windowsの回復パーティションから起動用イメージを作成するため、システムディスクに回復パーティションが存在しない場合は選択できません。



表示設定

BackUp Next を使用する際のウィンドウとメッセージの表示に関する設定を行います。

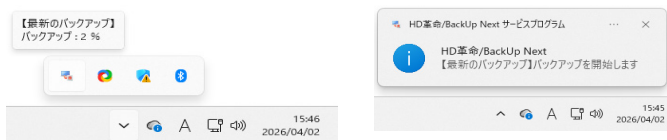
Windows PE 起動用メディアで起動した場合は、「ウィンドウの表示設定」の各チェックボックスは使用できません。



a) タスクトレイにアイコンを表示する

タスクトレイにアイコンが表示され、バックアップや復元の進行状況を確認できます。また、バックアップ開始や終了時にポップアップメッセージがスライドして表示されます。

このメッセージは、Windows のアクションセンターにも通知されます。



⑥ サインアウト・シャットダウン時のバックアップでメイン画面を表示する

サインアウトやシャットダウン時にスケジュールでバックアップを行うように設定している場合に、**BackUp Next** のメイン画面を表示するかを設定します。

ただし、サインアウトやシャットダウン時はロック画面が表示されて実行されるため、サインインしなければ確認ができません。

⑦ HD 革命 /BackUp Next 起動時に「Welcome バックアップ」画面を表示する

BackUp Next の起動時の「Welcome バックアップ」画面を毎回表示するかを設定します。

⑧ HD 革命 /BackUp Next 起動時に「バックアップの選択」画面を表示する

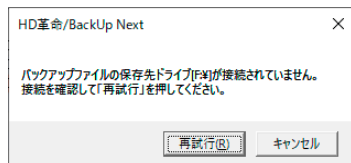
BackUp Next の起動時の「バックアップの選択」画面を毎回表示するかを設定します。

⑨ ログオン時に「スライド機能」画面を表示する

インストール後の初回ログオン時に表示された「スライド機能」画面を毎回表示するかを設定します。

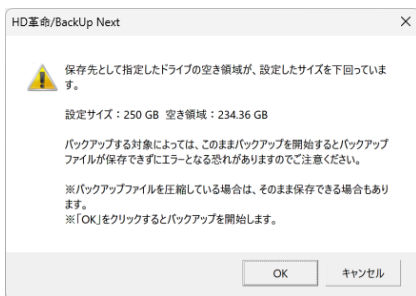
⑩ バックアップ先が接続されていないときに確認メッセージを表示する（ローカル HDD のみ）

USB デバイス（HDD/SSD）にバックアップを行う場合、バックアップ先が接続されていないときに確認メッセージが表示されます（ローカルディスクのみ）。



⑪ バックアップファイルの保存先空き領域が少ない場合に確認メッセージを表示する

バックアップファイルの保存先として指定したドライブの空き領域が、指定したサイズ以下となった場合にメッセージが表示されます。

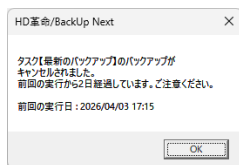


Point

この情報メッセージは、5分経過すると自動的に閉じ、バックアップを開始します。

① エラー／キャンセル時に確認メッセージを表示する

バックアップ時にエラーが発生した場合や処理をキャンセルしたときに、次のような情報メッセージが表示されます。



Point

この情報メッセージは、3分経過すると自動的に閉じます。

① バックアップ終了時に確認メッセージを表示する

バックアップが終了したときに、メッセージが表示されます。

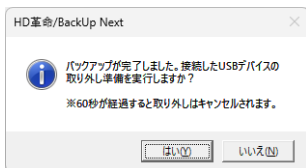


Point

この情報メッセージは、3分経過すると自動的に閉じます。

① USB デバイス接続時バックアップを完了後、取り外しの確認メッセージを表示する

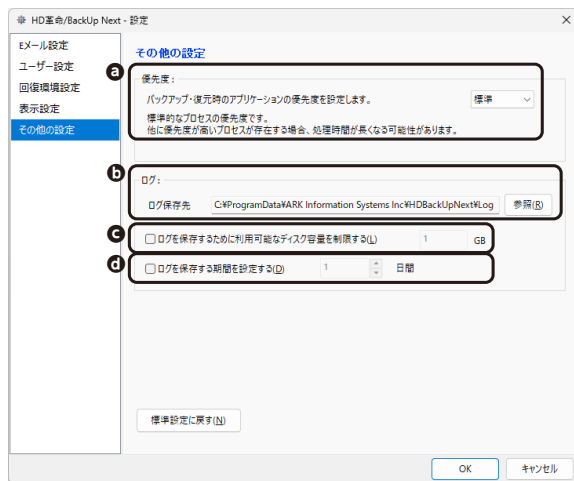
USB デバイス (HDD/SSD) にバックアップを行う場合、完了後に次のような取り外しメッセージを表示します。



その他の設定

BackUp Next で作成する優先度とログファイルに関する設定を行います。ログファイルはサポートを受ける際に使用する場合があります。

Windows PE 起動用メディアで起動した場合は、その他の設定はできません。



① 優先度

バックアップ・復元時の **BackUp Next** の優先度を高、標準、低の3段階から選んで設定します。他のアプリケーションと同時に使用する場合に適宜選択してください。

② ログ保存先

ログファイルの保存先を指定します。既定では「ProgramData」フォルダーに作成されます。

ログをシステムドライブに保存している場合、選択した復元動作によってはログファイルが更新されてしまい、過去の情報が消えてしまうことがあります。ログを別のドライブに保存することで、このようなことを回避することができます。

③ ログを保存するために利用可能なディスク容量を制限する

ログファイルは、**BackUp Next** を使用するほどサイズが大きくなります。このファイルを作成するディスク領域を制限することで、空き領域が不足するのを防ぐことができます。

④ ログを保存する期間を設定する

ログを保存する期間を設定します。指定した期間を超えると、ログファイルの内容がクリアされ、新たなログの記録が始まります。

BackUp Next をご利用時の注意事項・制限事項

安全にご利用いただくために

BackUp Next を安全にご利用いただくために、以下の点に注意して操作を行ってください。

- ・バックアップ・復元には、ドライブの容量、ファイル（フォルダー）の数、ハードウェアの速度によっては大変時間がかかることがありますので、あらかじめご了承ください。
- ・ノート型コンピューターをご利用の場合はバックアップ・復元中のバッテリー切れ防止のため AC アダプターの使用をおすすめします。
- ・ディスクに論理的、物理的エラーが存在する場合があります。Windows の「チェックディスク」などでエラーチェックを行い、正常な状態で使用してください。
- ・バックアップ・復元、各ツールの処理が実行されている間は、周辺機器（ハードディスク、USB 接続 HDD/SSD など）の接続・取り外しは行わないようにしてください。
- ・バックアップ中にコンピューターの電源を切ったりリセットボタンを押したりすると、データが失われる可能性がありますので、行わないようにしてください。
- ・操作完了や再起動の選択メッセージが表示されたときに、ディスクのアクセスランプが点滅しているような場合は、点滅が収まるまで待ってから操作を行ってください。
- ・お使いの環境やインストールされているソフトウェアによっては、正常に動作しないことがあります。このような場合は、常駐ソフトウェアの停止や周辺機器の取り外しを行うことで、動作するようになることがあります。
- ・不測の事態に備え、バックアップは定期的に行い、複数個のバックアップファイルを保存しておくことをおすすめします。特に大切なデータは個別に別のディスクや USB メモリ

ーなどに保存するとより安全です。

バックアップ時

BackUp Next でバックアップを行う場合に、以下の注意・制限事項があります。

●ファイルシステムについて

- ・対応ファイルシステムは FAT32、NTFS、exFAT となります。ReFS は非対応となります。
- ・ファイルシステムが ReFS の場合、バックアップファイルの保存先ドライブとしても選択できません。
- ・対応ファイルシステムであっても、ダイナミックディスクの環境では使用できません。

●バックアップ元のディスクについて

- ・USB メモリーや各種メモリーカードは、バックアップ元として選択できません。
- ・「セクターバックアップ方式」では、ネットワークドライブをバックアップ元として選択できません。
- ・HPA (Hidden Protected Area) や DtoD や、その他の隠し領域をバックアップすることはできません。
- ・システムドライブ（通常は C ドライブ）をバックアップする場合、Windows が起動するために必要な「システムで予約済み」、「回復パーティション」、「EFI ファイルシステム」、「MSR ディスク」も一緒に選択されバックアップします。
- ・仮想ディスクドライブ（VHD など）のバックアップ／復元については、動作保証外となりサポートは行いません。

●バックアップ対象データについて

バックアップされるのは、バックアップ開始

前（開始した時点）のデータです。バックアップ開始後に作成・変更したデータはバックアップされません。

●バックアップ中の使用領域と使用メモリーの関係について

バックアップ中は、バックアップを行うドライブの使用領域 1GB に対し、約 1MB のメモリーを使用します（例：100GB 使用している場合は 100MB）。

バックアップ元ドライブで使用されている領域と、コンピューターに搭載されているメモリーの使用状況によっては、メモリーが不足してバックアップができない場合があります。

●EWF 方式でバックアップを行う場合の注意事項

「セクタイメージを作成する」のオプションにチェックを入れてバックアップを行う場合に、バックアップ方式で EWF 方式を選択できます。EWF 方式に関して以下の注意事項があります。

- ・バックアップ中に一時ファイル（2-36 ページ）が指定した容量に達するとバックアップがキャンセルされ、一時ファイルの内容を破棄しコンピューターを再起動します。再起動後、バックアップ中だったパーティションは、バックアップタスクとログを含めバックアップを開始した時点のデータに戻されます。
- ・バックアップ終了後は、一時ファイルの内容がディスクに書き戻されます。書き戻し作業中は、絶対にコンピューターの電源を切る、リセットを行うことはしないでください。このような操作を行った場合、Windows が起動できなくなる可能性があります。

●システムドライブをバックアップするときの注意事項

システムドライブをバックアップするときに、Windows を起動するために必要なパーティ

ション（「システムで予約済み」や「回復パーティション」、「EFI システム」など）やファイル、フォルダーを除外すると、復元したときに正常に Windows が起動できません。システムドライブをバックアップする場合は、注意して選択を行うようにしてください。

なお、「ファイルバックアップ方式」では、システムドライブのルートディレクトリを選択して丸ごとバックアップすることはできません。

●リライタブルメディアの消去について

書き換え可能メディア（リライタブルメディア）を使用する場合は、バックアップ前にすべてのメディアを「メディアの消去」で消去してから使用してください。なお、BD-RE は新品のメディアでも必ず消去を行ってください。

●メディアへの直接バックアップについて

バックアップ先に光学ドライブを直接指定してバックアップを行う場合は、フルバックアップのみとなります。差分、増分バックアップは選択できません。また、スケジュールやサイクル設定などの一部オプションも指定できません。

なお、BD-R/RE メディアは 2 層（DL）までの対応となり、3 層と 4 層（XL）には対応していません。

●USB メモリーへのバックアップについて

USB メモリーにバックアップを行う場合は、複数の USB メモリーに分割してバックアップすることはできません。

バックアップする容量に対して十分な容量の USB メモリーを使用してください。

●スケジュールを設定してバックアップを行うときの動作について

バックアップタスクのスケジュールが重なった場合、後から起動したバックアップタスクは待機中となり、はじめに起動したバックアップタスクが終了後に次のバックアップタスクが開

始されます。これは、実行されなかったスケジュールを選択して実行する「実行するタスクの選択」画面で複数のタスクを選択した場合も同様です。

ただし、バックアップタスクを手動で開始した場合のように、バックアップ実行中にそのタスクのスケジュールが開始時刻になった場合は、スケジュールは待機中にはならずスキップされます。

なお、「サインイン時」と「コンピューター起動時」、「サインアウト時」と「シャットダウン時」を同時にスケジュール設定した場合は、どちらか片方のスケジュールのみ実行され両方のタスクスケジュールを実行することができません。Windows の起動時または終了時のスケジュールは、どちらか1つを選択するようにしてください。

●シャットダウン時のバックアップについて

スケジュールで「シャットダウン時」にバックアップを行うように設定している場合、Windows のシャットダウンを実行しようとしたタイミングでバックアップが開始されます。バックアップは、ロック画面が表示された状態で行われていますので、電源ボタンを押すなどしてシャットダウンは行わないようにしてください。

Windows のバージョンによっては、青い画面でバックアップ中であることが表示されます。この場合でも「強制的にシャットダウン」ボタンを押すことや、電源ボタンを押すなどしてシャットダウンを行うことはしないようにしてください。

●差分、増分バックアップを行う場合の制限事項

差分、増分バックアップを行う場合は、バックアップ方式により以下のような制限事項があります。その他の制限事項は、2-2、2-3 ページを参照してください。

セクターバックアップ方式

- ・差分、増分を行うことができるファイルシステムは FAT32 と NTFS となります。
- ・設定できるバックアップタスクの数は、差分、増分を合わせて 10 個までとなります。11 個目のタスクを作成しようとした場合、バックアップウィザードでメッセージが表示され作成できません。
- ・バックアップ対象のディスクに対してパーティションサイズの変更や、パーティション数の増減、ドライブ文字の変更を行うとバックアップを継続することができなくなります。

ファイルバックアップ方式

- ・ドライブ文字を変更したときなど、バックアップ対象のパスが変更（例：D:\abc から E:\abc）されるとバックアップは継続できなくなります。

●バックアップ時に処理できなかったファイルについて

ファイルバックアップ方式でバックアップする際に、バックアップ対象のファイルが読み込めなかった場合は、バックアップ完了後のログに「完了（警告あり）」と表示されます。この警告は Windows により特殊な権限で作成されたファイルをバックアップするような場合に表示されますが、ファイルを読み込んでいる途中でそのファイル自体が削除されてしまうような場合も該当します。

「完了（警告あり）」と表示されているログの「情報」列を見ると、「処理できなかったファイルがあります。」と表示されていますので、ログを右クリックして「タスクログ」を選択し、処理できなかったファイルの内容を確認してください。

なお、該当ファイルが Windows や他社製アプリケーションによって一時的に作成されるファイル（テンポラリファイル）であれば「完了（警告あり）」と表示されていても問題ありません。

●サイクルバックアップにおけるファイル削除時の表示について

サイクルバックアップファイルで保持するサイクル数が指定された回数に達すると、古いサイクルのバックアップファイルから順に削除されます。ファイルが削除されるタイミングは、指定した回数のフルバックアップが完了した後となり、ファイルが削除されると同時にそのサイクルバックアップに対応するログも削除されます。

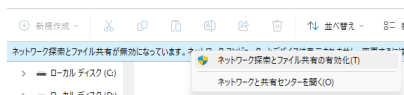
新しく作成されたバックアップのログには、「完了（情報あり）」と表示され、「情報」列には、「古いサイクルのバックアップファイルを削除（サイクル設定）」と記載されます。

●スケジュールを設定したネットワークドライブへのバックアップについて

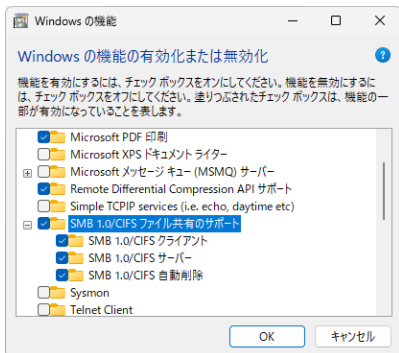
スケジュールを設定してネットワークドライブにバックアップを行う場合、サインインしていないとバックアップはエラーとなり実行されません。なお、このように一度エラーとなったバックアップタスクは、次のスケジュール開始時刻となってもバックアップを実行できなくなります。こちらを解決するには、一度コンピューターを再起動する必要があります。

●バックアップ先をネットワークドライブにする場合の注意事項

バックアップ先をネットワークドライブとする場合、ネットワーク探索を有効にする必要があります。Windows の「ネットワーク」を開いた時に次の画面のような「ファイル共有が無効です。…」というメッセージが表示された場合は、その文字部分をクリックして有効化してください。この設定は、コントロールパネルの「ネットワークと共有センター」でも変更できます。



環境により SMB 1.0 の設定を有効にする必要があります。「コントロールパネル」→「プログラム」→「Windows の機能の有効化または無効化」と選択し、「SMB 1.0/CIFS ファイル共有のサポート」にチェックを入れて有効化してください。



また、ネットワークドライブの設定によっては、アクセスするためのユーザー名とパスワードの入力が必要となることがあります。

復元時

BackUp Next で復元を行う場合に、以下の注意・制限事項があります。

●システムドライブを復元するときの注意事項

「セクターバックアップ方式」でバックアップした「システムドライブ」を復元対象とする場合、必要なシステムパーティション（「システムで予約済み」、「回復パーティション」、「EFI システムパーティション」、「マイクロソフト予約パーティション」）も同時に選択されますので、そのまま復元を行うようにしてください。

●リムーバブルディスク接続時の制限事項

復元時に USB メモリーや SD カードを接続したまま復元を行うと、復元後の Windows

環境でドライブ文字の順番が変わってしまうことがあります。このようなことを避けるため、「回復環境で復元」を行う場合はリムーバブルディスクを外してから復元を開始してください。なお、バックアップファイルが保存されているドライブの文字が変更されると、メイン画面のタスクがグレー表示となり操作できなくなります。ドライブ文字をタスクの保存先に記載されている文字に戻してください。

●「Windows」フォルダーを選択して復元することについて

「ファイルバックアップ方式」は、「システムドライブ」のルートディレクトリは選択できないため丸ごとバックアップすることはできませんが、「Windows」フォルダーを個別に選択してバックアップすることは可能です。「Windows」フォルダーをバックアップしたバックアップファイルから、現在起動中の「システムドライブ」にある「Windows」フォルダーに対して復元を行うと Windows が正常に起動しなくなる恐れがあります。このような方法で Windows の修復やほかのコンピューターへの Windows の環境移行はできませんので、復元は行わないようにしてください。

●特定のアプリケーションフォルダーのみ選択して復元することについて

アプリケーションをインストールすると、ほとんどの場合「Program Files」フォルダーにファイルが保存されます。「Program Files」フォルダー丸ごと、または特定のアプリケーションフォルダー（例：Microsoft Office など）のみバックアップし、バックアップ時とは異なる環境（Windows を初期状態に戻した環境や別のコンピューター環境）に復元しても、復元したアプリケーションが正しく起動できません（アプリケーションによってはまれに動作するものもあります）。これは、アプリケーションが使用するレジストリーや別の場所に作成され

ている設定ファイルを復元していないために起こります。特定のアプリケーションのみバックアップして、別の Windows 環境にアプリケーションを移行するような引越機能はありませんのでご了承ください。

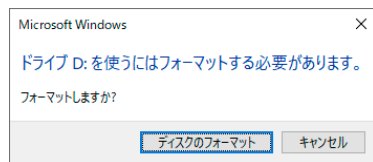
●異なるディスクスタイルへの復元について

GPT 環境のパーティションをバックアップし、MBR 環境のパーティションに対して「パーティション単位」で復元を行うことはできません。その逆も同様です。ただし、選択した復元先が「未割り当て」の場合に限り、ディスクを初期化して復元を行うことができます。

「ディスク単位」での復元は復元前にディスクを初期化しますので、パーティションスタイルが異なっても復元は可能です。このとき、復元先ディスクのデータはすべて消去させていただきますので注意してください。

●復元時のフォーマットダイアログについて

Windows 上で起動中のシステムドライブ以外に復元を行う場合、復元先として指定したドライブをフォーマットするかどうかのダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示されても、何もせずにそのままにしておいてください。



●別のコンピューターへの復元について

・バックアップを行ったコンピューターとは別のコンピューターにシステムドライブを復元する場合、必ずしも復元先のコンピューターの OS が正常に起動できるとは限りません。また、インストールされているアプリケーションについても正常に使用できないことがあ

ります。すべての環境における動作保証はできませんのでご了承ください。

- ・復元先のコンピューターでライセンスの再認証が必要です。ライセンス認証においては、マイクロソフトまたはコンピューターのメーカーにお問い合わせください。ライセンス規約に違反することがないように十分に注意してください。

●復元時にスキップされたファイルについて

ファイルバックアップ方式でバックアップしたファイルを復元する際に、復元対象のファイルがロックされているとファイルを上書きできません。このような場合は、復元完了後のログに「完了（警告あり）」と表示されます。

「完了（警告あり）」と表示されているログの「情報」列を見ると、「スキップされたファイルがあります。」と表示されていますので、ログを右クリックして「タスクログ」を選択し、スキップされたファイルの内容を確認してください。

Windows PE 起動用メディアから 起動してバックアップ・復元する場合

あらかじめ Windows PE 起動用メディアを作成することで、Windows PE 上でインストールしたのと同様にバックアップ／復元を行うことができます。このとき、以下の注意・制限事項があります。

- ・Windows PE は、起動から 72 時間後に自動的にコンピューターを再起動します。バックアップ／復元操作中でも強制的に再起動されますので、起動時間にご注意ください。
- ・Windows PE 起動用メディアで起動した場合、差分、増分のバックアップとスケジュールを設定してバックアップを行うことができませんので、関連するオプションは表示されません。
- ・Windows PE 起動用メディアで起動して復元する場合、「項目から選択」機能を使用す

ることはできません。

- ・ディスクの認識する順番やドライブ文字が、Windows 上とは異なる場合があります。ドライブをよく確認してから復元を行ってください。
- ・UASP に対応している USB メモリー、USB 接続 HDD/SSD を Windows PE 起動用メディアとする場合、コンピューターのチップセットによっては、特定の USB ポートに接続していると認識できない場合があります。この場合は、接続する USB ポートを変更してみてください。
- ・RAID や SCSI の環境では、ディスクを認識するためのドライバーが必要になる場合があります。CD/USB デバイスから起動後にディスクが認識されていない場合は、ドライバーをインストールしてください。ドライバーの入手方法はコンピューターのメーカーにお問い合わせいただくか、コンピューターに付属しているマニュアルなどをご確認ください。
- ・CD/USB デバイスから起動するためには、BIOS の設定変更が必要になる場合があります。起動の方法については、ご使用されているコンピューターのメーカーにお問い合わせいただくか、コンピューターに付属しているマニュアルなどをご確認ください。
- ・Windows PE 起動用メディアで起動した場合も「バックアップファイルからタスクを再構成」することはできますが、タスクの詳細設定を変更しても設定は保存されず、コンピューターを再起動すると元に戻ります。

バックアップファイルからタスクを再構成時

メイン画面の「ファイル」メニューで、「バックアップファイルからタスクを再構成」を選択することで、メイン画面にタスクを再登録することができます。このとき、以下の注意・制限事項があります。

- ・同じ ID を持つタスクがすでにメイン画面に

登録されている場合、上書きするかどうかのメッセージが表示されます。上書きを行う場合は、既存のタスクを削除してからタスクの再構成が行われます。

- ・バックアップファイルをコピーするなどして、同じバックアップファイルが複数の場所に存在する場合、「検索」を行うと同じ ID をもつタスクが複数表示されることがあります。同じ ID を持つタスクは同時に登録できませんので、どれか 1 つを選択するようにしてください。
- ・差分、増分バックアップの場合は、初回のフルバックアップで作成された HDB ファイルを指定してタスクを再構成してください。
- ・タスクの再構成はドライブ文字など一部のタスク情報が現在のバックアップファイルの保存環境に合わせて変更されます。
- ・差分、増分バックアップを行っているタスクを再構成すると、次のバックアップの際はフルバックアップの取り直しが行われます。
- ・タイムスライスバックアップと Ver. 4 以前で作成したバックアップファイルは、タスクを再構成することができません。
- ・旧バージョンのバックアップファイルからタスクの再構成を行うことはできませんが、Ver.5.1.0 以降で作成したバックアップファイルが対応となります。なお、Ver.5.0.X のバックアップファイルであっても、復元を行うことはできます。

外部タスクとログファイルについて

バックアップファイルの保存先には、拡張子が「.hdb」と「.hdx」のバックアップファイルの他に、拡張子が「.etx」のファイルがあります。このファイルは「外部タスクファイル」といい、バックアップや復元を行うごとに更新されます。メイン画面に登録されているタスクの詳細設定や履歴が記録されていますので、削除しないようにしてください。なお、メイン画

面で「バックアップファイルからタスクを再構成」を行うことで再作成することができますが、詳細設定や履歴は初期化されます。

また、拡張子が「.log」のファイルは、復元方式で「回復環境で復元」を選択して復元を行った場合に作成されるログファイルとなります。ユーザーサポートを受ける際に必要となる場合がありますので、こちらも削除しないようにしてください。

名前	更新日時	種類
105887E00-7F32-45E4-9099-849C15D22C8F.etx	2022/05/18 19:47	ETX ファイル
AG1256G06A1138_SEC_2205131122.hdb	2022/05/13 11:28	HDBBackUpNextFile
AG1256G06A1138_SEC_2205131122.hdx	2022/05/13 11:28	HDX ファイル
Restore_2022-05-16.log	2022/05/16 18:49	テキストコメント

アンインストール時のタスクとログについて

BackUp Next をアンインストールするとき、ログとタスクを削除するか選択できます。タスクとログを残しておくと、再インストールしてもタスクとログはアンインストール時の状態に戻ります。ただし、アンインストールを行うことでスケジュールの設定が削除されてしまうため、スケジュールを設定しているタスクは、スケジュールの再設定（3-27 ページ）をする必要があります。

革命シリーズとの共存について

BackUp Next は、IHD 革命 /BackUp Ver.1 ~ Ver.12 (Ver.12s も含む) と同時にインストールすることはできません。セクターバックアップ方式における差分、増分バックアップの監視機能が共通のため、正しくバックアップを行うことができなくなります。

第2章

バックアップ

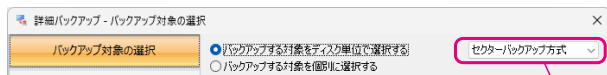


ここでは、Windowsが通常に起動した状態でバックアップする方法について説明しています。
BackUp Nextには、バックアップ対象の詳細な設定、差分・増分バックアップ、サーバーへのバックアップ、スケジュール設定ほか、多くの機能があります。

バックアップ方式について

BackUp Nextで行うバックアップには、セクター単位で行うバックアップ（以下「**セクターバックアップ方式**」）と、ファイル・フォルダー単位で行うバックアップ（以下「**ファイルバックアップ方式**」）があります。

2つのバックアップ方式には長所、短所があり、またそれぞれに制限事項があります。ここでは、バックアップ方式の違いについて説明します。



バックアップ方式はここで変更します。

セクターバックアップ方式

セクターバックアップ方式では、ディスクの最小記憶単位であるセクターを1セクターごとにバックアップします。

■長所

- ・ファイルバックアップ方式に比べ、比較的高速にバックアップが可能です。システムドライブのように、ファイル、フォルダーの個数が多いドライブのバックアップに適しています。

■短所

- ・バックアップ対象がディスク全体、またはパーティションとなりますので、任意のフォルダーのみ選択してバックアップするようなことはできません。
- ・差分バックアップや増分バックアップを行う場合、ディスクの最適化などが行われてディスク上のファイルの位置が変更されてしまうと、そのファイルの内容が変更されていなくてもバックアップ対象となります。
- ・バックアップファイルにインデックスを付加するため、同じ環境をバックアップしても、ファイルバックアップ方式と比べてバックアップファイルのサイズは大きくなります。

■制限事項

- ・複数のディスクを同時にバックアップ対象とする（例：ディスク0のCドライブとディスク1のDドライブを同時に選択する）ことはできません。
- ・差分バックアップ、増分バックアップを設定したタスクは、10個まで登録できます。既に10個のタスクが登録されている場合、それ以上差分バックアップ、増分バックアップのタスクを作成できません。
- ・バックアップ、復元時に、「項目から選択」、「ファイルの絞り込み」、「ファイルの除外」の機能を使用することはできません。
- ・バックアップ時のオプションで、「暗号化」を選択することはできません。
- ・バックアップファイルのマウントでバックアップファイルを参照する場合、exFATのドライブをバックアップしたファイルの中身を参照することはできません。

- ・複数のメディアに分割してバックアップした場合、バックアップ時とはサイズが異なるドライブへ復元することはできません。この場合は、ディスクにフォルダーを作成し、そのフォルダーへバックアップファイルをすべてコピーしてから復元を行ってください。
- ・復元後にディスクの中を参照するには、コンピュータの再起動が必要となる場合があります。

ファイルバックアップ方式

ファイルバックアップ方式では、バックアップ対象のドライブに存在するファイル、フォルダーの属性や権限を確認しながらひとつひとつバックアップします。

■長所

- ・バックアップしたいファイルをフォルダツリーの中から任意に選択してバックアップすることができますので、バックアップ対象を「ドキュメント」や「ピクチャ」フォルダーなどに絞ることも可能です。

■短所

- ・ファイル、フォルダーの個数が多くなればなるほど、それに比例してバックアップに時間がかかるようになります。ファイル、フォルダーの個数が多いドライブを丸ごとバックアップするにはあまり適していません。

■制限事項

- ・Windows がインストールされている「システムドライブ」が含まれる場合、そのディスクはディスク単位でバックアップできません。また、「システムドライブ」は、ルートディレクトリを指定してバックアップできません。
- ・他のユーザーがアクセス権を設定したファイル、フォルダーがある場合、そのファイル、フォルダーをバックアップ、復元することはできません。
- ・バックアップできるパスの長さは260文字までとなり、260文字を超えたファイル、フォルダーは、バックアップ対象としていてもバックアップされません。
- ・暗号化されたファイル、フォルダーをバックアップした場合、Windows PE 起動用メディアで起動して復元を行うとフォルダーの暗号化が解除されて復元されます。また、復元時のオプションで、「再起動後に復元する」を選択して復元を行うと、暗号化されたファイルは復元されません。フォルダーは暗号化が解除されて復元されます。
- ・圧縮されたファイル、フォルダーは、復元時のオプションで、「再起動後に復元する」を選択して復元を行うと、圧縮されていない状態となります。
- ・ネットワークドライブ上にあるファイルをバックアップする場合、バックアップ方式（2-36ページ）でMicrosoft VSS/ARK VSSによる保護は行われません。バックアップ中は、ファイルにアクセスしないようにしてください。

バックアップの種類について

BackUp Nextで行うバックアップには、初心者向けのものから上級者向けのものまで、いくつかの種類が用意されています。ここでは、そのバックアップの種類について説明します。



Welcomeバックアップ

「Welcomeバックアップ」は、画面のボタンを2回クリックするだけでWindowsがインストールされているディスクを丸ごと別のディスクにバックアップすることができます。設定はすべて自動で行われるためバックアップ先などの指定はできませんが、バックアップ機能や用語が難しいと感じる方や、とにかく手軽に丸ごとバックアップしたいという方におすすめです。

「Windows PE 起動用メディア」で起動した場合は選択できません。

ワンステップバックアップ

「ワンステップバックアップ」は、「システムディスク（Windows がインストールされているディスク全体）」、または「システムドライブ（Windows がインストールされているドライブのみ）」のどちらかを選んですぐにバックアップすることができます。「Welcome バックアップ」よりも選択の幅が広く、ある程度任意の操作が可能です。また、USBメモリーを接続するとそこをバックアップ先として指定できるので、アプリケーションやWindowsの設定を行ったマスター環境を作成し、復元専用の「Windows PE 起動用メディア」を作成するというような用途に適しています。



簡単ウィザードバックアップ (バックアップ初心者におすすめ)

「簡単ウィザードバックアップ」は、「ワンステップバックアップ」の機能をウィザードで順

番に確認しながらバックアップするような画面となっており、初心者にも最もおすすめのバックアップとなります。基本的な説明は操作画面上に記載されているため、その説明に従いバックアップ先やスケジュールを設定することで、簡単に目的のバックアップをすることができます。

「Windows PE 起動用メディア」で起動した場合は選択できません。

詳細バックアップ

「詳細バックアップ」は、上級者、管理者向けのバックアップ方法となります。「簡単ウィザードバックアップ」と同じウィザード形式となりますが、全てのバックアップオプションが選択でき、詳細なスケジュールなども設定することができます。また、「セクターバックアップ方式」だけでなく、「ファイルバックアップ方式」も「詳細バックアップ」から行うことができます。

タイムスライスバックアップ

タイムスライスバックアップは、一定間隔で繰り返しバックアップを行うスケジュールを設定した、「ファイルバックアップ方式」の増分バックアップとなります。初期設定ではWindowsがファイルの保存先として標準で使用する「Users」フォルダーがバックアップ対象として指定されているため、頻繁にファイルを更新するようなケースで使用することをおすすめします。

📖 Welcome バックアップ

「Welcome バックアップ」画面では、Windowsがインストールされ起動している「システムディスク」を、丸ごと別のディスクにフルバックアップすることができます。バックアップに関する設定はできませんが、最も簡単なバックアップ方法となります。

「次回から、この画面を表示しない」のチェックボックスにチェックを入れると、次回起動時からこの画面は表示されなくなります。

「Windows PE 起動用メディア」で起動した場合は選択できません。

1 Welcome バックアップの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命/BackUp Next」を選択します。初回起動時は、「Welcome バックアップ」画面が起動します。

次回起動時からは、チェックボックスのチェック状況により、表示されるかが決まります。

「閉じる」をクリックすると、「バックアップ」の選択画面に移動します。



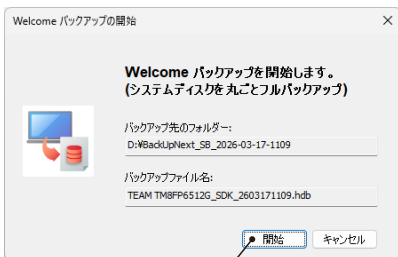
BackUp Nextの起動時に表示するかを選択します。

1今すぐ丸ごとバックアップを行う場合にクリック

2 バックアップの開始

次の画面が表示され、バックアップ先のフォルダーとバックアップファイル名が確認できます。

「開始」をクリックすると実際にバックアップが開始します。



2クリック



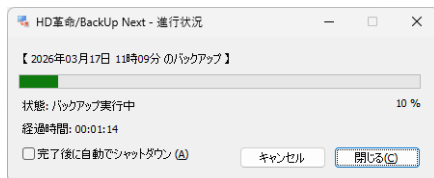
- 「Welcome バックアップ」を行うには、バックアップを行う「システムディスク」とは別のディスクが接続されている必要があります。
- バックアップファイルは、「システムディスク」以外で空き領域が一番大きなドライブ（パーティション）に作成され、フォルダー名とファイル名は使用環境を元に自動的に付与されます。

Point

「Welcome バックアップ」は、メイン画面で「機能」メニューの中にある「Welcome バックアップ」（1-17 ページ参照）を選択することでも起動できます。

3 バックアップの実行

バックアップ中は、進行状況のウィンドウが表示されます。「閉じる」をクリックするとこの画面は閉じますが、バックアップはそのまま続行します。バックアップ中のメイン画面の動作については、4-3 ページを参照してください。



4 バックアップの完了

バックアップが完了すると、ログには「完了」と表示されます。

ログ管理

全体ログの表示

バックアップ

2026年03月17日 11時09分 のバックアップ

保存先: D:\BackUpNext_SB_2026-03-17-1109\

名前	実行時間	進行率	操作	実行結果
2026年03月17日 11時09分 のバックアップ	00:05:26	100%	フルバックアップ	完了

Point

ログには、バックアップの状態が表示されています。「キャンセル」や「エラー」と表示されている場合は、バックアップが正常に完了していません。また、バックアップが完了しても「完了(警告あり)」や「完了(情報あり)」と表示されることがあります。このような場合は、ログを右にスクロールして、「情報」列の表記を確認してください。

バックアップの選択

「簡単ウィザードバックアップ」または「詳細バックアップウィザード」画面を起動するランチャー画面となります。メイン画面を起動せずに各操作画面を起動できます。

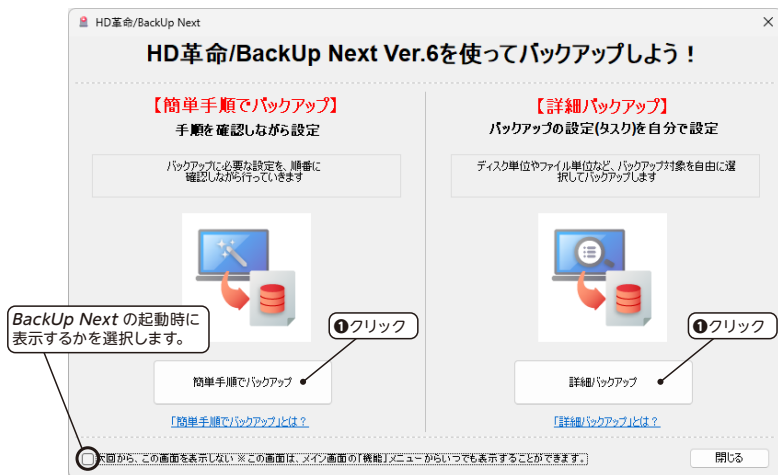
チェックボックスにチェックを入れると、次回起動時からこの画面は表示されなくなります。

1 「バックアップの選択」画面の起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命/BackUp Next」を選択します。

初回起動時は、「Welcome バックアップ」画面で「閉じる」ボタンをクリックするとこの画面が起動します。次回起動時からは、チェックボックスのチェック状況により、表示されるかが決まります。

「閉じる」をクリックすると、*BackUp Next*のメイン画面が表示されます。



Point

「Welcome バックアップ」と「バックアップの選択」画面は、メイン画面の「機能」メニューから表示することができます。

また、表示の有無に関しては、メイン画面で「設定」メニューで「その他の設定」タブの中で変更できます。

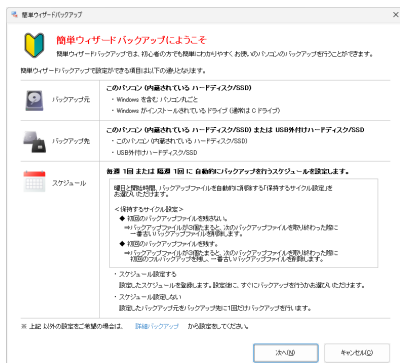
「Windows PE 起動用メディア」で起動した場合は選択できません。

【簡単手順でバックアップ】

確認画面が表示されますので、「OK」をクリックします。



「簡単ウィザードバックアップ」の操作画面が起動します。

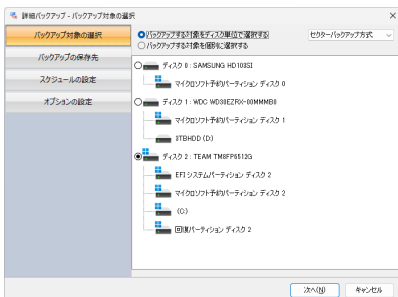


【詳細バックアップ】

確認画面が表示されますので、「OK」をクリックします。



「詳細バックアップ」の操作画面が起動します。



ワンステップバックアップ

「ワンステップバックアップ」は、「システムディスク（Windowsがインストールされているディスク全体）」、または「システムドライブ（Windowsがインストールされているドライブのみ）」をフルバックアップする機能です。

バックアップに関する詳細な設定はできませんが、1画面で単純なバックアップを行うことができます。

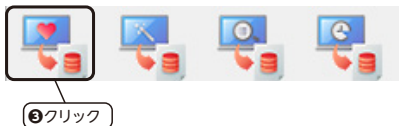
1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命/BackUp Next」を選択します。



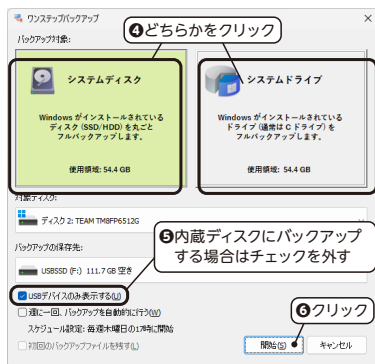
2 「ワンステップバックアップ」の選択

ツールバーで一番左の「ワンステップバックアップ」ボタンをクリックします。



3 バックアップ対象の選択

バックアップ対象とバックアップの保存先を選択して「開始」ボタンをクリックします。内蔵ディスクに保存する場合は、「USB デバイスのみ表示する」のチェックを外します。



4 バックアップの開始

バックアップ前に確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックするとバックアップが開始します。

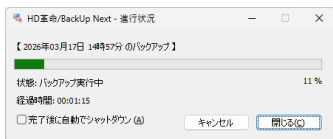


Point

Windows 上でバックアップを行う場合は、バックアップ元のディスクを変更できません。「初回のバックアップファイルを残す」の動作については、2-13 ページを参照してください。

5 バックアップの実行

バックアップ中は、進行状況のウィンドウが表示されます。「閉じる」をクリックするとこの画面は閉じますが、バックアップはそのまま続行します。バックアップ中のメイン画面の動作については、4-3 ページを参照してください。



6 バックアップの完了

バックアップが完了すると、ログには「完了」と表示されます。

ログ管理

全体ログの表示

 バックアップ

2026年03月17日 14時57分 のバックアップ

名前	実行時間	進行率	操作	実行結果
 2026年03月17日 14時57分 のバックアップ	00:05:11	100%	フルバックアップ	完了

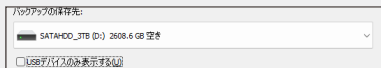


ワンステップバックアップで保存先を変更

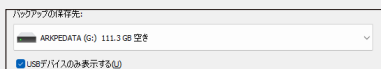
「ワンステップバックアップ」は、起動時の「バックアップの保存先」はUSBデバイス（USB接続HDD/SSDまたはUSBメモリー）となっています。USBデバイスが接続されていない場合は、保存先がないためバックアップを開始できません。



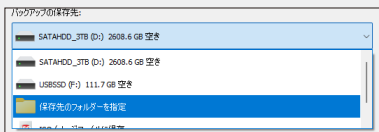
「USBデバイスのみ表示する」のチェックを外すことで、内蔵ディスクを選択することができます。



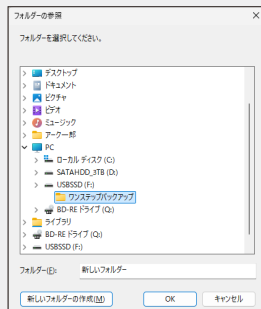
「Windows PE 起動用メディア」をバックアップ先とする場合は、「ARKPEDATA」のボリューム名のドライブを選択します。



バックアップ先を任意の場所にするには、リストの中から「保存先のフォルダーを指定」を選択します。



フォルダーツリーの中で保存先を指定します。



簡単ウィザードバックアップ

「簡単ウィザードバックアップ」は、ウィザード画面で順番に確認しながらバックアップすることができ、初心者にも最もおすすめのバックアップとなります。

基本的な説明は操作画面上に記載されているため、その説明に従いバックアップ先やスケジュールを設定します。

1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命/BackUp Next」を選択します。



2 「簡単ウィザードバックアップ」の選択

ツールバーで2番目の「簡単ウィザードバックアップ」ボタンをクリックします。



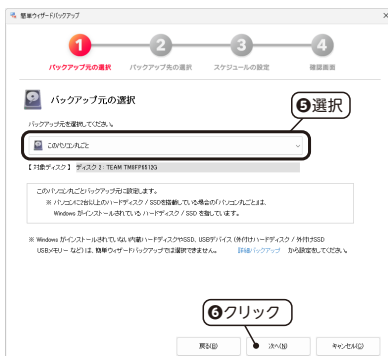
3 バックアップの説明

最初の画面は、簡単ウィザードバックアップの説明となりますので操作は不要です。



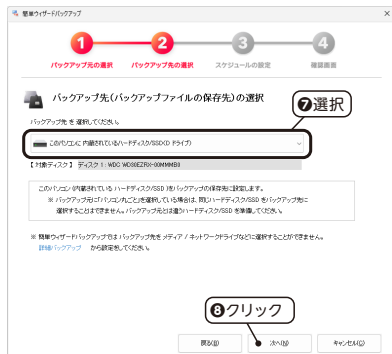
4 バックアップ元の選択

この画面では、バックアップ元としてWindowsがインストールされているディスク全体か、Windowsがインストールされているドライブのみのどちらかを選択します。



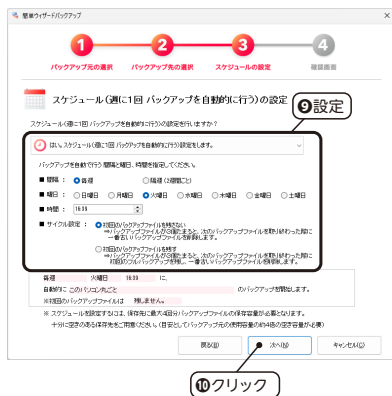
5 バックアップ先の選択

この画面では、バックアップ先のドライブを選択します。前画面で「このパソコン丸ごと」を選択した場合は、バックアップ先として別のディスクが必要です。



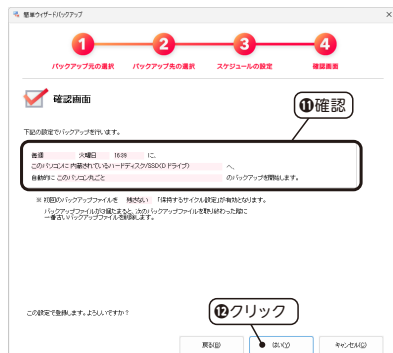
6 スケジュールの設定

この画面では、スケジュールの設定を行います。スケジュールを行わない場合はリストから「いいえ」を選択してください。



7 確認画面

この画面では、各画面で設定した内容を確認できます。希望と異なる場合は、「戻る」をクリックして各画面で再設定を行ってください。



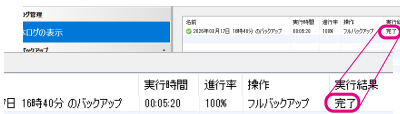
8 バックアップの実行

バックアップ中は、進行状況のウィンドウが表示されます。「閉じる」をクリックするとこの画面は閉じますが、バックアップはそのまま続行します。バックアップ中のメイン画面の動作については、4-3ページを参照してください。



9 バックアップの完了

バックアップが完了すると、ログには「完了」と表示されます。





初回のバックアップファイルを残す動作について

「ワンステップバックアップ」と「簡単ウィザードバックアップ」には、初回のバックアップファイルを残すオプションがあります。初回のバックアップファイルを残す場合は特殊なサイクルバックアップとなり、初回のバックアップファイルは削除されずにそのまま残り、2回目以降は直近2回分のバックアップファイルが保存される仕組みとなります。以降、新たにバックアップを行うと、古いバックアップファイルから順に削除されます。

●初回のバックアップファイルを残さない

- 初回のバックアップ（4回目のバックアップ終了後に削除される）
- 2回目のバックアップ（5回目のバックアップ終了後に削除される）
- 3回目のバックアップ（6回目のバックアップ終了後に削除される）
- 4回目のバックアップ（7回目のバックアップ終了後に削除される）

⋮

⋮

最新の2回前のバックアップ }
 最新の1回前のバックアップ } 直近3回分のバックアップファイルが保存される。
 最新のバックアップ }

●初回のバックアップファイルを残す

- 初回のバックアップ（削除されずに残る）
- 2回目のバックアップ（4回目のバックアップ終了後に削除される）
- 3回目のバックアップ（5回目のバックアップ終了後に削除される）
- 4回目のバックアップ（6回目のバックアップ終了後に削除される）

⋮

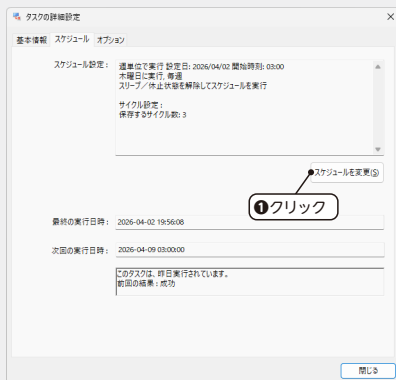
⋮

最新の1回前のバックアップ }
 最新のバックアップ } 初回と直近2回分のバックアップファイルが保存される。

一度設定したスケジュールを変更する場合は、メイン画面でバックアップタスクを選択して「タスクの詳細設定」の「スケジュール」タブ（4-5ページ）画面で、「スケジュールを変更」ボタンをクリックすることで変更できます。

一度スケジュールをオフにしてから再度オンにした場合は、新たに初回のバックアップからサイクルバックアップが開始されます。

初回のバックアップファイルを残す場合、初回のバックアップファイルが増えていきますので、バックアップ先の容量が不足するような場合は手動で削除してください。



詳細バックアップ (セクターバックアップ方式)

「詳細バックアップ」は、ウィザードによりオプションやスケジュールを設定してバックアップを行う機能です。

ここでは、「セクターバックアップ方式」でバックアップを行う手順を説明します。

1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



2 「詳細バックアップ」の選択

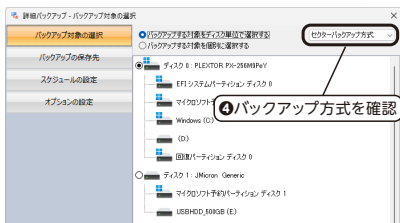
ツールバーで左から3番目の「詳細バックアップ」ボタンをクリックします。



「バックアップの選択」画面からも、「詳細バックアップ」の操作画面を呼び出すことができます。

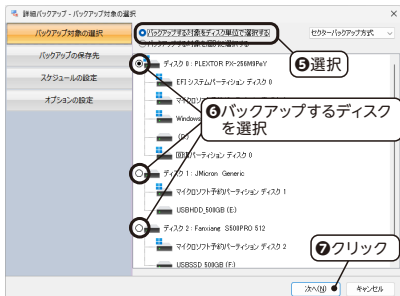
3 バックアップ対象の選択

「バックアップ対象の選択」タブでは、バックアップ対象をディスク単位やパーティション単位で選択します。この例では、セクターバックアップ方式でバックアップを行いますので、「セクターバックアップ方式」が選択されているかを確認します。



●バックアップする対象をディスク単位で選択する

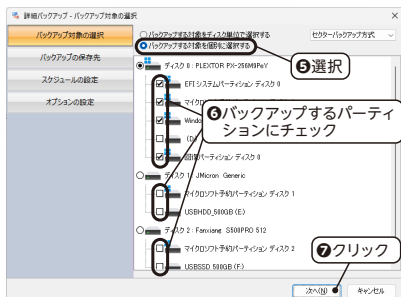
ラジオボタンの「バックアップする対象をディスク単位で選択する」を選択し、バックアップ対象のディスクを選択します。異なるディスクを同時にバックアップすることはできません。



●バックアップする対象を個別に選択する

ラジオボタンの「バックアップする対象を個別に選択する」を選択し、バックアップ対象とするパーティションにチェックを入れます。

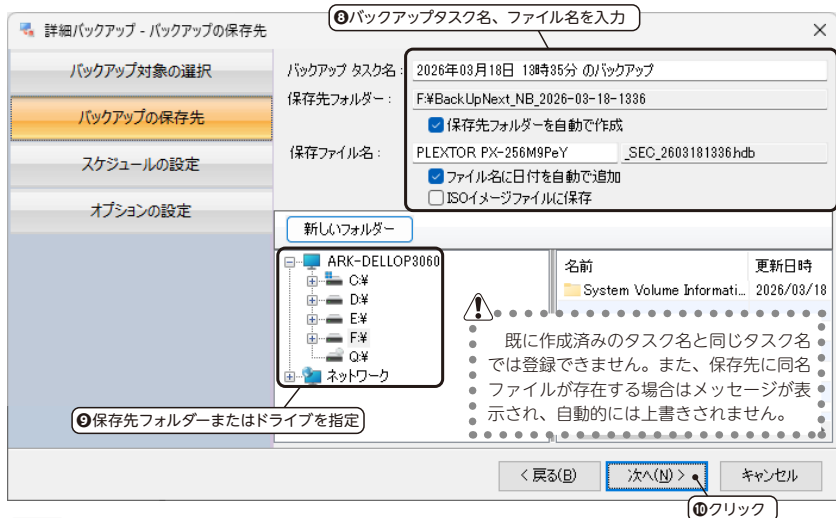
異なるディスクにあるパーティションを同時に選択することはできません。



4 バックアップの保存先を選択

「バックアップの保存先」タブでは、バックアップタスク名、保存先フォルダー、ファイル名を指定します。

名前は環境に応じて自動的に入力されていますので、必要場合はそれぞれの項目を任意の内容に変更してください。



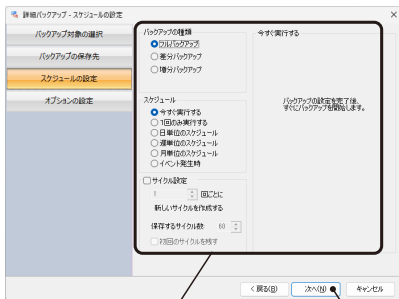
Point

「バックアップ タスク名」は、メイン画面左側に登録されるタスク名となります。「保存ファイル名」は実際に作成されるバックアップファイル名となります。入力できる「保存先フォルダー名」は200文字まで、「保存ファイル名」として入力可能な文字数は22文字まで（スペースも1文字としてカウント）となり、「保存ファイル名」はこの画面で指定した名称を後から変更できません。

5 スケジュールの設定

「スケジュールの設定」タブでは、バックアップの種類とスケジュールを指定します。

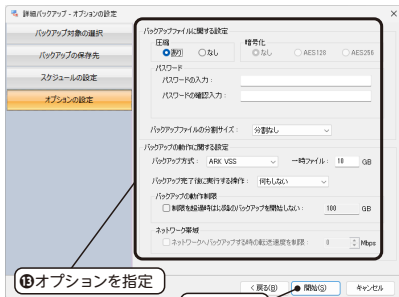
詳細については、2-28ページを参照してください。



11 バックアップの種類とスケジュールを指定

6 オプションの設定

「オプションの設定」タブでは、圧縮の設定やバックアップファイルの分割サイズなどを設定します。詳細については、2-35ページを参照してください。



13 オプションを指定

14 クリック

7 バックアップの開始

バックアップ前に確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックするとバックアップが開始します。



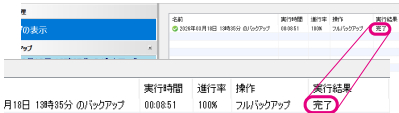
8 バックアップの実行

バックアップ中は、進行状況のウィンドウが表示されます。「閉じる」をクリックするとこの画面は閉じますが、バックアップはそのまま続行します。バックアップ中のメイン画面の動作については、4-3ページを参照してください。



9 バックアップの完了

バックアップが完了すると、ログには「完了」と表示されます。



Point

ログには、バックアップの状態が表示されています。「キャンセル」や「エラー」と表示されている場合は、バックアップが正常に完了していません。また、バックアップが完了しても「完了（警告あり）」や「完了（情報あり）」と表示されることがあります。

このような場合は、ログを右にスクロールして、「情報」列の表記を確認してください。

詳細バックアップ (ファイルバックアップ方式)

「詳細バックアップ」は、ウィザードによりオプションやスケジュールを設定してバックアップを行う機能です。ここでは、「ファイルバックアップ方式」でバックアップを行う手順を説明します。

1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



2 「詳細バックアップ」の選択

ツールバーで左から3番目の「詳細バックアップ」ボタンをクリックします。「詳細バックアップ」は「バックアップの選択」画面からも呼び出すことができます。

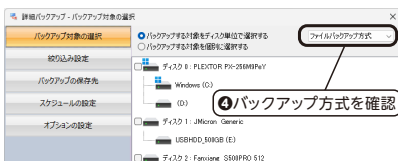


「バックアップの選択」画面からも、「詳細バックアップ」の操作画面を呼び出すことができます。

3 バックアップ対象の選択

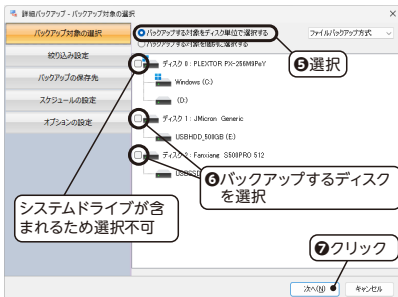
「バックアップ対象の選択」タブでは、バックアップ対象をディスク単位やフォルダー単位で選択します。

この例では、ファイルバックアップ方式でバックアップを行いますので、「ファイルバックアップ方式」が選択されているかを確認します。



●バックアップする対象をディスク単位で選択する

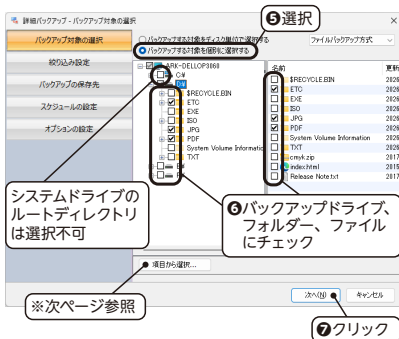
ラジオボタンの「バックアップする対象をディスク単位で選択する」を選択し、バックアップ対象のディスクを選択します。システムドライブが含まれるディスク（この例ではディスク0の左側にあるチェックボックス）は選択できません。「バックアップする対象を個別に選択する」にて対象を選択してください。



●バックアップする対象を個別に選択する

ラジオボタンの「バックアップする対象を個別に選択する」を選択し、バックアップ対象とするドライブ、フォルダー、ファイルにチェックを入れます。

システムドライブのルートディレクトリ（この例ではC:\の左側にあるチェックボックス）は選択できませんが、ツリーを展開して個別に選択することは可能です。

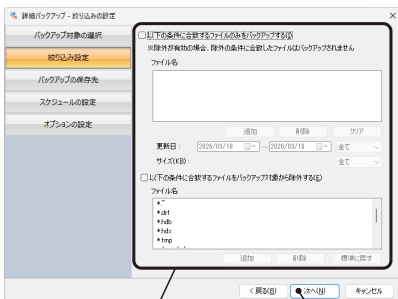


4

絞り込み設定

「ファイルバックアップ方式」では、バックアップ対象として選択した中から、ファイルの絞り込みと除外を行うことができます。

詳細については、2-23、2-24 ページを参照してください。

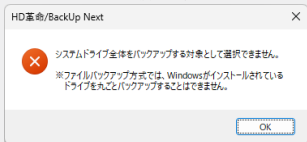


システムディスクをバックアップする際の制限

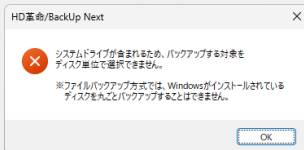
「システムドライブ」には、ストアアプリや特殊なアクセス権が設定されたシステムファイルが存在し、管理者権限をもったユーザーでもこのようなファイルをファイル単位で正常にバックアップすることができません。そのため、「ファイルバックアップ方式」では、「システムディスク」または「システムドライブ」を丸ごとバックアップすることを制限しています。

「システムディスク」または「システムドライブ」が選択された場合は、以下のようなメッセージが表示されます。

システムディスクを選択した場合



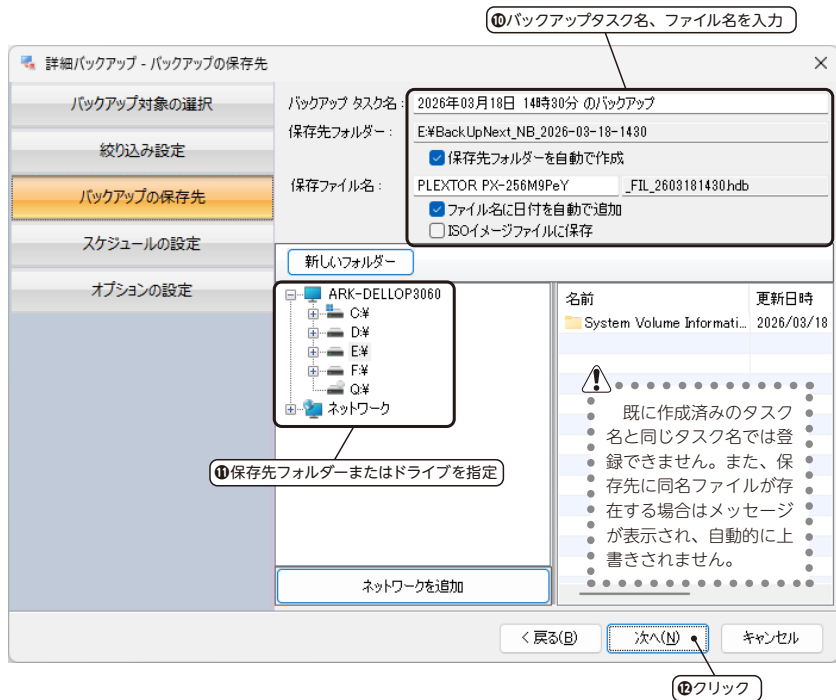
システムドライブを選択した場合



なお、個別に「システムドライブ」のファイルをすべて選択してバックアップすることは制限していませんが、そのバックアップファイルから元のパスを指定して（特に「Windows」や「Program Files」）に復元すると、Windowsが正常に動作しなくなる恐れがありますので行わないようにしてください。

5 バックアップの保存先を選択

「バックアップの保存先」タブでは、バックアップタスク名、保存先フォルダー、ファイル名を指定します。名前は環境に応じて自動的に入力されていますので、必要な場合はそれぞれの項目を任意の内容に変更してください。

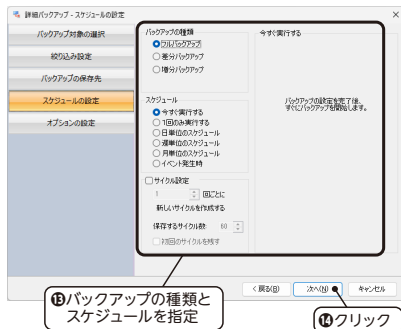


Point

「バックアップ タスク名」は、メイン画面左側に登録されるタスク名となります。「保存ファイル名」は実際に作成されるバックアップファイル名となります。入力できる「保存先フォルダー名」は200文字まで、「保存ファイル名」として入力可能な文字数は22文字まで（スペースも1文字としてカウント）となり、「保存ファイル名」はこの画面で指定した名称を後から変更できません。

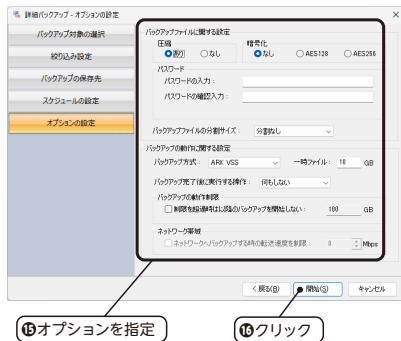
6 スケジュールの設定

「スケジュールの設定」タブでは、バックアップの種類とスケジュールを指定します。詳細については、2-28 ページ以降を参照してください。



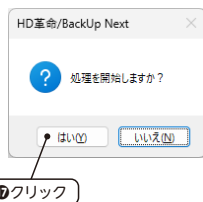
7 オプションの設定

「オプションの設定」タブでは、圧縮の設定やバックアップファイルの分割サイズなどを設定します。詳細については、2-35 ページ以降を参照してください。



8 バックアップの開始

バックアップ前に確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックするとバックアップが開始します。



9 バックアップの実行

バックアップ中は、進行状況のウィンドウが表示されます。「閉じる」をクリックするとこの画面は閉じますが、バックアップはそのまま続行します。バックアップ中のメイン画面の動作については、4-3 ページを参照してください。



バックアップが完了すると、ログの「状態」列には「完了」と表示されます。

ログ管理

全体ログの表示

バックアップ

2026年03月18日 14時30分 のバックアップ

保存先: E:\BackupUpNext\NB_2026-03-18-1430\

名前	実行時間	進行率	操作	実行結果
2026年03月18日 14時30分 のバックアップ	00:01:51	100%	フルバックアップ	完了

Point

ログには、バックアップの状態が表示されています。「キャンセル」や「エラー」と表示されている場合は、バックアップが正常に完了していません。

また、バックアップが完了しても「完了 (警告あり)」や「完了 (情報あり)」と表示されることがあります。このような場合は、ログを右にスクロールして、「情報」列の表記を確認してください。



OneDrive のファイルをバックアップ

OneDrive のフォルダーをバックアップ対象とした場合、OneDrive で同期しているファイルでクラウドに存在するファイル（雲のマークがついているファイル）は、ダウンロードしてからバックアップされます。

このとき、右のような通知が表示されます。そのため、バックアップ終了後はローカルフォルダーに実態のファイルが存在することになりますので、必要に応じて Windows のメニューで「空き領域を増やす」を選択してください。

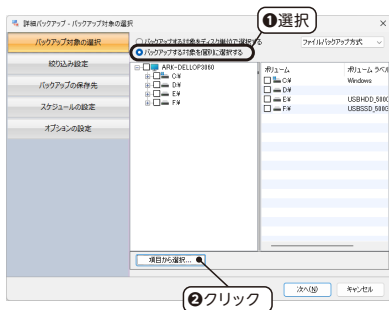


項目から選択

ファイルバックアップ方式の「項目から選択」は、バックアップを行うフォルダーを登録することで、次回以降のバックアップ時に選択画面から呼び出すことができます。これにより、同じフォルダーを繰り返しバックアップするような場合に手順を省略することができますようになります。**BackUp Next**では、この登録するフォルダーを「項目」と呼びます。なお、復元時と同様に項目を選択して復元することができます。

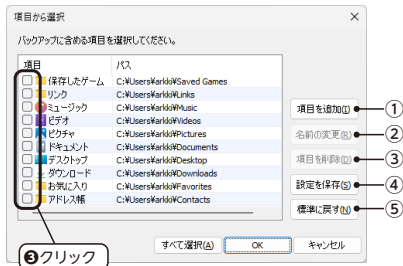
1 「項目から選択」を選択

「バックアップする対象を個別に選択する」を選択し、「項目から選択」ボタンをクリックします。



2 「項目」にチェックを入れて選択

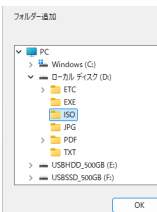
次の画面が表示されますので、項目を選択します。標準設定では「Users」フォルダーの下にあるフォルダーが項目として登録されています。



①項目を追加

新しく任意のフォルダーを項目として登録するには、「項目を追加」ボタンをクリックします。

右の画面で項目として追加するフォルダーを指定します。



②名前の変更

選択されている項目の名前を変更します。

③項目を削除

選択されている項目を削除します。

④設定を保存

現在の項目の設定を保存します。次回「項目から選択」をクリックしたときに、設定された内容が表示されます。設定はユーザーアカウントごとに保存され、複数の設定を保存することはできません。なお、編集後に保存せず「OK」または「キャンセル」を押した場合、設定を保存するか確認を行うメッセージが表示されます。



- 項目を追加しただけでは設定は保存されません。
- 次回以降のバックアップ時もその項目を使用する場合は、必ず設定を保存するようにしてください。

⑤標準に戻す

BackUp Nextをインストールしたときの標準設定に戻します。「標準に戻す」をクリックすると任意に追加した項目はすべて削除されます。ただし、「標準に戻す」をクリックしただけでは表示内容が標準設定に戻るだけで確定されませんので、「設定を保存」をクリックしてください。

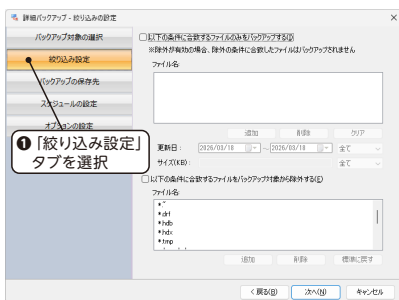
ファイルの絞り込み

ファイルバックアップ方式で「バックアップする対象を個別に選択する」を指定した場合、ファイルの種類や更新日によりファイルの絞り込みを行うことができます。これにより必要なファイルのみバックアップすることができますので、バックアップする容量を減らすことができます。

なお、復元時も同様にファイルを絞り込んで復元を行うことができます。

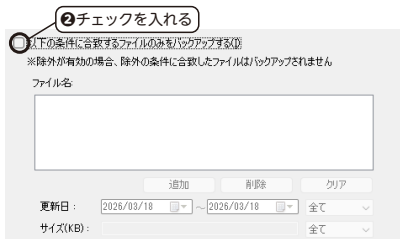
1 「絞り込み」設定を選択

ファイルバックアップ方式では、ウィザードで「絞り込み設定」タブが追加され、ファイルの絞り込みと除外を行うことができます。



2 絞り込みの選択

ファイルの絞り込みを行うには、「以下の条件に合致するファイルのみをバックアップする」のチェックボックスにチェックを入れます。チェックを外した場合、絞り込みの設定がされていても絞り込みは行われません。



ファイルのプロパティ

ファイルを右クリックしたときに表示されるメニューで「プロパティ」を選択すると、選択したファイルに関するプロパティ画面が表示されます。プロパティ画面では、ファイルの場所やサイズ、更新日時などを確認できます。

BackUp Nextでは、これらの情報を元にファイルの絞り込みを行います。絞り込みがうまく行われない場合は、ファイルのプロパティを確認し設定を変更してみてください。



3 絞り込むファイルを指定

絞り込みを行うファイルを、「ファイル名」、「更新日」、「サイズ」から指定します。

●ファイル名による絞り込み

「追加」ボタンをクリックします。

以下の条件に合致するファイルのみをバックアップする(E)
※除外が有効の場合、除外の条件に合致したファイルはバックアップされません

ファイル名

更新日: 2026/03/18 ~ 2026/03/18 全て

サイズ(KB): 全て

③クリック

空欄に絞り込みを行いたい文字列を直接入力します。入力する文字列については、ファイルのみ対象となりフォルダーは対象外となります。入力後は「OK」ボタンをクリックします。

④文字列を入力

絞り込みの設定 - 文字列を入力

絞り込みに使用する文字列を入力してください。

OK キャンセル

⑤クリック

〈文字列の入力例と条件〉

- ・ファイル名を指定して入力する場合は、ファイル名と拡張子を入力します（例：BackUp_Next.txt）。
- ・ワイルドカードは、記号「*」（半角のアスタリスク：0 個以上の任意の文字列）と「?」（半角のクエスチョンマーク：1 個の任意の文字）が使用可能です（例：*.jpg、???.zip、革命.*、??革命.pdf）。
- ・文字数の上限は256文字となり、登録でき

る数に制限はありません。

- ・ファイル名に使用できない文字は入力できません。
- ・登録した文字列は昇順にソートされます。
- ・ファイルの除外が有効の場合は、除外の条件に合致したファイルはバックアップされません。
- ・登録した文字列を削除する場合は、削除する文字列を選択して（青く反転させて）「削除」ボタンをクリックします。すべての文字列を削除する場合は、「クリア」ボタンで行います。

●更新日による絞り込み

ファイルの「更新日」による絞り込みを行います。西暦、月、日に直接数字を入力するか、カレンダーを表示して日付を指定することもできます。

以下の条件に合致するファイルのみをバックアップする(E)
※除外が有効の場合、除外の条件に合致したファイルはバックアップされません

ファイル名

更新日: 2026/03/18 ~ 2026/03/18 全て

サイズ(KB):

⑥クリック

全て：更新日による絞り込みは行わず、全てのファイルが対象となります。

範囲：選択した更新日の範囲内にあるファイルが対象となります。

以降：選択した更新日以降のファイルが対象となります。

以前：選択した更新日以前のファイルが対象となります。

●サイズによる絞り込み

ファイルサイズによる絞り込みを行います。
ファイルサイズはキロバイト (KB) で入力します (参考: 1MB = 1024KB)。

☒ 以下の条件に合致するファイルのみをバックアップする(D)
※除外が有効の場合、除外の条件に合致したファイルはバックアップされません

ファイル名

追加 削除 クリア

更新日: 2026/03/18 ~ 2026/03/18 全て

サイズ(KB):

全て
全て
等しい
以上
以下

☐ 以下の条件に合致するファイルをバックアップ対象から除外する(E)
ファイル名

全て: サイズによる絞り込みは行わず、全てのファイルが対象となります。

等しい: 指定したサイズと一致するファイルが対象となります。

以上: 指定したサイズ以上のファイルが対象となります。

以下: 指定したサイズ以下のファイルが対象となります。

入力後の画面例

☒ 以下の条件に合致するファイルのみをバックアップする(D)
※除外が有効の場合、除外の条件に合致したファイルはバックアップされません

ファイル名

*.txt
???zip
??革命.pdf
BackUp_Next.txt
革命*

追加 削除 クリア

更新日: 2026/01/01 ~ 2026/02/28 範囲

サイズ(KB): 10240 以下

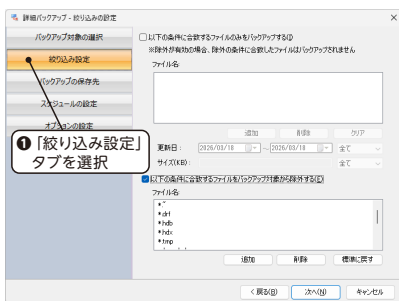
ファイルの除外

ファイルバックアップ方式で「バックアップする対象を個別に選択する」を指定した場合、入力した条件に合致したファイルを除外することができます。これにより必要なファイルのみバックアップすることができますので、バックアップする容量を減らすことができます。

なお、復元時も「復元対象の選択」画面で同様にファイルの除外を行うことができます。

1 「絞り込み設定」タブを選択

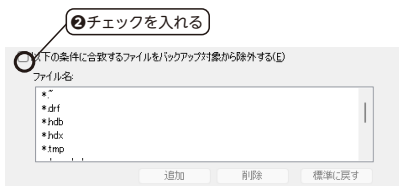
ファイルバックアップ方式では、ウィザードで「絞り込み設定」タブが追加され、ファイルの絞り込みと除外を行うことができます。



2 絞り込みの選択

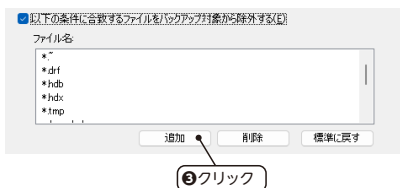
ファイルの除外を行うには、「以下の条件に合致するファイルをバックアップ対象から除外する」のチェックボックスにチェックを入れます。

チェックを外した場合、除外の設定がされていても除外は行われません。

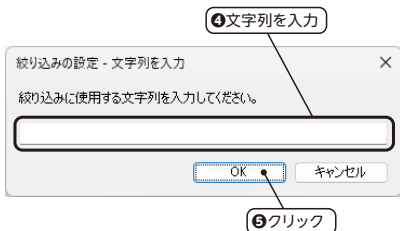


3 除外するファイルを指定

「追加」ボタンをクリックします。



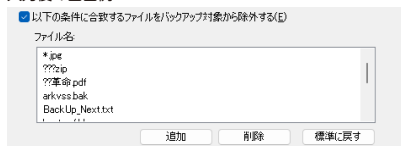
空欄に除外を行いたい文字列を直接入力します。入力する文字列については、ファイルのみ対象となりフォルダーは対象外となります。入力後は「OK」ボタンをクリックします。



〈文字列の入力例と条件〉

- ・ ファイル名を指定して入力する場合は、ファイル名と拡張子を入力します（例：BackUp_Next.txt）。
- ・ ワイルドカードは、記号「*」（半角のアスタリスク:0 個以上の任意の文字列）と「?」（半角のクエスチョンマーク:1 個の任意の文字）が使用可能です（例：*.jpg、???zip、革命.*、??革命.pdf）。
- ・ 文字数の上限は256文字となり、登録できる数に制限はありません。
- ・ ファイル名に使用できない文字は入力できません。
- ・ 登録した文字列は昇順にソートされます。
- ・ ファイルの除外が有効の場合は、除外の条件に合致したファイルはバックアップされません。
- ・ 除外するファイルには、初期設定でいくつかの文字列が登録されています。文字列を削除する場合は、削除する文字列を選択して（青く反転させて）「削除」ボタンをクリックします。初期設定に戻す場合は、「標準に戻す」ボタンをクリックします。

入力後の画面例



スケジュールの設定

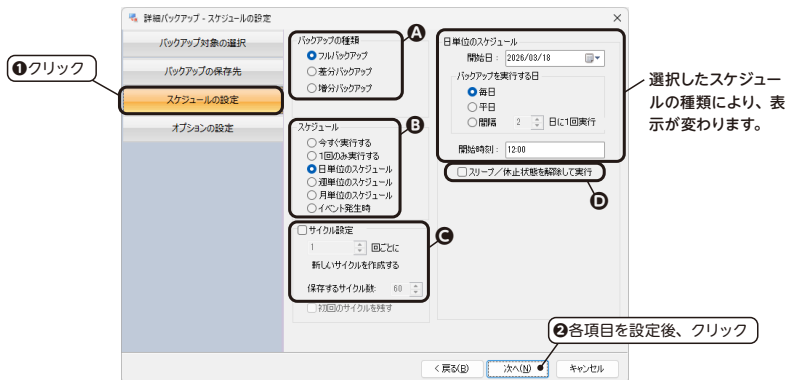
Windows の「タスク スケジューラ」にスケジュールを登録し、指定したタイミングでドライブのバックアップを行うことができます。スケジュールは日単位、月単位などのほかに、Windows のイベント発生時にも設定することができます。

1 「スケジュールの設定」を選択

バックアップ対象とバックアップ先を指定し、「スケジュールの設定」タブをクリックします。

2 各項目を設定

バックアップの種類、スケジュール内容を設定した後、「次へ」をクリックすると設定内容が有効になります。



A バックアップの種類

「フルバックアップ」、「差分バックアップ」、「増分バックアップ」の中からバックアップの種類を選択します。Windows PE 起動用メディアで起動した場合は、「差分バックアップ」、「増分バックアップ」は選択できません。

セクターバックアップ方式で「差分バックアップ」または「増分バックアップ」を行う場合は、「タスク」は10個まで作成できます。「差分バックアップ」、「増分バックアップ」にはいくつかの制限がありますので、「バックアップの種類について」を参照してください。



BackUp Nextでは、設定した内容で「タスク」が作成され、以降のバックアップは「タスク」の内容に従ってバックアップが行われます。そのため、バックアップの種類で「フルバックアップ」を選択すると、次回以降のバックアップも「フルバックアップ」が行われることになります。

差分または増分でバックアップを行いたい場合は、必ずここで「差分バックアップ」または「増分バックアップ」に変更するようにしてください。

8 スケジュールの設定

バックアップを行うスケジュールを設定します。Windows PE 起動用メディアで起動した場合は、「スケジュール」の選択はできません。

選択したスケジュールの種類により、画面右側の表示が変わります。

●今すぐ実行する

スケジュールを設定せずにバックアップウィザードの完了後すぐにバックアップが開始します。

●1回のみ実行する

開始日と開始時間を指定し1回のみスケジュールバックアップを行います。

1回のみ実行する

開始日: 2026/03/18

開始時刻: 03:00

☐ スリープ/休止状態を解除して実行

●日単位のスケジュール

開始日とバックアップを実行する日（「毎日」、「平日」、「間隔（2～365を指定）」のいずれか）、開始時刻を設定します。

日単位のスケジュール

開始日: 2026/03/18

バックアップを実行する日

☒ 毎日
☐ 平日
☐ 間隔 2 日に1回実行

開始時刻: 03:00

☐ スリープ/休止状態を解除して実行

●週単位のスケジュール

バックアップを実行する曜日と間隔（1～52を指定）、開始時刻を設定します。

週単位のスケジュール

バックアップを実行する曜日:

☒ 日 ☒ 月 ☒ 火 ☒ 水 ☒ 木 ☒ 金 ☒ 土

間隔: 1 週間に1回実行

開始時刻: 03:00

☐ スリープ/休止状態を解除して実行

●月単位のスケジュール

バックアップを実行する月、実行日（1～31を指定）、間隔（週、曜日を指定）、開始時刻を設定します。

月単位のスケジュール

バックアップを実行する月:

☒ 1月 ☒ 2月 ☐ 3月 ☒ 4月
☒ 5月 ☒ 6月 ☒ 7月 ☒ 8月
☒ 9月 ☒ 10月 ☒ 11月 ☒ 12月

バックアップを実行する日

☒ 実行日 1
☐ 間隔 第 1 月曜日

開始時刻: 03:00

☐ スリープ/休止状態を解除して実行

●イベント発生時

日時や曜日ではなく、Windowsの特定の動作が行われた際にバックアップを実行します。選択できる動作は、「サインイン時」、「サインアウト時」、「コンピューター起動時」、「シャットダウン時」の起動、終了に関するもの、USBデバイスの接続を監視して行うもの、Windowsの「イベントビューアー」に登録されるような警告やエラーの発生時に行うものに分けられます。

イベント発生時

バックアップを実行するタイミング:

☐ サインイン時
☐ サインアウト時
☐ コンピューター起動時
☐ シャットダウン時
☐ USBデバイスの接続時
☐ Windows イベントの発生時

ログ名	レベル	ソース
-----	-----	-----

バックアップ開始の遅延時間: 0 分

☒ 1日1回のみにする

・バックアップ開始の遅延時間

「サインイン時」と「コンピューター起動時」を選択した場合、「バックアップ開始の遅延時間」を1～60分間で指定できます。0分を指定した場合は、遅延せずにすぐバックアップが実行されます。

・1日1回のみにする

指定した実行タイミングでバックアップを行う回数を、1日1回とするように制限します。このオプションを指定した場合、一度バ

Point

Windowsの起動時はWindowsやアプリケーションなどがディスクへのアクセスを頻繁に行っているため、バックアップを行うと起動に時間を要するようになるなどの問題が発生することがあります。

このような場合には、遅延バックアップで時間をずらすことで、問題が改善できることがあります。

バックアップが実行されると午前0時までは再度バックアップは行われません。



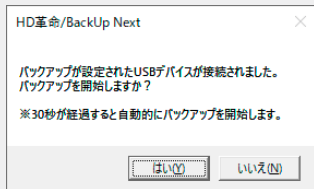
USBデバイス接続時のバックアップ

バックアップを実行するタイミングを「USBデバイスの接続時」とした場合は、バックアップ先として指定したUSBデバイスが接続されたタイミングでバックアップが行われます。このバックアップには、以下のような注意事項、制限事項があります。

- ・「USBデバイスの接続時」のオプションは、バックアップファイルの保存先が、USB接続HDD/SSD、またはUSBメモリーの場合に選択可能となります。
- ・バックアップファイルの保存先となるUSBデバイスの型番とシリアルナンバー、ドライブ文字を記録していますので、そのUSBデバイスが接続され、同じドライブ文字の場合にのみバックアップが開始されます。バックアップ先として指定していないUSBデバイスが接続されても、バックアップは行われません。
- ・ディスクの交換が可能なUSBケースや変換コネクタを使用する場合、バックアップを設定したディスクとは別のディスクに交換しても、シリアルナンバーが同じになることがあります。このような場合は、同一と見なされてバックアップが実行されてしまいます。
- ・接続の検出は、ユーザーのサインイン中のみとな

ります。コンピューターの電源を落としている間にデバイスを接続し、その後コンピューターを起動したとしてもサインイン時にバックアップは行われません。

- ・USBデバイスが接続されてバックアップを開始する前に、以下の確認メッセージが表示されます。このメッセージが表示されてから30秒経過するか「はい」をクリックするとバックアップが開始されます。「いいえ」をクリックした場合は、バックアップは行われません。



「Windows イベント発生時」設定について

スケジュールの設定項目のうち、「イベント発生時」中の「Windows イベントの発生時」を選択した場合、「追加」ボタンでバックアップを実行するイベントログを指定します。

Windows のさまざまなイベントを指定できますが、この項目の動作や意味についてはWindows の機能に関する内容となるため、サポート対象外とさせていただきます。Windows のヘルプやマイクロソフト社のWebサイトなどで確認してください。

● サイクルの設定

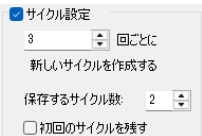
「サイクル設定」は、定期的にフルバックアップを取り直す機能です。フルバックアップを行ってから、次のフルバックアップを行うまでの期間を、**BackUp Next**では「サイクル」といいます。新しいサイクルが作成されるまで（次のフルバックアップが行われるまで）のバックアップ回数は、最大100回まで指定できます。

例えば、「7」回ごとに新しいサイクルを作成するとした場合、「1つのフルバックアップファイル」と「6つの差分バックアップファイル」が作成され、これが1サイクルとなります。このとき作成されるバックアップファイル群をまとめて、「サイクルバックアップファイル」といいます。

「保存するサイクル数」では、いくつのサイクル（サイクルバックアップファイル）を残すかを指定します。サイクルは最大60まで指定でき、指定した数を超えてバックアップが行われた場合は、古いサイクルから順に削除されます。

ただし、バックアップの種類を「フルバックアップ」としてサイクル設定を行う場合、毎回フルバックアップが行われることとなりますのでサイクル回数の指定はできませんが、「保存するサイクル数」でいくつのフルバックアップファイルを残すかを指定できます。

(例)「差分バックアップ」で「3」回ごとに新しいサイクルを作成し、
保持するサイクル数を「2」と設定した場合



サイクル設定

3 回ごとに
新しいサイクルを作成する

保存するサイクル数: 2

☐ 初回のサイクルを残す

バックアップ回数	バックアップの種類	
1回目	フルバックアップ (1個目)	← 初回の サイクル
2回目	差分バックアップ	
3回目	差分バックアップ	
4回目	フルバックアップ (2個目)	← 2回目の サイクル
5回目	差分バックアップ	
6回目	差分バックアップ	
7回目	フルバックアップ (3個目)	← 3回目の サイクル の開始

3回目のサイクルのフルバックアップ (3個目) が完了すると同時に、1回目のサイクルで作成されたバックアップファイルが削除され、以後繰り返されます。初回のサイクルを残す場合は、2回目のサイクル以降が削除対象となります。

Point

バックアップの種類を「差分バックアップ」、スケジュールで「日単位のスケジュール」を「毎日」に設定した場合、「7回ごと」に新しいサイクルを作成することで、日曜日はフルバックアップし、それ以外の日は差分バックアップにしようという運用ができます。

スケジュールと組み合わせることで柔軟な運用が可能となります。

● スリープ/休止状態を解除して実行

スケジュールバックアップを実行する際に、コンピューターがスリープ/休止状態であった場合、スリープ/休止状態を解除してバックアップを行います。スケジュールで「1回のみ実行する」、「日単位のスケジュール」、「週単位のスケジュール」、「月単位のスケジュール」が選択されている場合にオプションを指定できます。

「バックアップ完了後に実行する操作」(2-36ページ)と組み合わせることで、スケジュールで指定した時間に休止状態から復帰し、バックアップ完了後に再び休止状態とすることもできます。

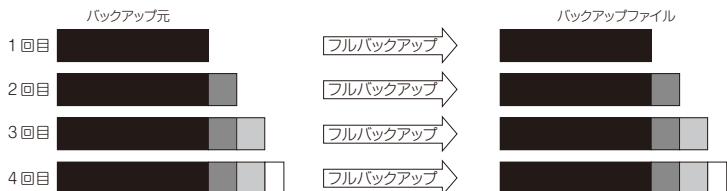
なお、スリープ/休止状態からの復帰は、コンピューター、およびWindowsの設定変更が必要となる場合があり、環境によっては、このオプションを使用できません。

バックアップの種類

BackUp Nextには3種類のバックアップ機能があります。
ここでは、それぞれのバックアップの特徴について説明します。

フルバックアップ

フルバックアップは選択したディスク、または選択したファイル、フォルダーをすべてバックアップする方式です。時間の経過とともにファイルが増えていくような環境を毎回フルバックアップする場合、バックアップファイルも少しずつ大きくなっていきます。また、よりバックアップに時間がかかるようになります。



フルバックアップしたときのファイル構成

バックアップを行うと、拡張子が.hdbのバックアップファイルと、拡張子が.hdxのインデックスファイルがペアで作成されます。

フルバックアップ.hdb フルバックアップファイル
フルバックアップ.001 } ファイルを分割する設定にした場合、指定した分割
フルバックアップ.002 } サイズで 001、002...とファイルが作成されます。
フルバックアップ.003 }
フルバックアップ.hdx バックアップファイルのインデックスファイル

このほかに拡張子が.etxのタスクファイルが作成されます。



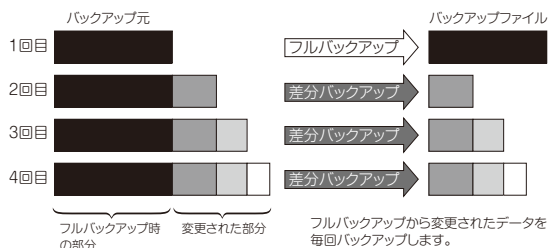
バックアップファイル (HDB ファイル)、インデックスファイル (HDX ファイル)、タスクファイル (ETX ファイル) は必ずセットにして同じフォルダーに保存してください。必要なファイルが存在しない場合は復元できません。

また、各ファイルのファイル名は変更しないでください。

差分バックアップ

差分バックアップは、初回にフルバックアップを行い、2回目以降は基準となるフルバックアップから変更されたファイルまたはセクターをバックアップする方式です。フルバックアップファイルと復元したい差分バックアップファイルの組み合わせで、どの状態で復元するかを選べます。

セクターバックアップ方式では、差分バックアップを行うことができるファイルシステムはFAT32とNTFSとなり、設定できるバックアップタスクの数は、差分、増分を合わせて10個までとなります。



Point

インデックスファイル (下のコラム参照) には、バックアップしたフォルダーやファイルの情報が記録されています。差分や増分バックアップを行うと、バックアップ終了後にフルバックアップファイルのインデックスファイルも同時に更新されます。



差分バックアップをしたときのファイル構成

差分バックアップでは最初にフルバックアップファイルが作成され、次回からはフルバックアップと同じファイル名の後ろにDIFの文字が入った差分バックアップファイルが作成されます。以降差分バックアップを行うごとに001、002・・・と差分バックアップファイルが作成され、上限は999 (999回) となります。

差分バックアップ.hdb	}	フルバックアップファイル (指定した分割サイズを超えた場合は、ファイルが分割されます)
差分バックアップ.001		
差分バックアップ.002		
差分バックアップ.003		
差分バックアップ.hdx		フルバックアップのインデックスファイル
差分バックアップ.hdx.old		1つ前のインデックスファイルのバックアップ
差分バックアップ_DIF_001.hdb		1回目の差分バックアップファイル
差分バックアップ_DIF_001.hdx		1回目の差分バックアップファイルのインデックスファイル
差分バックアップ_DIF_002.hdb		2回目の差分バックアップファイル
差分バックアップ_DIF_002.hdx		2回目の差分バックアップファイルのインデックスファイル
差分バックアップ_DIF_003.hdb	}	3回目の差分バックアップファイル (指定した分割サイズを超えた場合は、フルバックアップと同様にファイルが分割されます。)
差分バックアップ_DIF_003.001		
差分バックアップ_DIF_003.002		
差分バックアップ_DIF_003.hdx		3回目の差分バックアップのインデックスファイル

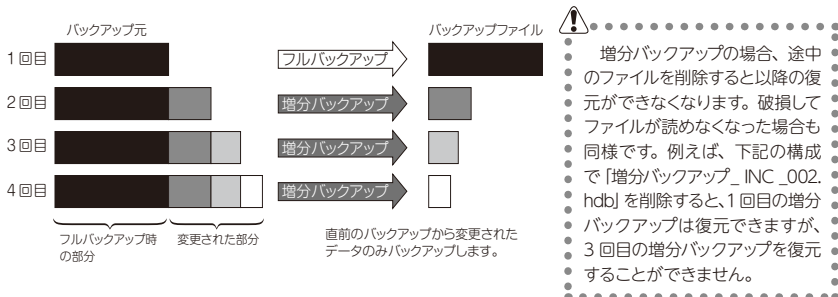
このほかに拡張子が.etxのタスクファイルが作成されます。

増分バックアップ

増分バックアップは、初回はフルバックアップを行い、2回目はフルバックアップから変更されたファイルまたはセクターのみ、3回目は2回目から変更されたファイルまたはセクターのみバックアップする方式です。以後、同様に直前に行ったバックアップファイルからの変更分をバックアップします。

最新の状態に復元するには、初回のフルバックアップから2回目、3回目……と順に復元を行っていく必要があります。

セクターバックアップ方式では、増分バックアップを行うことができるファイルシステムはFAT32とNTFSとなり、設定できるバックアップタスクの数は、差分、増分を合わせて10個までとなります。



増分バックアップをしたときのファイル構成

増分バックアップでは最初にフルバックアップファイルが作成され、次回からはフルバックアップと同じファイル名の後ろにINCの文字が入った増分バックアップファイルが作成されます。以降増分バックアップを行うごとに001、002・・・と増分バックアップファイルが作成され、上限は999(999回)となります。

増分バックアップ.hdb	フルバックアップファイル(指定した分割サイズを超えた場合は、ファイルが分割されます)
増分バックアップ.001	
増分バックアップ.002	
増分バックアップ.003	
増分バックアップ.hdx	フルバックアップのインデックスファイル
増分バックアップ.hdx.old	1つ前のインデックスファイルのバックアップ
増分バックアップ_INC_001.hdb	1回目の増分バックアップファイル
増分バックアップ_INC_001.hdx	1回目の増分バックアップファイルのインデックスファイル
増分バックアップ_INC_002.hdb	2回目の増分バックアップファイル
増分バックアップ_INC_002.hdx	2回目の増分バックアップファイルのインデックスファイル
増分バックアップ_INC_003.hdb	3回目の増分バックアップファイル(指定した分割サイズを超えた場合は、フルバックアップと同様にファイルが分割されます。)
増分バックアップ_INC_003.001	
増分バックアップ_INC_003.002	
増分バックアップ_INC_003.hdx	3回目の増分バックアップのインデックスファイル

このほかに拡張子が.etxのタスクファイルが作成されます。

オプションの設定

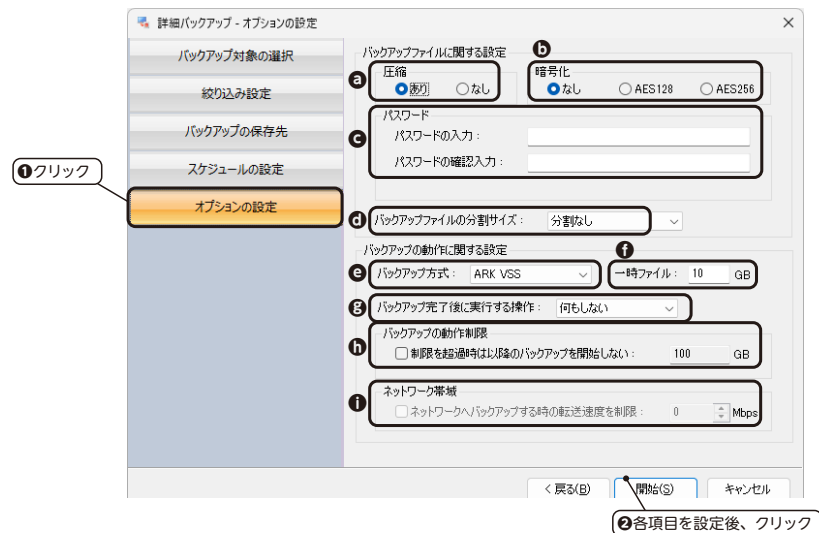
バックアップを行う際、作成されるバックアップファイルやバックアップ方式のほか、各種オプションを指定することができます。

1 「オプションの設定」を選択

バックアップ対象とバックアップ先を指定し、「オプションの設定」タブをクリックします。

2 各種項目を設定

各項目を設定した後、「開始」をクリックするとバックアップが開始します。



バックアップファイルに関する設定

① 圧縮

バックアップファイルを圧縮するかどうかを選択します。

② 暗号化

バックアップファイルを暗号化するかどうかを選択します。128ビットと256ビットが選択

でき、256ビットのほうが暗号化の強度は高くなりますが、バックアップ速度はやや低下します。

暗号化を行うにはパスワードの入力が必要です。セクターバックアップ方式では選択できません。

㉑ パスワード

バックアップファイルを復元するためのパスワードを設定します。パスワードは、英数字で16文字まで指定できます。

バックアップの動作に関する設定

㉒ バックアップ方式

バックアップの方式を変更することができます。標準では「ARK VSS」が指定されていますが、問題が生じた際に他のバックアップ方式に変更することでバックアップができる場合があります。Windows PE 起動用メディアで起動した場合は変更できません。

VSS方式

ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) を使用したバックアップ方式になります。マイクロソフト社のMicrosoft VSS か、アーク情報システムのARK VSS を選択できます。ARK VSS は、FAT32、exFAT の環境でもバックアップできます。

EFW方式

セクターバックアップ方式でバックアップを行う場合にEFW方式を選択できます。EFW方式には注意事項がありますので、バックアップを行う前に1-27ページを確認してください。

㉓ 一時ファイル

「一時ファイル」は、バックアップ中に変更されたファイルを格納するファイルです。

ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) を使用する場合、変更前のファイルを一時ファイルに格納します。EFW方式を使用する場合、変更されたファイルを一時ファイルに格納します。

この一時ファイルのサイズは1～100GBの間で指定できますが、指定した一時ファイルのサイズを変更量が超えると、バックアップは途中でキャンセルされエラーとなります。

㉔ バックアップファイルの分割サイズ

バックアップファイルのサイズを変更できます。分割サイズは、分割なし、4GB、8GB、25GB、50GBから指定できます。

なお、分割する場合は、DVD/BDの各メディアに収まるサイズでファイルが分割されます。

Microsoft VSS を選択した場合、一時ファイルのサイズは変更できません。

㉕ バックアップ完了後に実行する操作

「スリープ」「休止状態」「シャットダウン」「再起動」の中から、バックアップが完了した後のコンピューターの動作を指定します。スケジュールを設定している場合は、スケジュールによるバックアップが完了するごとに毎回指定した動作が行われます。Windows PE 起動用メディアで起動した場合は、「スリープ」と「休止状態」は選択できません。

㉖ バックアップの動作制限

バックアップ開始時に、既に作成されているバックアップファイルの総容量が、指定したサイズを超えている場合、バックアップを開始できないようにします。サイズを超えた場合はメッセージが表示され、バックアップを開始できません。容量を緩和するか、古いバックアップファイルを削除してください。

なお、バックアップファイルの容量はバックアップタスクごとに計算されるため、バックアップファイルの保存先に他のタスクで作成されたバックアップファイルがある場合、そのファイルは容量に含まれません。

㉗ ネットワーク帯域 Pro Editionのみ

転送速度を制限することでネットワークへの負荷を減らすことができます。

ネットワークドライブにバックアップ

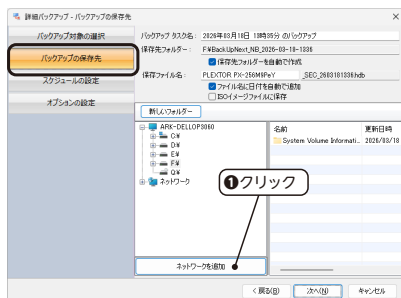
詳細バックアップでは、ネットワークドライブを指定してバックアップを行うことができます。

1 バックアップ対象の選択

詳細バックアップのウィザードでバックアップ対象を選択し「バックアップ保存先」タブに進みます。

2 ネットワークを追加

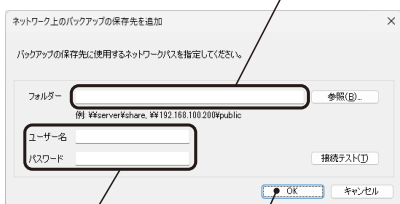
「ネットワークを追加」をクリックします。



3 ネットワークドライブの指定

次の画面が表示されますので、「参照」ボタンをクリックしてネットワークドライブをツリーの中から選択するか、入力欄下の例を参考にネットワークドライブのフォルダー名（ネットワークパス）を直接入力します。ユーザー名、パスワードを入力して「OK」をクリックします。

②バックアップ先とするネットワークドライブを入力

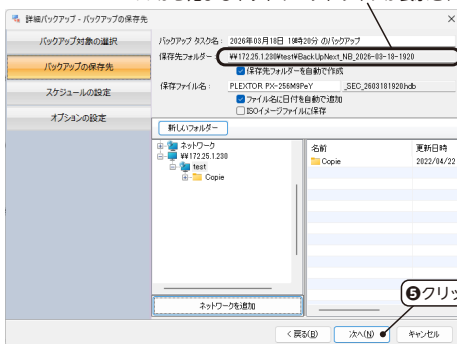


③接続に必要な情報を入力

4 バックアップの保存先を選択

「保存先フォルダー」には、指定したネットワークドライブのパスが表示されます。以降は、詳細バックアップの操作と同じとなりますので、「次へ」をクリックします。

¥¥ から始まるネットワークドライブが表示されます。



暗号化環境のバックアップについて

Windowsの暗号化機能には「デバイスの暗号化」と「BitLocker ドライブ暗号化」の2種類があり、「BitLocker ドライブ暗号化」は、WindowsのProエディション以上で使用可能です。「デバイスの暗号化」は「BitLocker ドライブ暗号化」の簡易版の位置づけとなります。

本マニュアルでは、この2種類の暗号化機能により暗号化された環境を「暗号化環境」といいます。

BackUp Nextでは暗号化環境でバックアップを行う場合、通常とは動作や仕様が異なります。ここでは、それぞれのバックアップ方式において、暗号化環境のバックアップを行う手順を説明します。

重要 はじめにお読みください

暗号化環境でバックアップを行うには、以下の注意事項があります。

●セクターバックアップ方式

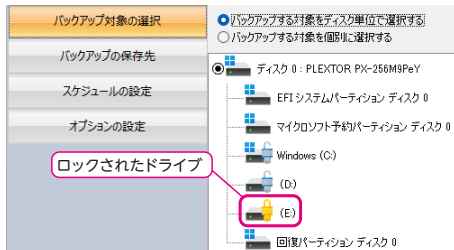
- ・暗号化されたドライブのバックアップは、「詳細バックアップ」のみ対応となります。
- ・バックアップの種類は「フルバックアップ」のみとなり、差分や増分バックアップはできません。
- ・Windows上でシステムドライブを含むバックアップを行う場合は、コンピューターを再起動してWindows回復環境（Windows RE）で行います。Windows回復環境（Windows RE）が正常に使用できない環境ではバックアップできません。
- ・バックアップはコンピューターの再起動後に行われるため、バックアップが完了するまでWindowsの操作はできません。
- ・バックアップ完了後に実行する動作は、「再起動」と「シャットダウン」のみとなり、「スリープ」と「休止状態」は選択できません。
- ・バックアップ対象ドライブの全セクターをバックアップするため、暗号化されていないドライブよりもバックアップファイルのサイズが大きくなり時間がかかります。
- ・バックアップファイルの保存先は、暗号化されたドライブとネットワークドライブを選択できません。
- ・バックアップファイルをマウントして直接ファイルを取り出すことはできません。

●ファイルバックアップ方式

- ・環境によっては、Windowsの機能が暗号化されたドライブのロック解除する必要があります。
- ・Windows 回復環境、またはWindows PE 起動用メディアで起動してバックアップを行う場合、暗号化されたFAT32/exFATのドライブ上にあるファイルはバックアップできません。

《ロックされたドライブの表示》

暗号化によりロックされたドライブは、「バックアップ対象の選択」画面で黄色の鍵がかかったアイコンとなります。



暗号化環境のセクターバックアップ方式

暗号化環境における「セクターバックアップ方式」では、ウィザードによりオプションやスケジュールを設定してバックアップを行います。

1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



2 「詳細バックアップ」の選択

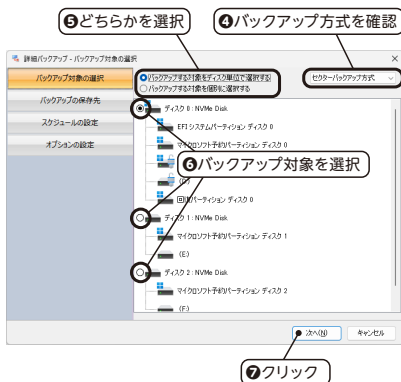
ツールバーで左から3番目の「詳細バックアップ」ボタンをクリックします。



「バックアップの選択」画面からも、「詳細バックアップ」の操作画面を呼び出すことができます。

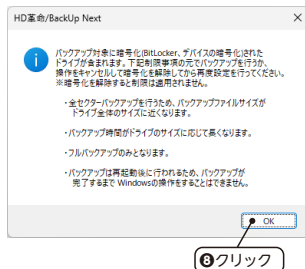
3 バックアップ対象の選択

バックアップする対象を選択します。以降の手順では一部説明を省略していますので、2-14ページから2-16ページも参照してください。



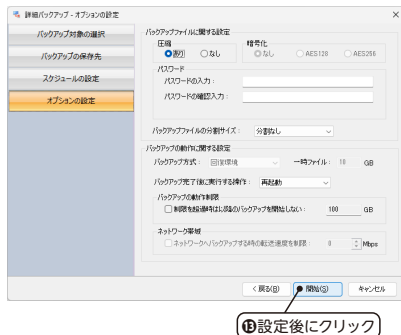
4 制限事項の確認

次のメッセージが表示されますので、内容を確認して「OK」をクリックします。



7 オプションの設定

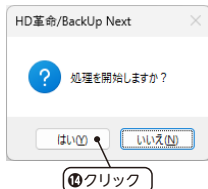
「オプションの設定」タブでは、圧縮の設定やバックアップファイルの分割サイズなどを設定します。



⑧ 設定後にクリック

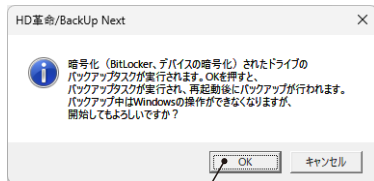
8 バックアップの開始

バックアップ前に確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



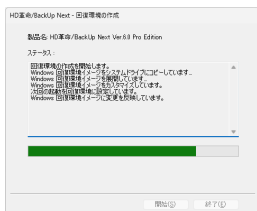
⑨ クリック

もう一度確認メッセージが表示されますので「OK」をクリックします。



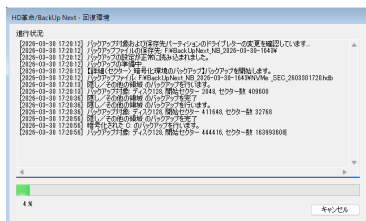
⑩ オプションを指定

暗号化環境でバックアップを行う場合は、以下の画面が表示されWindowsの回復パーティションから起動用イメージを作成します。作成が完了するとコンピューターが再起動し、そのイメージから起動してバックアップを行います。



9 バックアップの実行

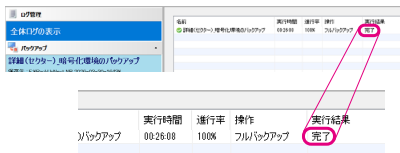
バックアップ中は、次のような画面で進行状況のウィンドウが表示されます。



10 バックアップの完了

バックアップが完了すると、コンピューターを再起動（「オプション設定」でバックアップ完了後の操作で「シャットダウン」を選択した場合はシャットダウン）します。

Windowsの起動後にメイン画面を表示すると、ログには「完了」と表示されます。



暗号化環境のファイルバックアップ方式

暗号化環境における「ファイルバックアップ方式」では、ウィザードによりオプションやスケジュールを設定してバックアップを行います。

1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



2 「詳細バックアップ」の選択

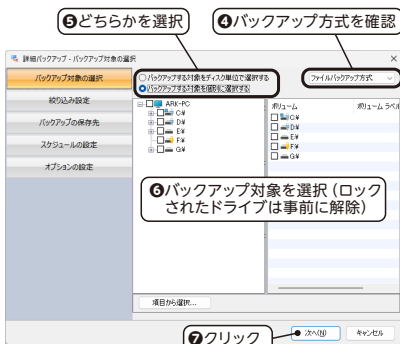
ツールバーで左から3番目の「詳細バックアップ」ボタンをクリックします。



「バックアップの選択」画面からも、「詳細バックアップ」の操作画面を呼び出すことができます。

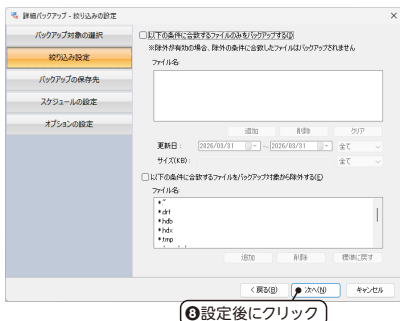
3 バックアップ対象の選択

「ファイルバックアップ方式」を選択し、バックアップする対象を選択します。以降の手順では一部説明を省略していますので、2-17ページから2-21ページも参照してください。



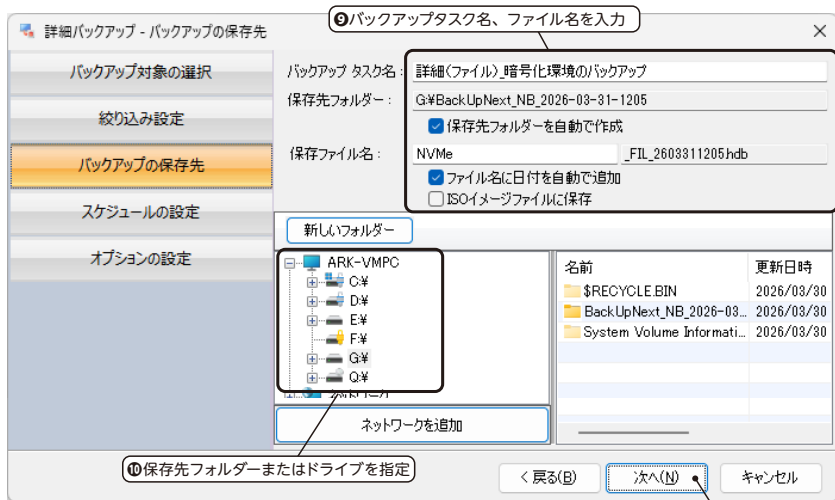
4 絞り込み設定

バックアップ対象として選択した中から、ファイルの絞り込みと除外を行うことができます。



5 バックアップの保存先を選択

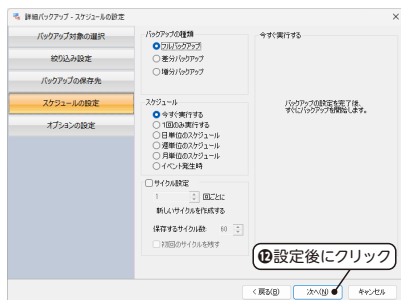
「バックアップの保存先」タブで、バックアップタスク名、ファイル名を入力します。



6 スケジュールの設定

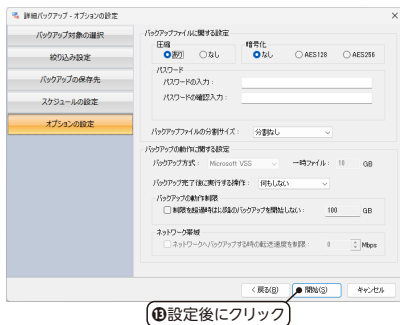
「スケジュールの設定」タブでは、バックアップの種類とスケジュールを指定します。

詳細については、2-29ページを参照してください。



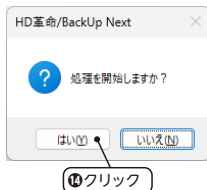
7 オプションの設定

「オプションの設定」タブでは、圧縮の設定やバックアップファイルの分割サイズなどを設定します。



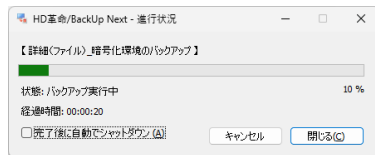
8 バックアップの開始

確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



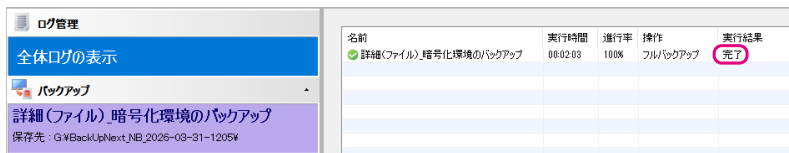
9 バックアップの実行

バックアップ中は、進行状況のウィンドウが表示されます。



10 バックアップの完了

バックアップが完了すると、ログの実行結果には「完了」と表示されます。



- Windows 上で FAT32/exFAT のドライブ上にあるファイルをバックアップする場合、バックアップ方式 (2-36 ページ) で Microsoft VSS/ARK VSS による保護は行われません。
- バックアップ中は、ファイルにアクセスしないようにしてください。

ISO イメージファイルにバックアップ

BackUp Nextでは、バックアップを行う際にISOイメージファイルとして保存することができます。

保存したISOイメージファイルは、**BackUp Next**の「ISOファイルの書き込み」機能のほかに、Windowsの「ディスクイメージの書き込み」機能でもメディアに書き込むことができます。

ワンステップバックアップ

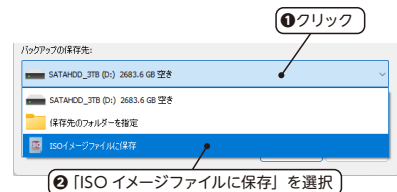
「ワンステップバックアップ」(2-9ページ)でバックアップの保存先に「ISOイメージファイル」を指定します。

1 「ワンステップバックアップ」を起動

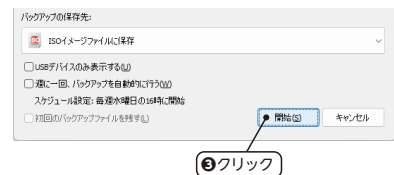
メイン画面から「ワンステップバックアップ」を起動し、バックアップ対象として「システムディスク」または「システムドライブ」を選択します。

2 保存先の選択

「バックアップの保存先」のリストから「ISOイメージファイルに保存」を選択します。



「開始」ボタンをクリックします。



3 保存先の指定と分割サイズの選択

以下の画面が表示されますので、ファイルの保存場所を指定します。

ファイルの分割サイズはBD 25GB (25GBのBD-R/REメディアに収まるサイズ)が初期値となっていますが、使用するメディアのサイズに合わせて変更することができます。ファイル名は必要に応じて変更します。

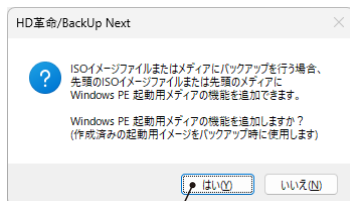
選択後に「保存」ボタンをクリックします。



4 起動用メディアの確認

「ワンステップバックアップ」、「詳細バックアップ」共に、以下のメッセージが表示されます。

「はい」をクリックすると、先頭(1枚目)のメディアが「Windows PE 起動用メディア」となりますので、メディア内のバックアップを指定して復元を行うことができます。



④起動可能にする場合は「はい」をクリック

「Windows PE 起動用メディア」を一度も作成していない場合は、1-7ページの「Windows PE 起動用メディアの作成」画面が表示され、起動用イメージを自動で作成します。

5 バックアップの開始

以降は、ワンステップバックアップの操作と同じとなります。「開始」ボタンをクリックしてバックアップを開始します。

詳細バックアップ

「詳細バックアップ（セクターバックアップ方式）」（2-15ページ）、「詳細バックアップ（ファイルバックアップ方式）」（2-19ページ）の保存先に「ISOイメージファイル」を指定します。

1 「詳細バックアップ」を起動

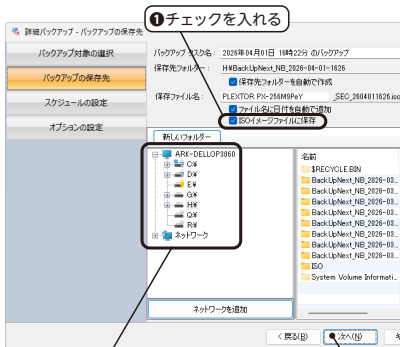
メイン画面から「詳細バックアップ」を起動します。

2 バックアップ対象の選択

「バックアップ対象の選択」タブで、バックアップ方式とバックアップ対象を選択します。

3 バックアップの保存先を選択

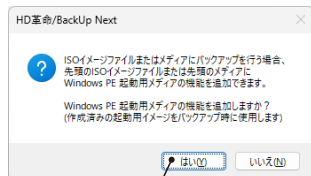
「バックアップの保存先」タブで、「ISOイメージファイルに保存」にチェックを入れ「次へ」をクリックします。



②保存先フォルダーまたはドライブを指定 ③クリック

4 起動用メディアの確認

以下のメッセージが表示されます。「はい」をクリックすると、先頭（1枚目）のメディアが「Windows PE 起動用メディア」となりますので、メディア内のバックアップを指定して復元を行うことができます。



④起動可能にする場合は「はい」をクリック

「Windows PE 起動用メディア」を一度も作成していない場合は、1-7ページの「Windows PE 起動用メディアの作成」画面が表示され、起動用イメージを自動で作成します。

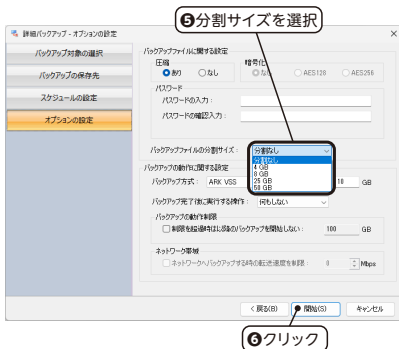
5 スケジュールの設定

「スケジュールの設定」タブでは、バックアップの種類で差分バックアップと増分バックアップは選択できません。

6 オプションの設定

「オプションの設定」タブでは、バックアップファイルの分割サイズを指定します。

ここで指定した分割サイズが、実際のISOイメージファイルのサイズになります。



7 バックアップの開始

以降は、詳細バックアップの操作と同じとなります。「開始」ボタンをクリックしてバックアップを開始します。



メディアに直接バックアップ

2-46ページの④で、「ISOイメージファイルに保存」のチェックを入れた後、バックアップ先に光学ドライブを直接指定した場合は、バックアップしながらメディアに直接書き込みすることができます。この時、6-6ページの「ISOファイルの書き込み」と同じ画面が表示されます。

メディアへの直接バックアップの場合、1枚目の

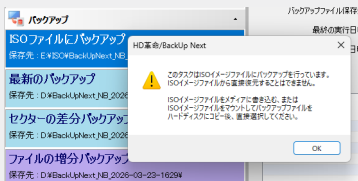


ISOイメージファイルに保存した場合のタスクと復元方法

ISOイメージファイルに保存した場合でも、メイン画面にはタスクが登録されます。バックアップ時の設定に基づき再度バックアップは可能ですが、そのままでは復元できません。メイン画面のタスクを右クリックして「詳細復元」と選択すると以下のメッセージが表示されます（復元ウィザードでタスクを選択した場合も同様）。

復元を行うには、以下の操作を行ってください。

- 1 ISOイメージファイルをメディアに書き込みます。この時、分割したサイズのメディアをISOイメージファイルの個数分用意してください。
- 2 ISOイメージファイルをWindows上でマウント（複数のISOイメージファイルがある場合は全てマウント）します。マウントしたドライブを開き、全てのファイル、フォルダーを、HDD、SSDに作成したフォルダーにコピーしてください。



メディアに収まるサイズでバックアップ後に書き込み、2枚目のバックアップ後に書き込みというように、以降バックアップと書き込みを繰り返します。

ただし、メディアに直接バックアップを行う場合、途中でバックアップや書き込みに問題が生じた場合にやり直しができません。そのため、直接バックアップを行う方法ではなく、ISOイメージファイルにバックアップして、後からメディアに書き込みを行う方法を推奨します。

タイムスライスバックアップ

タイムスライスバックアップは、ファイルバックアップ方式で一定間隔でスケジュールを設定して増分バックアップを行う機能です。Windows PE 起動用メディアで起動した場合、タイムスライスバックアップは使用できません。

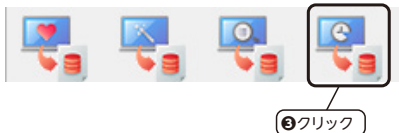
1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



2 「タイムスライスバックアップ」の選択

ツールバーで一番右の「タイムスライスバックアップ」ボタンをクリックします。



3 タイムスライスバックアップの設定

タイムスライスバックアップのメイン画面が表示されます。スイッチを「オン」にして「OK」をクリックすることで、「タイムスライスバックアップ」のバックアップタスクが登録されます。



リンクをクリックすると、設定を変更する「詳細設定」画面が開きます。

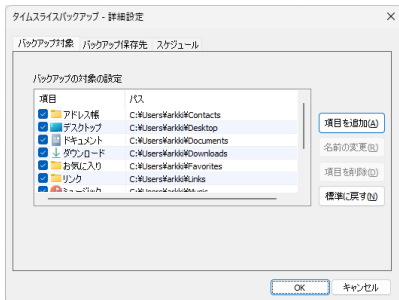
Point

タイムスライスバックアップでは、初期設定でユーザーフォルダーのいくつかの項目がバックアップ対象として指定されており、バックアップの保存先は「空き領域が一番大きいドライブ」が指定されています。これらは、各設定画面で変更が可能です。タイムスライスが「ON」の状態を設定が変更されると、フルバックアップの取り直しが行われます。

また、タイムスライスバックアップは、28日(4週間)ごとに自動的にフルバックアップの取り直しが行われるようになっています。

●詳細設定—バックアップ対象

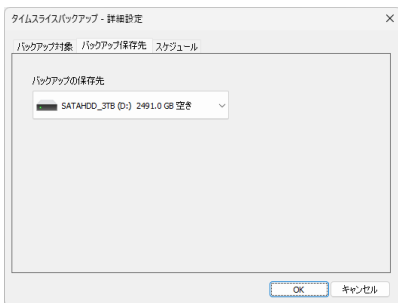
「バックアップ対象」タブでは、「ユーザーデータ」を選択します。「項目を追加」ボタンをクリックして、任意のフォルダーを追加することもできます。



タイムスライスバックアップを設定してバックアップを繰り返し行くと、バックアップ先ディスク容量が不足してファイルが保存できなくなることがあります。この状態ではバックアップを継続できませんので、保存先を変更するかバックアップファイルを削除してください。バックアップにエラーが生じた場合、メイン画面のログにエラーが記録されます。

●詳細設定—バックアップの保存先

「バックアップの保存先」タブでは、バックアップの保存先を指定します。

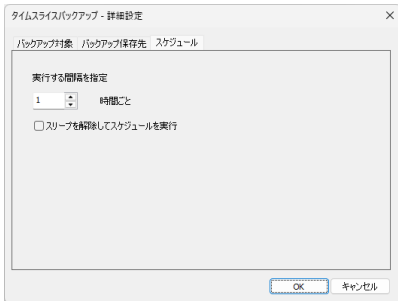


Point

タイムスライスによるバックアップファイルは、保存先として指定したドライブに作成された「BackUpNext_TS」フォルダーに保存されます。保存先ドライブの直下に作成される「TimeSliceFlag.xml」ファイルはバックアップの実行に必要なファイルとなりますので、削除しないでください。

●詳細設定—スケジュール

「スケジュール」タブでは、バックアップを実行する間隔を指定します。



実行されなかったスケジュールを選択して実行

指定した時間にバックアップを行うようにスケジュールを設定していても、コンピューターがシャットダウン状態にあるような場合は実行されません。

BackUp Nextでは、実行されなかったスケジュールがある場合、サインイン時に一覧を表示し、選択したタスクのバックアップを実行することができます。

ここでは、スケジュールを設定したバックアップタスクが実行されなかった場合の手順を説明します。

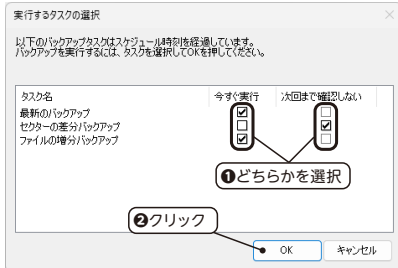
1 サインインを行う

コンピューターを起動してサインインを行います。

2 実行するタスクの選択

「実行するタスクの選択」画面が表示されますので、「今すぐ実行」または「次回まで確認しない」のどちらかのチェックボックスにチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。

「次回まで確認しない」にチェックしたタスクは、バックアップは行われずに次回のスケジュールの実行時刻になるまでタスクは表示されなくなります。



Point

どちらのチェックボックスにもチェックを入れずに「OK」または「キャンセル」ボタンをクリックすると、次回サインイン時に「実行するタスクの選択」画面が表示されます。

この画面は、表示されているタスクがなくなるまでサインイン時に繰り返し表示されます。

3 バックアップの実行

「今すぐ実行」をチェックしたタスクのバックアップが連続して実行されます。この時のメイン画面では、実行中のタスクが赤色で表示され、ログでは実行予定のタスクが待機中であることが確認できます。

ログ管理

全体ログの表示

バックアップ

最新のバックアップ

保存先: D:\BackUpNext\NB_2026-03-23-1643W

セクターの差分バックアップ

保存先: D:\BackUpNext\NB_2026-03-23-1633W

ファイルの増分バックアップ

保存先: D:\BackUpNext\NB_2026-03-23-1629W

名前	実行時間	進行率	操作	実行結果
最新のバックアップ	00:07:41	100%	フルバックアップ	完了
セクターの差分バックアップ	00:07:40	100%	差分の増分フル...	完了
セクターの差分バックアップ	00:00:11	100%	差分バックアップ	完了
ファイルの増分バックアップ	00:00:10	100%	増分の増分フル...	完了
ファイルの増分バックアップ	00:00:05	100%	増分バックアップ	完了
最新のバックアップ		12%	フルバックアップ	バックアップ実行中
ファイルの増分バックアップ			増分バックアップ	待機中

Point

複数のバックアップタスクを選択して実行する場合、同時にバックアップが行われるのではなく順番に行われます。

実行中のタスク以外は待機中となり、1つのバックアップタスクが終了すると次のバックアップタスクが開始されるようになっています。



表示されるスケジュールの条件と制限事項

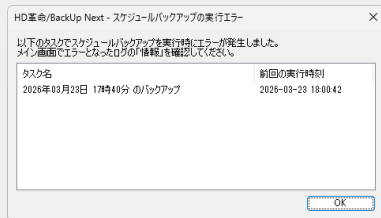
実行されなかったスケジュールバックアップが「実行するタスクの選択」画面に表示されるには、以下のような条件と制限事項があります。

- ・「実行するタスクの選択」画面に表示されるタスクは、日時を設定する「1回のみ」「日単位」「週単位」「月単位」のスケジュールが対象となり、「イベント発生時」は対象外となります。
- ・「ワンステップバックアップ」で設定する「週に一回、バックアップを自動的に行う」のスケジュールと、「タイムスライスバックアップ」で設定されているスケジュールは対象外となります。
- ・「実行するタスクの選択」画面で選択したタスクの実行中はメイン画面が起動します。バックアップはバックグラウンドで進行しますので、メイン画面を閉じて問題ありません。
- ・スケジュールにより行われたバックアップがキャンセルやエラーで正常に完了しなかった場合は、スケジュールが実行されていないと見なされ「実行するタスクの選択」画面に表示されます。
- ・「実行するタスクの選択」画面でタスクが残った状態になっていても、スケジュールによりバックアップが実行されて正常に完了した場合は表示されなくなります。



スケジュールバックアップの実行エラー

スケジュールによるバックアップの実行時にエラーが発生すると、次のサインイン時に以下の画面が表示されます。この画面では、エラーとなったタスク名が確認できます。

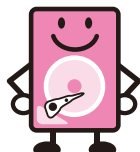


メイン画面を起動すると、該当するタスクのログにエラーが表示されています。画面を右にスクロールし「情報」欄でエラーの内容を確認してください。

操作	実行結果	状態	開始日時	終了日時	情報
増分のフルバックアップ	完了	利用可	2026/03/28 17:41:01	2026/03/28 17:42:09	
増分バックアップ	エラー		2026/03/28 18:00:42	2026/03/28 18:00:42	Ark: VSSが準備できませんでした。エラーコード: 28..
フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/28 18:45:50	2026/03/28 18:53:31	

第3章

復元



ここでは、*BackUp Next*によってバックアップファイルから、元の状態に復元する方法について説明します。

復元方式について

BackUp NextでWindowsが起動した状態からシステムドライブの復元を行うには、コンピューターを再起動して「回復環境で復元」を行います。

システムドライブ以外のドライブを復元する場合や、システムドライブを別のディスクに復元する場合は、Windowsが起動した状態で復元が行われます。

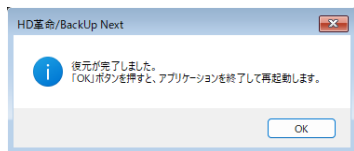
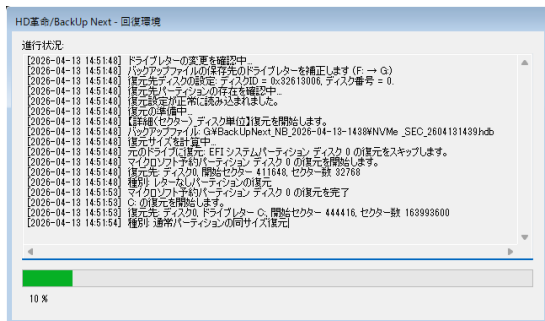
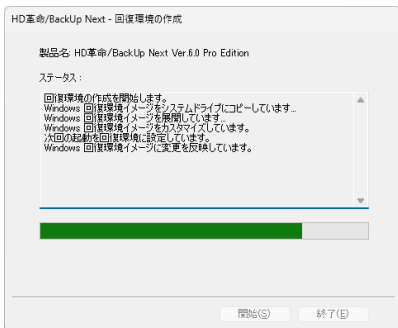
回復環境で復元

「回復環境で復元」は、再起動前に以下の画面が表示されWindowsの回復パーティションから起動用イメージを作成します。作成が完了すると再起動し、そのイメージから起動して復元を行います。

復元時は右の画面が表示され、**BackUp Next**ではこの状態を「回復環境」といいます。「回復環境」は別のシステムで起動しているため、ハードウェアを認識させるためのデバイスドライバが必要となる場合があります。

なお、回復パーティションが存在しない、または使用可能な状態にない場合は、「回復環境」を起動するための起動用イメージが作成

できないため、その環境では復元できません。「Windows PE 起動用メディア」を使用して復元を行ってください。



簡単復元

「簡単復元」では、「Welcome バックアップ」、「ワンステップバックアップ」、「簡単ウィザードバックアップ」で行ったバックアップファイルを復元することができます。

「詳細バックアップ」で行ったバックアップファイルは復元できません。

1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。

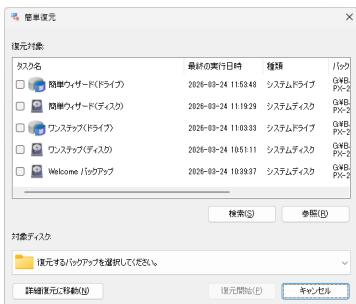


2 「簡単復元」の選択

ツールバーで右から2番目の「簡単復元」ボタンをクリックします。



「簡単復元」の操作画面が起動します。



3 復元対象の選択

一覧の中から復元対象（バックアップタスク）を選択し、「復元開始」ボタンをクリックします。



a 復元対象

復元可能なバックアップタスクの一覧が表示されます。

b 検索・参照

バックアップファイルを検索して追加、または直接指定して追加することができます。

c 対象ディスク

復元先のディスクが表示されます。Windows上で復元を行う場合は、バックアップ元ディスクが自動的に選択され変更できません。

d 詳細復元に移動

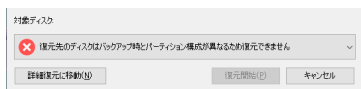
詳細復元のウィザード画面が起動します。



「簡単復元」は、バックアップを行った元の環境（バックアップ元ディスクの同じパーティション構成）に復元を行う復元方法です。

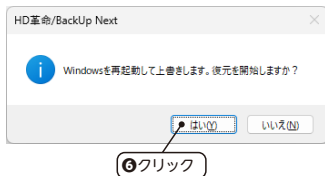
バックアップタスクを選択すると、バックアップ時の環境に合致するディスクが存在するかを検索し、見つかった対象ディスクとして指定します。対象ディスクが見つからない場合は、以下の画面のように対象ディスクの中にメッセージが表示され復元を行うことができません。

パーティションサイズの変更や、パーティションの個数を増減した場合は、「**簡単復元**」ではなく「**詳細復元**」を起動し「**パーティション単位**」の復元を行ってください。



4 復元の開始

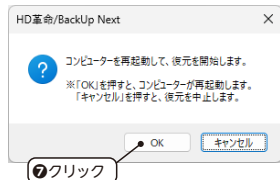
確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



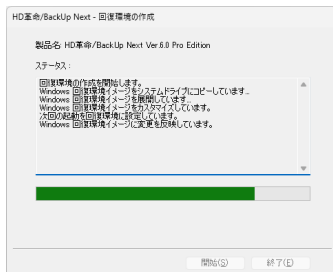
Point

「Windows PE 起動用メディア」で復元する際に表示されるメッセージは、Windows 上で復元するのとは異なり、「はい」をクリックするとすぐに復元が開始します。

Windows上で復元を行う場合は、もう一度確認メッセージが表示されますので「OK」をクリックします。復元が開始するとキャンセルはできません。復元を中止する場合は、ここで「キャンセル」をクリックしてください。

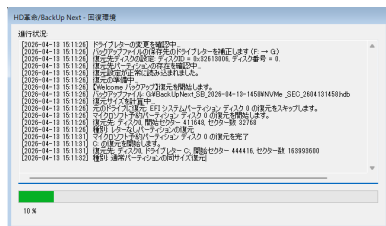


復元を行う前に以下の画面が表示されます。



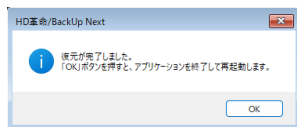
5 復元の実行

復元中は次のような画面で進行状況が表示されます。



6 復元の完了

復元後はコンピューターを再起動します。





バックアップファイルの検索と参照

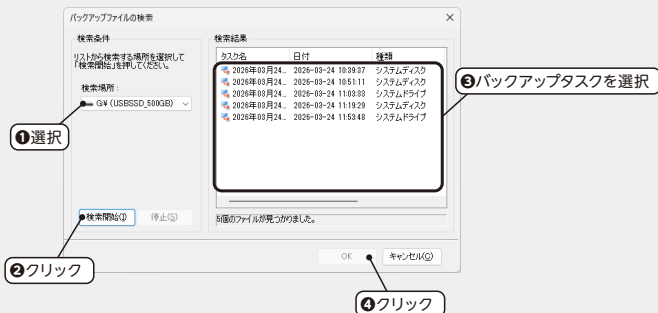
復元したいバックアップタスクが「簡単復元」の操作画面で表示されていない場合は、「検索」または「参照」ボタンをクリックして追加することができます。

●ファイルを検索して追加

「簡単復元」操作画面で「検索」をクリックすると下の検索画面が表示されます。

検索場所を選択し、「検索開始」ボタンをクリックします。

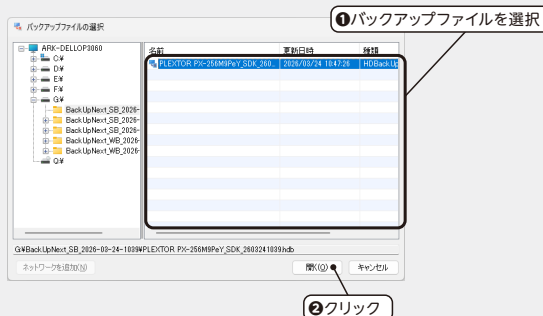
右側に追加可能なバックアップタスクが表示されますので、復元したいタスク名を選択して「OK」ボタンをクリックします。



●ファイルを指定して追加

「簡単復元」操作画面で「参照」をクリックすると下のファイル選択画面が表示されます。

フォルダツリーで復元したいバックアップファイルを指定し、「開く」ボタンをクリックします。



詳細復元（セクターバックアップ方式で「ディスク単位」）

「詳細復元」では、復元する対象や復元先を任意に指定して復元を行うことができます。

ここでは、セクターバックアップ方式でシステムディスクをバックアップしたタスクを選択し、元のディスクに「ディスク単位」で復元する手順を説明します。

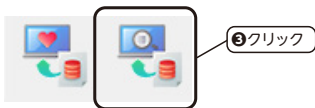
1 BackUp Next の起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→
「HD革命/BackUp Next」を選択します。

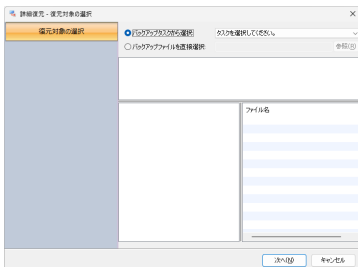


2 「詳細復元」の選択

ツールバーで一番右の「詳細復元」ボタンをクリックします。

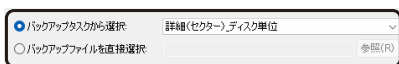


「詳細復元」の復元ウィザードが起動します。



3 復元対象の選択

メイン画面に登録されているバックアップタスクをリストの中から選択するか、直接バックアップファイル (HDB ファイル) を選択します。



④タスクまたはファイルを選択

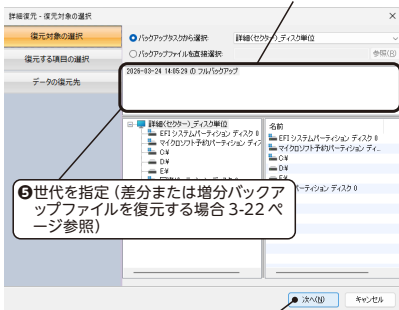


- メイン画面に登録されていないバックアップ
● タスクは「バックアップタスクから選択」に表
● 示されません。「参照」ボタンをクリックして
● 直接バックアップファイルを指定してください

選択したバックアップの世代とドライブが表示されます。

差分、増分の世代を指定して復元をする場合は、復元する世代を選択します。

選択したバックアップタスクに紐付いたバックアップの世代が表示されます。



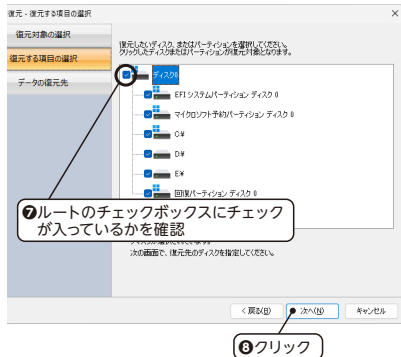
⑤世代を指定(差分または増分バックアップファイルを復元する場合 3-22 ページ参照)

⑥ クリック

4 復元する項目の選択

「復元する項目の選択」タブでは、復元したいディスク、またはパーティションを選択します。チェックが入っているものが復元対象となります。

この例ではシステムディスクを「ディスク単位」で復元しますので、すべてのチェックボックスにチェックを入れます。



Point

ルートのチェックボックスにチェックを入れると、すべてのドライブが選択状態となり「ディスク単位」の復元になります。

チェックが入っていない場合、「ディスク単位」ではなく「パーティション単位」の復元となり、次の「データの復元先」タブで画面の表示が異なります。

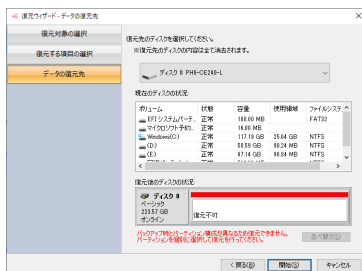
5 復元先を指定

「データの復元先」タブでは、復元先のディスクを指定します。

この例では、バックアップ元ディスクに「ディスク単位」で復元しますので、「現在のディスクの状況」で元のディスクかどうかを確認し、「開始」ボタンをクリックします。

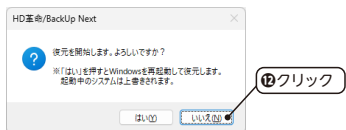


Windows上で復元を行う場合、復元先として指定したディスクのパーティション構成がバックアップ時と異なる場合は、「ディスク単位」での復元はできません。パーティションサイズの変更や、パーティションの個数を増減した場合は、「パーティション単位」の復元を行ってください。



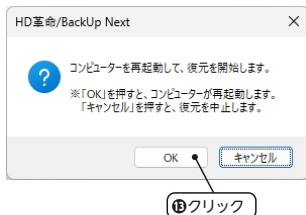
6 復元の開始

確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。

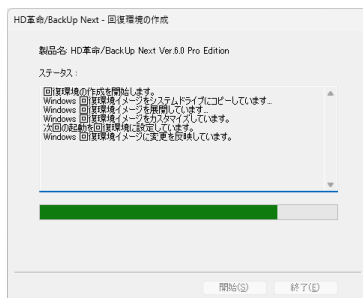


Windows上で復元を行う場合は、もう一度確認メッセージが表示されますので「OK」をクリックします。

復元が始まるとキャンセルはできません。復元を中止する場合は、ここで「キャンセル」をクリックしてください。

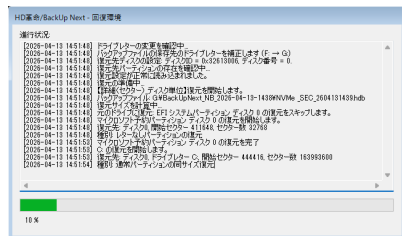


復元を行う前に以下の画面が表示されます。



7 復元の実行

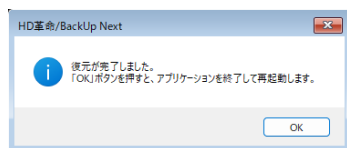
復元実行中は進行状況が表示されます。



8

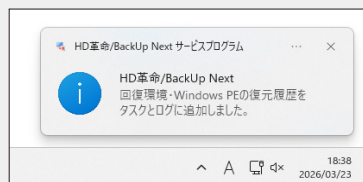
復元の完了

復元後はコンピュータを再起動します。



メイン画面起動時の復元タスクとログの登録

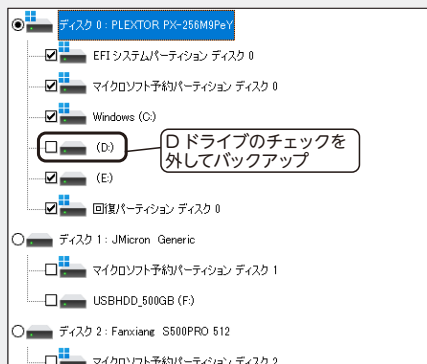
復元後にメイン画面を起動すると、直前に実行した復元のタスクとログが追加されます。このとき、Windows のアクションセンターには以下の通知が表示されます。





Dドライブを除いてバックアップした場合の復元

バックアップ時に「バックアップ対象を個別に選択する」を選択し、Dドライブのチェックを外してバックアップを行ったとします。



このバックアップファイルで元のディスクに「ディスク単位」で復元する場合は、Dドライブは復元対象外となります。

このとき、Dドライブに存在するファイル、フォルダーは復元後もそのまま残ります。



Dドライブは復元対象外

詳細復元 (セクターバックアップ方式で「パーティション単位」)

「詳細復元」は、復元する対象や復元先を任意に指定して復元を行うことができます。

ここでは、セクターバックアップ方式でシステムディスクをバックアップしたタスクを選択し、元のディスクに「パーティション単位」でシステムドライブ (Cドライブ) を復元する手順を説明します。

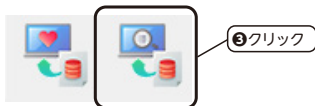
1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。

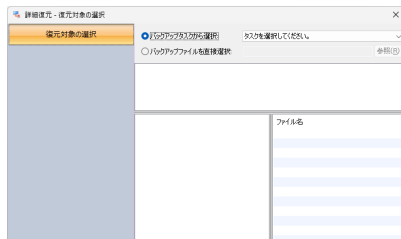


2 「詳細復元」の選択

ツールバーで一番右の「詳細復元」ボタンをクリックします。

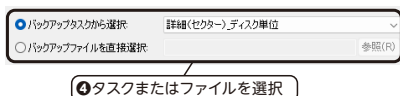


「詳細復元」の復元ウィザードが起動します。



3 復元対象の選択

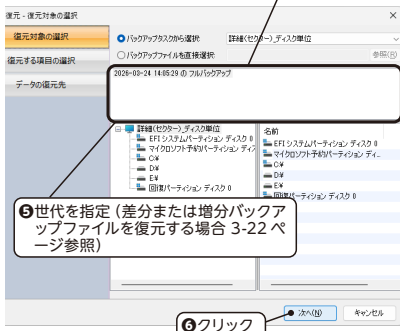
メイン画面に登録されているバックアップタスクをリストの中から選択するか、直接バックアップファイル (HDB ファイル) を選択します。



- ⚠️ メイン画面に登録されていないバックアップタスクは「バックアップタスクから選択」に表示されません。「参照」ボタンをクリックして、直接バックアップファイルを指定してください。

選択したバックアップの世代とドライブが表示されます。差分、増分の世代を指定して復元をする場合は、復元する世代を選択します。

選択したバックアップタスクに紐付いたバックアップの世代が表示されます。



例1：システムドライブを復元する

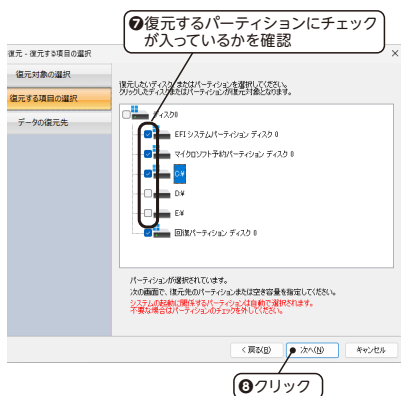
(元のディスクにDドライブを復元する例については、次ページの④～⑧を参照)

4

復元する項目の選択

「復元する項目の選択」タブでは、復元したいディスク、またはパーティションを選択します。チェックが入っているものが復元対象となります。

この例ではシステムドライブを「パーティション単位」で復元しますので、Cドライブにチェックを入れます。



Point

システムドライブを復元する場合、Windowsの起動に必要なパーティションも同時にチェックが入ります。

5

復元先を指定

「データの復元先」タブでは、復元先のディスクと復元先のパーティションを指定します。

この例では、バックアップ元ディスクのシステムドライブに「パーティション単位」で復元しますので、「現在のディスクの状況」でCドライブにチェックを入れ、「開始」ボタンをクリックします。

⑨ 復元先ディスクを選択

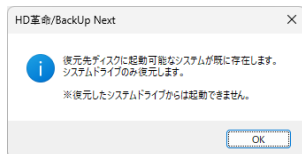


① 復元先のパーティションにチェック

① クリック



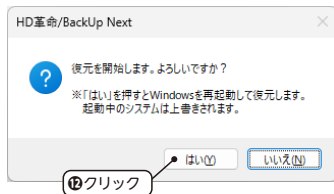
システムドライブ以外（この例ではCドライブ以外）も復元先として選択は可能ですが、既にシステムドライブが存在するために、復元先からWindowsを起動させるようにできません。このとき、以下のメッセージが表示されます。



6

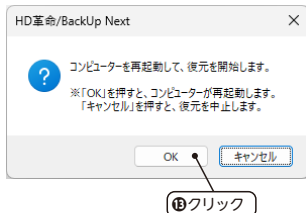
復元の開始

確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。

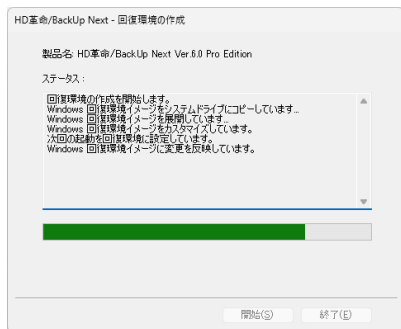


Windows上で復元を行う場合は、もう一度確認メッセージが表示されますので「OK」をクリックします。

復元が開始するとキャンセルはできません。復元を中止する場合は、ここで「キャンセル」をクリックしてください。



復元を行う前に以下の画面が表示されます。



7 復元の実行

復元実行中は進行状況が表示されます。

8 復元の完了

復元後はコンピューターを再起動します。

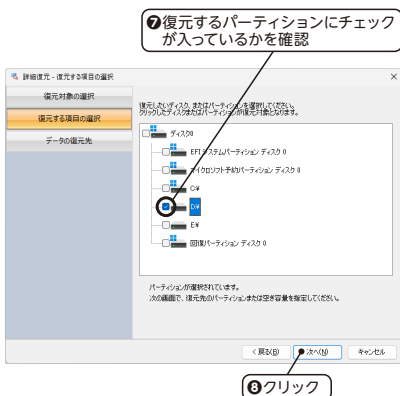
例2：Dドライブを復元する

(システムドライブを復元する例については、前ページの4～8を参照)

4 復元する項目の選択

「復元する項目の選択」タブでは、復元したいディスク、またはパーティションを選択します。チェックが入っているものが復元対象となります。

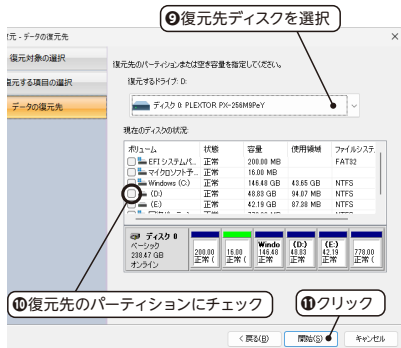
この例では、Dドライブを「パーティション単位」で復元しますので、Dドライブにチェックを入れます。



5 復元先を指定

「データの復元先」タブでは、復元先のディスクと復元先のパーティションを指定します。

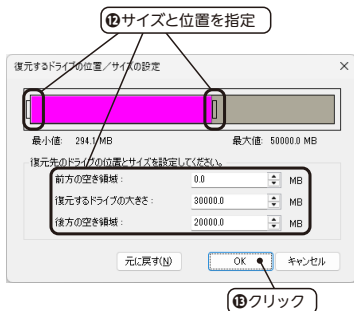
この例では、バックアップ元ディスクのDドライブに「パーティション単位」で復元しますので、「現在のディスクの状況」でDドライブにチェックを入れます。



システムドライブ以外（この例ではDドライブ）に復元を行う場合、チェックを入れると「復元するドライブの位置／サイズの設定」画面が表示されます。

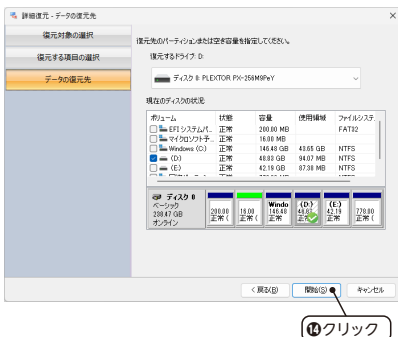
バーをマウスで操作するか、数値を入力してサイズと位置を指定します。

元のサイズで復元するには、そのまま「OK」ボタンをクリックします。



⚠️ セクターバックアップ方式で差分、増分バックアップを行っている場合は、フルバックアップを指定すると、上記の画面で位置とサイズを変更できます。差分、増分のバックアップファイル指定すると、位置は変更できますがサイズを変更することはできません。

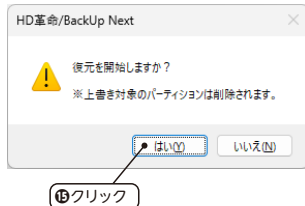
Dドライブが選択された状態となりますので、「開始」ボタンをクリックします。



6

復元の開始

確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。

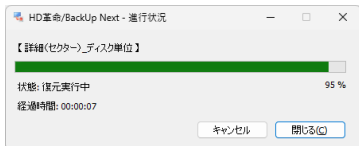


7

復元の実行

この復元手順では、Windowsが起動した状態で復元が行われます。

復元中は、進行状況のウィンドウが表示されます。「閉じる」をクリックするとこの画面は閉じますが、復元はそのまま続行します。



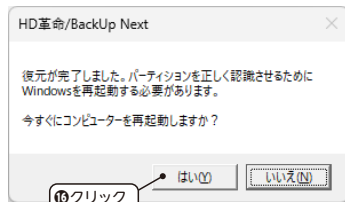
Windows 上で行われる復元の途中でキャンセルを行うと、ファイルの整合性が取れなくなり、Windows に問題が発生する危険性があります。

できる限り復元中のキャンセルは行わないようにしてください。

8

復元の完了

復元が完了するとメッセージが表示されますので、「はい」をクリックしてWindowsを再起動してください。



Windows を再起動せずに復元したドライブにアクセスすると、ドライブを開けない場合やフォーマットを行うダイアログが表示される場合があります。



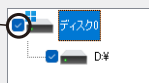
パーティションが1つしかない場合の復元

バックアップ時に「バックアップ対象を個別に選択する」を選択し、Dドライブのみバックアップを行ったとします。



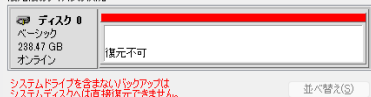
「復元する項目の選択」タブではパーティションが1つ（Dドライブ）しか選択されていませんが、ディスクのルートにチェックが入っているため「ディスク単位」として扱われます。

ルートにチェックが入っているため「ディスク単位」となります。



元のDドライブの位置に復元を行うため「データの復元先」タブに移動すると、「復元不可」と表示され復元ができません。

復元後のディスクの状況



このような場合は、Dドライブのみがチェックされた状態にして「パーティション単位」の復元を行ってください。

Dドライブをクリックするとルートのチェックが外れます。





別のディスクに復元するときのディスク状況

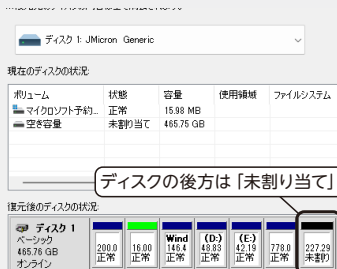
Windows上で別のディスクに「ディスク単位」で復元する場合は、ディスクを初期化して復元が行われます。このとき、復元先ディスクの容量により「データの復元先」タブの表示が変わります。

以下に、システムディスク（ディスク0）にC、D、Eのドライブがある環境をバックアップしていったときを例として説明します。

●復元先ディスクが大きい場合

復元先ディスクが大きい場合、初期状態ではバックアップ元のディスク構成がそのまま表示されます。

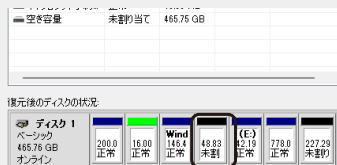
このとき、ディスクの後方は「未割り当て」となります。



パーティションをクリックするとサイズの変更・移動を行います。
初期設定に戻すには「並べ替え」を実行してください。

並べ替え(S)

Dドライブを除いてバックアップした場合の復元においては、Dドライブが存在していた位置に「未割り当て」ができます。



パーティションをクリックするとサイズの変更・移動を行います。
初期設定に戻すには「並べ替え」を実行してください。

並べ替え(S)

Dドライブの位置が「未割り当て」

●復元先ディスクが小さい場合

復元先ディスク容量が小さい場合は、各パーティションが自動的に縮小されます。

復元先ディスクには、バックアップ元ディスク

で各パーティションの使用領域合計よりも大きい容量が必要となり、復元先ディスクに収まらないと復元はできません。

復元先のディスクを選択してください。

※復元先のディスクの内容は全て消去されます。



復元後のディスクの状況



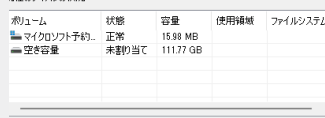
パーティションをクリックするとサイズの変更・移動を行います。
初期設定に戻すには「並べ替え」を実行してください。

並べ替え(S)

ディスクに合わせて縮小

Dドライブを除いてバックアップした場合はDドライブの位置が「未割り当て」とならず、その他のパーティションが自動的に縮小され、先頭から詰めて配置されます。

現在のディスクの状況



復元後のディスクの状況



パーティションをクリックするとサイズの変更・移動を行います。
初期設定に戻すには「並べ替え」を実行してください。

並べ替え(S)

Dドライブを除いて、ディスクに合わせて縮小

別のディスクに復元する場合は、「復元後のディスクの状況」のバーで各パーティションをクリックすると「復元するドライブの位置/サイズの設定」画面が表示され、パーティション構成を調整できます（差分、増分はサイズ変更不可）。



復元を開始するとドライブをフォーマットするかどうかのダイアログが表示される場合がありますが、フォーマットは行わずにそのままにしておいてください。

復元するドライブの位置/サイズの設定

最小値: 56280.8 MB 最大値: 476938.0 MB

復元先のドライブの位置とサイズを設定してください。

前方の空き領域: 0.0 MB

復元するドライブの大きさ: 150994.0 MB

後方の空き領域: 325944.0 MB

元に戻す(N) OK キャンセル



パーティションの並べ替え

別のディスクへ「ディスク単位」で復元を行う場合は、画面下の「並べ替え」ボタンをクリックすることで「回復パーティション」の移動方法を選択できます。

「Windows PE 起動用メディア」で起動した場合は、元のディスクに復元する場合も同様の動作となります。

「並べ替え」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。選択した内容により「復元後のディスクの状況:」に表示されるディスクの構成が変わります。

詳細復元 - データの復元先

復元対象の選択

復元する項目の選択

データの復元先

復元先のディスクを選択してください。
※復元先のディスクの内容は全て消去されます。

ディスク 2: JMicron Generic

現在のディスクの状況

ボリューム	状態	容量	使用領域	ファイルシステム
空き容量	未割り当て	465.78 GB		

1 クリック

復元後のディスクの状況

ディスク	パーティション	容量	状態	ファイルシステム
ディスク 2	パーティション 1	200.0 GB	正常	NTFS
ディスク 2	パーティション 2	16.00 GB	正常	NTFS
ディスク 2	パーティション 3	16.00 GB	正常	NTFS
ディスク 2	パーティション 4	49.00 GB	正常	NTFS
ディスク 2	パーティション 5	778.0 GB	正常	NTFS
ディスク 2	パーティション 6	227.29 GB	未割り当て	

パーティションをクリックするとサイズの変更・移動を行います。
初期設定に戻すには「並べ替え」を実行してください。

並べ替え(S)

< 戻る(B) 開始(S) キャンセル

データの復元先 - オプション設定

2 移動方法を選択

パーティションの並べ替え

パーティションを以下の設定で並べ替えることができます。

☒ バックアップ時の構成を維持(N)

☐ 回復パーティションを前方に移動(B)

☐ ドライブレターなしのパーティションを全て前方に移動(N)

※ 変更を適用するとパーティションが再編成されます。
実行したサイズの変更・移動は破棄されますのでご注意ください。

OK キャンセル

3 クリック

●バックアップ時の構成を維持

バックアップ時のドライブ構成がそのまま表示されます。パーティションの構成を変更前の状態に戻す場合は、こちらを選択した状態で「OK」ボタンをクリックします。

●回復パーティションを前方に移動

Windowsによって自動的に作成されるマイクロソフトの「回復パーティション」のみ前方に移動します。「回復パーティション」が複数存在する場合はすべて前方に移動します。



MBR ディスク環境をバックアップしたバックアップファイルは、並べ替えを行うことはできません。

●ドライブレターなしのパーティションを全て前方に移動

マイクロソフトの「回復パーティション」のほかに、メーカー独自のリカバリー用パーティションや、Windows以外のOSで作成されたパーティション、ドライブ文字が存在しないパーティションをすべて前方に移動します。

なお、「パーティション単位」で復元を行う場合「並べ替え」ボタンは表示されませんが、復元先ボリュームの選択時に右上のメッセージが表示され、マイクロソフトの「回復パーティション」を前方に移動することができます。

HD革命/BackUp Next



回復パーティションがシステムドライブの後方にあります。復元する際に前方に移動しますか？

はい(Y)

いいえ(N)

現在のディスクの状況

ボリューム	状態	容量	使用領域	ファイルシステム
EFI システムパ.	正常	200.00 MB		FAT32
マイクロソフト予.	正常	16.00 MB		
回復パーティシ.	正常	778.00 MB		NTFS
Windows (C:)	正常	243.17 GB	43.61 GB	NTFS
空き容量	未割り当て	221.62 GB		

ディスク 2	ボリューム	容量	状態	使用領域	ファイルシステム
ペンタック	200.00 MB	正常			
オンライン	16.00 MB	正常			
	778.00 MB	正常			
	243.17 GB	正常			
	221.62 GB	未割り当て			

前方に移動された「回復パーティション」



復元を行ったときのタスクの登録について

バックアップタスクを複数登録（作成）している場合、復元を行うタスクによっては、復元後に登録されているバックアップタスクが削除されてしまう場合があります。

例えば、下記のような手順で操作を行うことで発生します。復元後にスケジュールを設定しているタスクが削除されてしまったような場合は、「バックアップファイルからタスクを再構成」機能を利用してください。

＜操作手順例＞

- ①最初にフルバックアップを行ったとします。ここで、「タスクとログ」画面にタスクが1つ登録されます。
- ②次に、最初のフルバックアップとは別に、新しく増分バックアップを行ったとします。ここで、「ログとタスク」画面には、2つ目のタスクが登録されます。
- ③復元が必要になったときに、最初のフルバックアップを行ったタスクを選択して復元を行ったとします。
- ④最初のフルバックアップ時においては、2回目の増分バックアップは行われていないのでタスクは存在しません。そのため、復元後に「タスクとログ」画面では2つ目のバックアップタスクは存在しない（削除された）状態となります。

詳細復元（ファイルバックアップ方式）

「詳細復元」は、復元する対象や復元先を任意に指定して復元を行うことができます。

ここでは、ファイルバックアップ方式でDドライブをバックアップしたタスクを選択し、復元する手順を説明します。

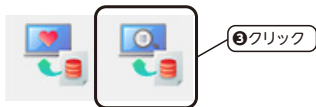
1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。

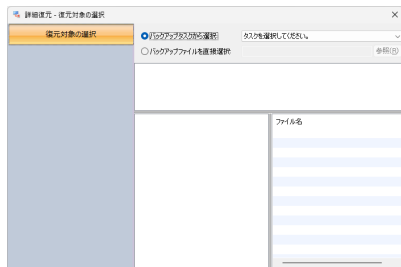


2 「詳細復元」の選択

ツールバーで一番右の「詳細復元」ボタンをクリックします。

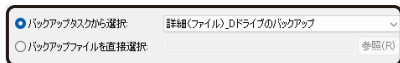


「詳細復元」の復元ウィザードが起動します。



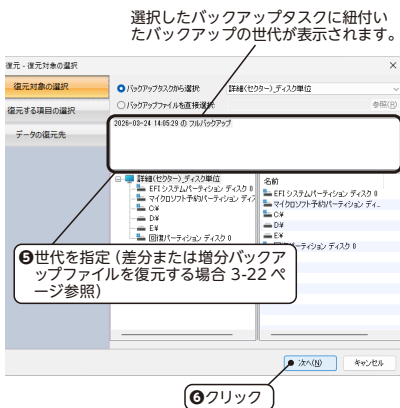
3 復元対象の選択

メイン画面に登録されているバックアップタスクをリストの中から選択するか、直接バックアップファイル（HDB ファイル）を選択します。



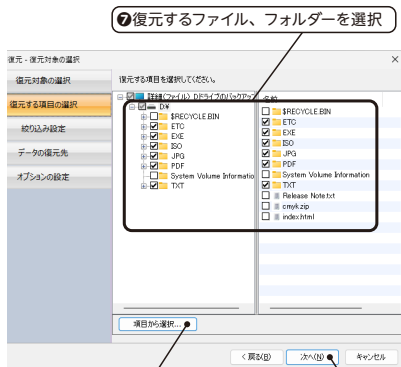
- メイン画面に登録されていないバックアップタスクは「バックアップタスクから選択」に表示されません。「参照」ボタンをクリックして直接バックアップファイルを指定してください。

選択したバックアップの世代とドライブが表示されます。差分、増分の世代を指定して復元をする場合は、復元する世代を選択します。



4 復元する項目の選択

「復元する項目の選択」タブでは、復元したいファイル、フォルダーを選択します。チェックが入っているものが復元対象となります。



バックアップ時と同様に項目を選択して復元することができます。
設定方法はバックアップ時と同じです。

Point

復元時にも項目を指定して復元を行うことができます。

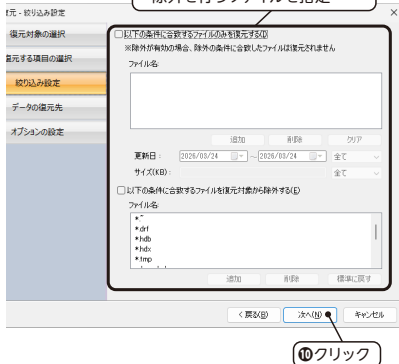
ただし、バックアップファイルに含まれない項目（ファイル、フォルダー）を指定しても復元は行われません。

5 絞り込み設定

「ファイルバックアップ方式」でバックアップしたファイルを復元する場合、「絞り込み設定」タブで復元するファイルの中から絞り込みと除外を行うことができます。

詳細についてはバックアップ時と同様なので、2-23、2-24 ページを参照してください。

9 復元対象の中から、絞り込みと除外を行うファイルを選択

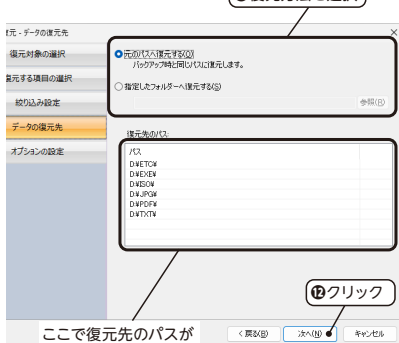


6 復元先を指定

「データの復元先」タブでは、復元先を指定します。

バックアップ時と同じパスに復元するか、指定したフォルダーに復元するかを選択できます。

11 復元方法を選択



ここで復元先のパスが確認できます。



- 「指定したフォルダーへ復元する」を選択した場合、復元先パスの長さは 260 文字までとなります。

Point

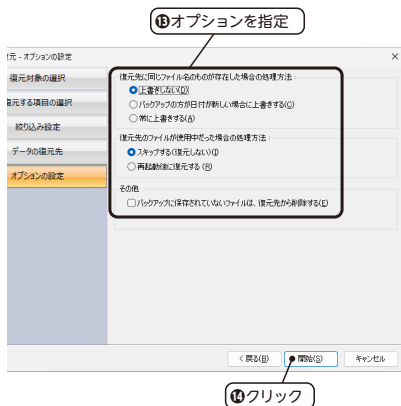
指定したフォルダーへ復元する場合は、「参照」ボタンをクリックして「フォルダーの参照」画面で復元先を指定します。



7 オプションの選択

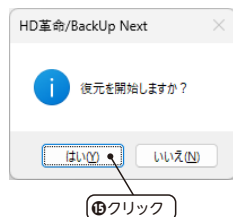
「オプションの設定」タブでは、復元に関するオプションを設定します。オプションの詳細については、2-35 ページを参照してください。

処理方法を確認し、「開始」ボタンをクリックします。



8 復元の開始

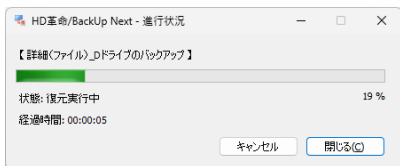
確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。設定したオプションの内容で復元が開始します。



9 復元の実行

この復元手順では、Windows が起動した状態で復元が行われます。復元中は、進行状況のウィンドウが表示されます。

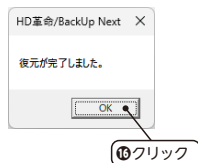
「閉じる」をクリックするとこの画面は閉じますが、復元はそのまま続行します。



10 復元の完了

復元が完了するとメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。

メイン画面では、復元タスクとログが登録されます。



Point

ログの「実行結果」列には、「キャンセル」や「エラー」のほかに、復元が完了しても「完了（警告あり）」や「完了（情報あり）」と表示されることがあります。

例えば、ファイルバックアップ方式では、復元時のオプション設定で同じファイル名のファイルが存在した場合の復元方法で「上書きしない」を選択した場合がこれに当たります。

操作	実行結果	状態	開始日時	終了日時	情報
復元	完了		2026/03/24 15:44:47	2026/03/24 15:45:16	
フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/24 14:54:08	2026/03/24 14:55:21	
復元	完了		2026/03/24 14:44:37	2026/03/24 14:44:40	
フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/24 14:29:45	2026/03/24 14:36:53	
フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/24 14:05:29	2026/03/24 14:13:01	
復元	完了		2026/03/24 13:49:42	2026/03/24 13:52:43	
復元	完了(警告あり)		2026/03/24 17:34:29	2026/03/24 17:34:30	スキップされたファイルがあります。
復元	完了(警告あり)		2026/03/24 17:35:29	2026/03/24 17:35:29	スキップされたファイルがあります。
復元	完了		2026/03/24 17:36:00	2026/03/24 17:36:30	

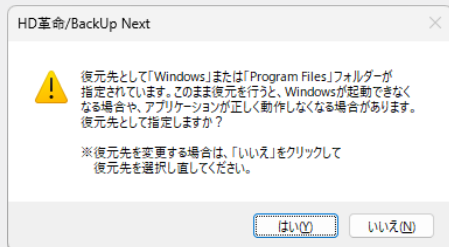


復元先に「Windows」または「Program Files」が指定された場合の注意

「Windows」と「Program Files」フォルダーには、Windowsやアプリケーションを動作するための重要なファイルが保存されています。

バックアップ時に「Windows」や「Program Files」を含んでバックアップし、「元のパスへ復元する」を選択して復元を行うと、Windowsやアプリケーションが正常に動作しなくなる恐れがあるため、下の注意メッセージが表示されます。

なお、このような形で復元を行ってもWindowsの修復や環境移行はできませんので、復元は行わないようにしてください。



差分、増分バックアップの復元

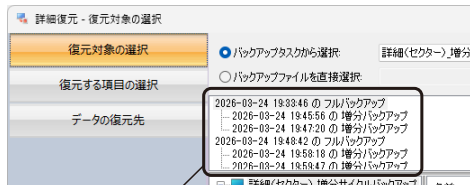
BackUp Nextで差分バックアップまたは増分バックアップしたバックアップファイルを復元する場合、復元対象の選択画面でどの世代のファイルを復元するか指定することができます。

1 世代の指定

復元する差分バックアップ、または増分バックアップの世代を指定します。指定した世代ファイルにより下のツリーの内容が変わります。



バックアップ時に「サイクル設定」を設定している場合は、サイクルごとにツリーで表示されます。



Point

メイン画面のログ（4-8 ページ参照）で、差分、増分バックアップの初回フル履歴を削除した場合は、「復元対象の選択」タブでそのサイクルのツリーは表示されません。「バックアップファイルを直接選択」から、復元するサイクルのバックアップファイルを直接選択してください。

また、差分、増分バックアップの世代履歴を削除した場合、メイン画面のログには表示されなくなりますが、「復元対象の選択」タブでは削除した世代も表示されます。

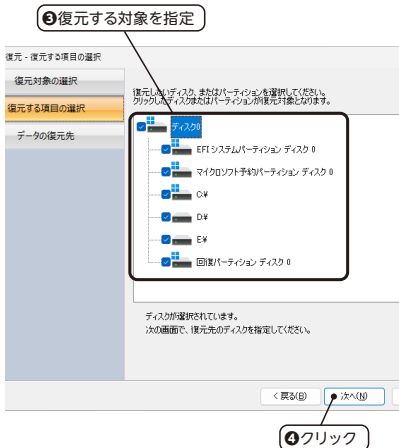
同じバックアップタスクで繰り返しフルバックアップを行っている場合は、フルバックアップとして表示されます。



フルバックアップとして表示されます。

2 復元する項目の選択

セクターバックアップ方式でバックアップしている場合は、復元したいディスク、またはパーティションを選択します。



⚠ 差分、増分バックアップファイルを復元する場合、位置とサイズの設定はできません。

ファイルバックアップ方式でバックアップしている場合は、ファイル、フォルダーを選択します。



以降の操作は、各復元方法のページを参照してください。

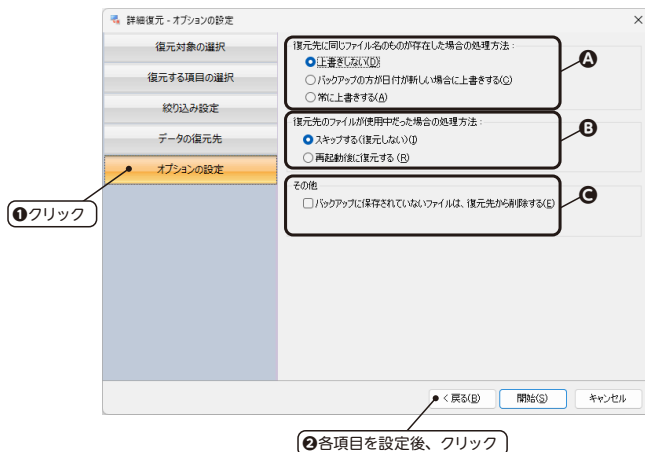
復元オプションの設定 (ファイルバックアップ方式の復元)

ファイルバックアップ方式でバックアップした場合、ファイルの処理に関するオプションを指定することができます。

ここでは、各オプションの動作について説明します。

「オプションの設定」を選択

復元ウィザードで「オプションの設定」タブをクリックします。



A 復元先に同じファイル名の場合の処理方法

ファイルバックアップ方式でのバックアップでは、復元時に同名のファイルが存在する場合、その処理方法を選択します。

● 上書きしない

同名のファイルが存在した場合は上書きせず、現在のファイルが保持されます。

● バックアップファイルの日付が新しい場合に上書きする

バックアップしたファイルと現在のファイル

の「更新日時」を比較し、バックアップしたファイルの「更新日時」が新しい場合のみ上書きされます。

● 常に上書きする

同名のファイルが存在する場合は、常にバックアップしたファイルで上書きされます。

B 復元先のファイルが使用中だった場合の処理方法

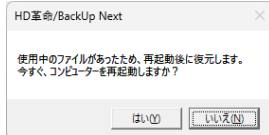
復元を行うファイルが開かれていたり、ほかのアプリケーションでロックされていたりすると、そのまま復元はできません。ファイルが使用中だった場合の処理方法を選択します。

●スキップする（復元しない）

使用中のファイルをスキップして復元が続きます。スキップしたファイルは、復元後にタスクのログで確認できます。

●再起動後に復元する

使用中のファイルを再起動後に復元します。このときに右のメッセージが表示されますので、コンピューターを再起動してください。



Point

復元先のフォルダーに復元するために一時的に「_Ark」のフォルダーが作成されますが、このフォルダーは復元後に自動的に削除されます。

C その他

復元を行う場合の動作を選択します。

- バックアップに保存されていないファイルは、復元先から削除する
バックアップしたときのファイル構成で復元

が行われます。

バックアップ時に存在していないファイルは削除されますので注意が必要です。

Point

オプション名および文中ではファイルと表記されていますが、フォルダーにおいてもファイルと同じ処理が行われます。



復元時のパスワード入力

バックアップのオプション設定でパスワードを設定した場合は、復元時にパスワードを入力する画面が表示されます。

ここで正しいパスワードを入力することで、復元を行うことができます。

なお、パスワードを忘れてしまった場合、復元を行うことはできません。

復元用のパスワード入力

[2026-03-25 14:11:35 のフルバックアップ] には、パスワードが暗号化されています。

パスワードの入力:

OK

キャンセル



複数のメディアに分かれたバックアップファイルを復元する

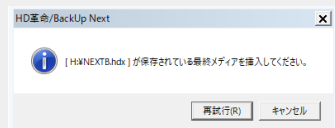
ISOイメージファイルにバックアップし（2-45ページ）、複数枚のメディアに書き込みを（6-6ページ）行ったとします（1枚目はWindows PE 起動用メディアにしたとします）。

複数枚のメディアにわたったシステムドライブの復元を行う場合は、以下のような操作を行います。

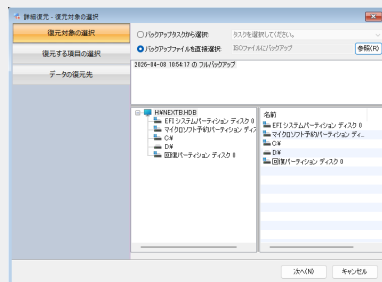
- 1 1枚目のメディアから起動（1-12ページ）し、**BackUp Next**のメイン画面で「詳細復元」ボタンをクリックします。

「バックアップファイルを直接選択」で「参照」ボタンをクリックし、メディア内に存在するバックアップファイル（HDBファイル）を指定します。

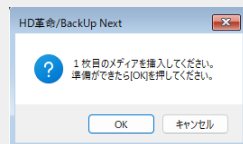
すると次のメッセージが表示されますので、インデックス（HDXファイル）が存在する最終メディアを挿入します。



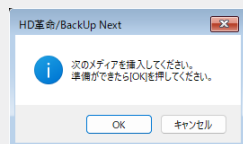
- 2 インデックスが正しく読み込まれると、「復元対象の選択」が表示されます。通常の復元と同じように「復元する項目の選択」、「データの復元先」を指定して「開始」ボタンをクリックします。



- 3 次のメッセージが表示されますので、1枚目のメディアを挿入して「OK」ボタンをクリックします。



- 4 1枚目のメディア内にあるバックアップファイルの復元が開始されます。次のメディアの挿入メッセージが表示されたら、メディアを入れ替えて「OK」ボタンをクリックします。以降、メディアの枚数分繰り返します。



復元が完了するとメイン画面に戻ります（復元タスクが登録されています）。メイン画面を閉じてコンピュータを再起動してください。



スケジュールの再設定

スケジュールでバックアップを行っているバックアップタスクを選択して復元を行うと、復元後にスケジュールの再設定が必要となる場合があります。

スケジュールの再設定は、以下の手順で行うことができます。

1 **BackUp Next**のメイン画面でバックアップタスクを選択し、画面右側の「詳細設定」ボタンをクリックします。

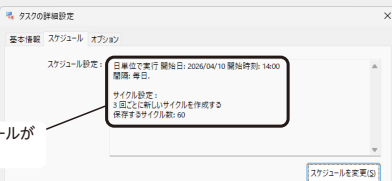
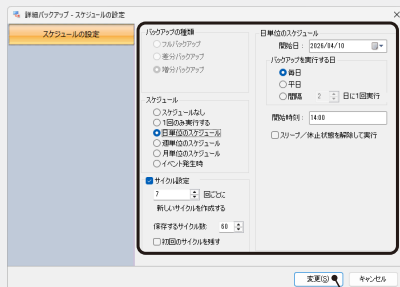
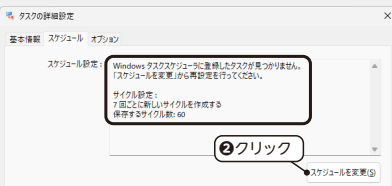
2 「タスクの詳細設定」画面が起動し、スケジュールが無効となっている場合は、「スケジュール設定」に「Windows タスクスケジューラに登録したタスクが見つかりません」と表示されています。再設定を行うには、「スケジュールを変更」ボタンをクリックします。

3 「スケジュールの設定」タブのみが表示されたバックアップウィザードが起動します。スケジュールを設定し「変更」ボタンをクリックします。

4 確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。

5 再設定したスケジュールでバックアップが行われます。

変更されたスケジュールが確認できます。



暗号化環境のバックアップファイルを復元

BackUp Nextでは、暗号化環境でバックアップをおこなったバックアップを復元する場合、基本的な操作は暗号化していない環境と同じです。しかし、いくつかの制限事項がありますので例を挙げて説明します。

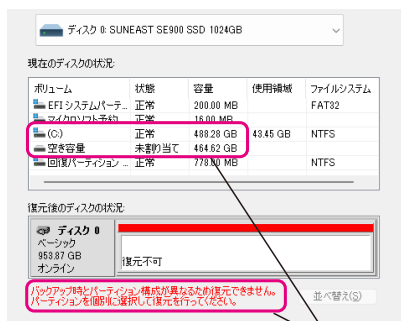
セクターバックアップ方式

例1：復元先のパーティション構成が異なるケース

以下は、システムディスクをディスク単位でバックアップした環境を、同じディスクに復元しようとした時の画面ですが、Cドライブの後ろが「空き容量」となっています。

暗号化していない環境をバックアップした場合は、パーティション単位での復元を選択することで復元は可能です。しかし、暗号化環境をバックアップした場合は、同じ操作をしても以下の画面のように「復元不可」と表示され復元はできません。

このように、暗号化環境をバックアップした場合は、復元先となるディスクのパーティション構成は、バックアップ時と同じ構成になっている必要があります。



Cドライブが縮小されているため復元不可

例2：別のディスクを指定して復元するケース

以下は、システムディスクをディスク単位でバックアップした環境を、別のディスクを接続してそこに復元しようとした時の画面です。

暗号化していない環境をバックアップした場合は、別のディスクを復元先ディスクとして指定できます。しかし、暗号化環境をバックアップした場合は、同じ操作をしても以下の画面のように「復元不可」と表示され復元はできません。

別のディスクを復元先とする場合は、Windows上で行うのではなく、バックアップしたディスクを取り外してから復元先とする別のディスクが単体で接続されている状態にし、Windows PE 起動用メディアから起動して復元を行ってください。



同一の識別情報を持つディスクは2つ接続できないため復元不可

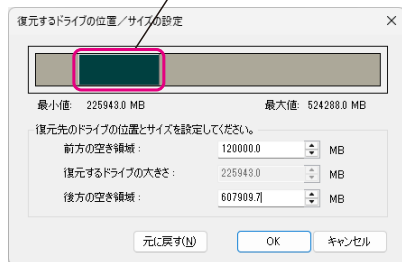
例3：別のディスクにパーティションを復元するケース

以下は、システムドライブではないDドライブをバックアップし、別の大きなディスクに復元しようとした時に表示される画面です。

暗号化環境をバックアップした場合はリサイズ復元ができないので、「復元するドライブの大きさ」は入力できません。

前方、または後方の空き領域に数値を変更するか、ドライブのバーを左右にスライドすることで、ドライブの位置を変更することはできません。

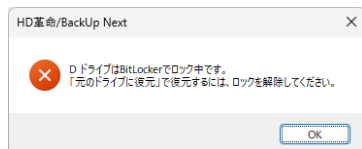
緑色のバーとなり大きさは変更不可



ファイルバックアップ方式

以下のメッセージは、システムドライブではないDドライブをバックアップし、同じドライブに復元をしようとした時のメッセージです。

セクターバックアップ方式の場合は、ロックがかかったドライブもそのまま復元は可能ですが、ファイルバックアップ方式の場合、復元前にロックを解除してください。



バックアップファイルの内容確認 (バックアップファイルのマウント)

BackUp Nextでバックアップしたバックアップファイル (HDB ファイル) を仮想ドライブとしてマウントし、中のファイル、フォルダーの確認、取り出しを行うことができます。

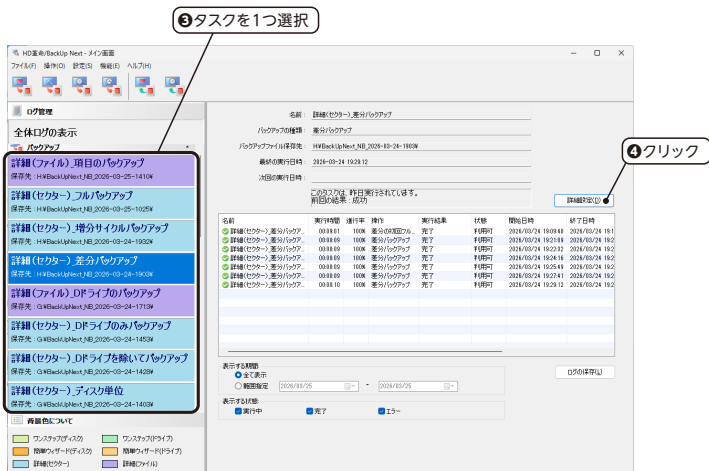
1 BackUp Nextの起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命/BackUp Next」を選択します。



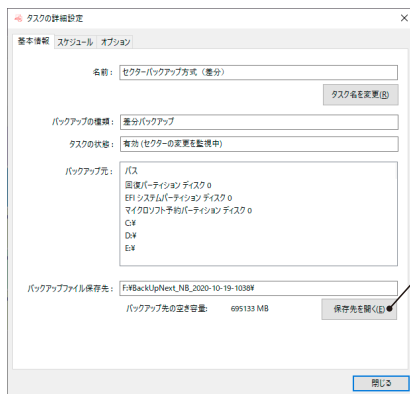
2 バックアップタスクの選択

マウントを行いたいバックアップファイルがあるタスクを1つ選択し、「詳細設定」ボタンをクリックします。



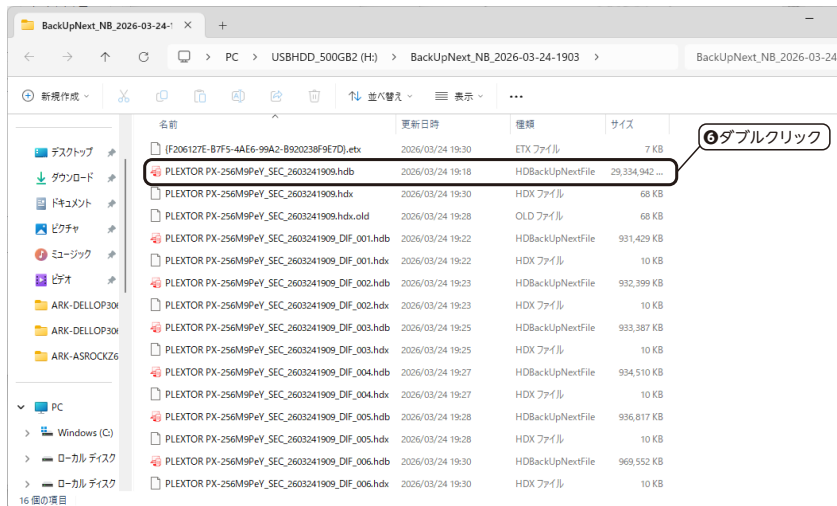
3 保存先を開く

「基本情報」タブで、「保存先を開く」ボタンをクリックします。



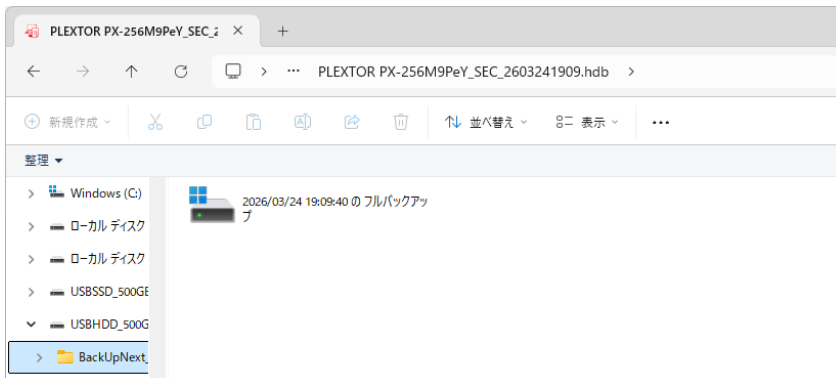
4 バックアップファイルのマウント

HDB ファイルをダブルクリック（または右クリック→「開く」を選択）します。



5 仮想ドライブの表示

バックアップファイルがマウントされ、仮想ドライブが開きます。この仮想ドライブは、Windowsの「エクスプローラー」と同様に操作ができます。



- マウントした仮想ドライブに対してファイルの追加や削除はできません。
- 暗号化環境をバックアップしたバックアップファイルは Windows の「エクスプローラー」で閲覧できません。

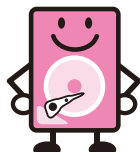
Point

フルバックアップした HDB ファイルだけではなく、差分、増分の HDB ファイルもマウントできます。この場合は、その世代におけるフルバックアップ（基本となるフルバックアップに差分または増分バックアップファイルが足された）状態でマウントされます。



第4章

メイン画面のタスクとログ



ここでは、*BackUp Next*のメイン画面に表示されるタスクとログについて説明しています。

タスクとログ

メイン画面では、バックアップ・復元を行うとタスクとログが追加されます。タスクをクリックすることで、設定内容や動作状況を確認することができます。

ログ管理

全体ログの表示

バックアップ

詳細(ファイル)

保存先: F:\Backup\Next\NB_2026-03-19-1309W

詳細(セクター)

保存先: F:\Backup\Next\NB_2026-03-19-1207W

簡単ウィザード(ドライブ)

保存先: F:\Backup\Next\WB_2026-03-19-1106W

ワンステップ(ディスク)

保存先: F:\Backup\Next\SB_2026-03-19-1028W

タイムスライスバックアップ

保存先: F:\Backup\Next\TSW

復元

詳細(ファイル)

保存先: F:\Backup\Next\NB_2026-03-19-1309W

背景色について

ワンステップ(ディスク)	ワンステップ(ドライブ)
簡単ウィザード(ディスク)	簡単ウィザード(ドライブ)
詳細(セクター)	詳細(ファイル)
タイムスライス	実行中
アクセス不可	復元のみ

名前	実行時間	進行率	操作	実行結果	状態	開始日時	終了日時
● 詳細(ファイル)	00:00:01	100%	復元	完了	利用可	2026/03/19 13:1444	2026/03/19 13:1445
● 詳細(ファイル)	00:00:06	100%	増分の増分フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:1109	2026/03/19 13:1115
● 詳細(ファイル)	00:00:04	100%	増分バックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:1125	2026/03/19 13:1129
● 詳細(ファイル)	00:00:04	100%	増分バックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:1828	2026/03/19 13:1832
● 詳細(ファイル)	00:00:04	100%	増分バックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:2333	2026/03/19 13:2337
● 詳細(セクター)	00:00:35	100%	差分の増分フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:0842	2026/03/19 13:1217
● 詳細(セクター)	00:00:28	100%	差分バックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:0554	2026/03/19 13:0622
● 詳細(セクター)	00:00:52	100%	差分バックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:2134	2026/03/19 13:2226
● 簡単ウィザード(ドライブ)	00:00:51	100%	フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/19 11:0614	2026/03/19 11:1305
● ワンステップ(ディスク)	00:00:22	100%	フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/19 10:2848	2026/03/19 10:3710
● タイムスライスバックアップ	00:00:10	100%	増分の増分フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:2857	2026/03/19 13:2907
● タイムスライスバックアップ	00:00:10	100%	増分バックアップ	完了	利用可	2026/03/19 14:1302	2026/03/19 14:1312
● タイムスライスバックアップ	00:00:09	100%	増分バックアップ	完了	利用可	2026/03/19 15:1302	2026/03/19 15:1311

表示する期間

☒ 全て表示

☐ 範囲指定 2026/03/19 ~ 2026/03/19

表示する状態

☒ 実行中 ☒ 完了 ☐ エラー

ログの保存(L)

カレンダーを表示(C)



手動で差分または増分バックアップを行う (スケジュールを設定せずに差分・増分バックアップ)

タスクとログの画面で、バックアップを行ったタスクを右クリックし、「バックアップ」を選択することにより、スケジュールを設定せずに差分または増分バックアップを行うことができます。

なお、フルバックアップを行ったタスクで同様の操作を行うと、オプションは同じ設定のまま、別のファイル名で新たにフルバックアップが行われます。

① 右クリック

② 選択

詳細(ファイル)

保存先: F:\Backup\Next\NB_2026-03-19-1309W

バックアップ(B)

詳細復元(R)

詳細(セクター)

タスクの削除(E)

②「バックアップ」のタスク

バックアップを行うとメイン画面左側のバックアップ欄にバックアップタスクが登録されます。バックアップタスクを1つ選択すると、画面右側にそのタスクの詳細が表示され、バックアップの種類やスケジュール、指定したオプションなどを確認できます。

The screenshot shows the 'Backup Management' window. On the left, a sidebar lists various backup tasks: '全体ログの表示', 'バックアップ', '詳細(ファイル)', '詳細(セクター)', '簡単ウィザード(ドライブ)', 'ワンステップ(ディスク)', and 'タイムスライスバックアップ'. The 'バックアップ' task is selected. On the right, the details for the selected task 'バックアップ(ファイル)' are shown. It includes the backup type '増分バックアップ', the file path 'F:\BackUpNext_NB_2026-03-19-1309W', the execution time '2026-03-19 13:23:33', and the status '成功'. Below this, a table lists the execution details for the selected task.

名前	実行時間	実行率	操作	実行結果	状態	開始日時	終了日時
バックアップ(ファイル)	00:00:05	100%	増分のバックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:11:09	2026/03/19 13:11:14
詳細(ファイル)	00:00:04	100%	増分のバックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:11:25	2026/03/19 13:11:30
詳細(ファイル)	00:00:04	100%	増分のバックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:12:28	2026/03/19 13:12:33
詳細(ファイル)	00:00:04	100%	増分のバックアップ	完了	利用可	2026/03/19 13:23:33	2026/03/19 13:23:38

＜バックアップタスクの右クリックメニュー＞

バックアップタスクを右クリックすると右のメニューが表示されます。

- ・**バックアップ**：登録されたタスクの内容で再度バックアップを行います。
- ・**詳細復元**：復元ウィザードを起動し、復元を行うことができます。
- ・**タスクの削除**：右の画面が表示されますので、削除する項目を選択します。
- ・**タスクをキャンセル**：実行中のバックアップを途中でキャンセルします。
- ・**バックアップ終了後シャットダウン[1回のみ]**：バックアップ終了後にコンピューターをシャットダウンします（4-9ページ参照）。
- ・**詳細な進行状況を表示**：バックアップ中に表示される進行状況を表示します。
- ・**一つ上に移動**：メイン画面のタスク並び順を一つ上に移動します。
- ・**一つ下に移動**：メイン画面のタスク並び順を一つ下に移動します。

《右クリックメニュー》

- バックアップ(B)
- 詳細復元(R)
- タスクの削除(D)
- タスクをキャンセル(C)
- バックアップ終了後シャットダウン[1回のみ](S)
- 詳細な進行状況を表示(P)
- 一つ上に移動(U)
- 一つ下に移動(D)

《タスクの削除》

タスクの削除

タスクの削除を行います。
削除する項目を選択してください。

☒ タスク(D)
☒ ログ(L)
☐ バックアップファイル(F)

OK キャンセル

《詳細な進行状況》

HDD革命/BackUp Next - 進行状況

【2026年03月17日 11時09分 のバックアップ】

状態: バックアップ実行中 10 %

経過時間: 00:01:14

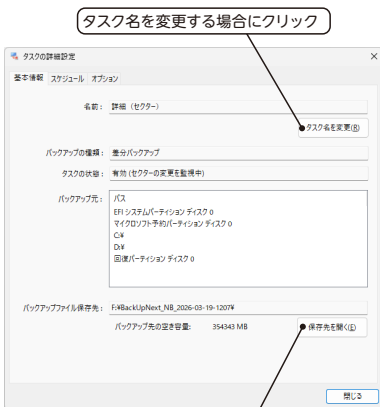
☐ 完了後に自動でシャットダウン(A)

＜タスクの詳細設定＞

「詳細設定」ボタンをクリックすると、そのバックアップタスクの内容をさらに詳しく確認できます。また、後から設定を変更することもできます。

●「基本情報」タブ

「基本情報」タブでは、バックアップを行う際に指定したバックアップの名前、バックアップの種類、バックアップ元、バックアップの保存先の内容が確認できます。



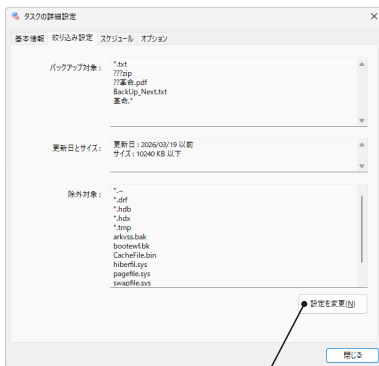
バックアップファイルの
保存先が開きます。



- タスク名を変更しても、バックアップ
- ファイル内に記録されているタスク名は変
- 更されません。

●「絞り込み設定」タブ

「絞り込み設定」タブでは、ファイルバックアップ方式でバックアップを行う際に「ファイルの絞り込み」タブで設定した内容が確認できます。セクターバックアップ方式ではこのタブは表示されません。



バックアップ時の「絞り込み設定」
タブと同じ画面が表示され、設定
を変更できます。

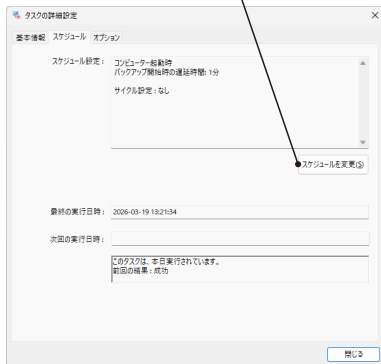


- 絞り込みの設定を変更すると、差分や増
- 分バックアップを行っている場合はフル
- バックアップの取り直しとなります。

●「スケジュール」タブ

「スケジュール」タブでは、バックアップを行う際に「スケジュールの」タブで設定した内容と実行状況が確認できます。

バックアップのスケジュールを後から変更できます。バックアップの種類により表示される画面が変わります。

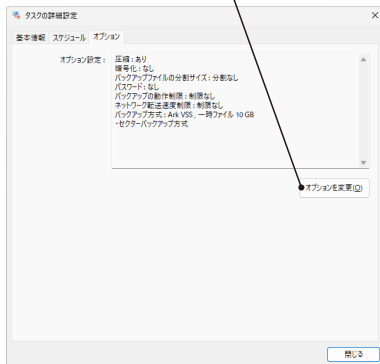


スケジュールの設定を変更すると、差分や増分バックアップを行っている場合はフルバックアップの取り直しとなるパターンがあります。

●「オプション」タブ

「オプション」タブでは、バックアップ時に設定したオプションの内容を確認できます。

バックアップオプションを後から変更できます。バックアップの種類により表示される画面が変わります。



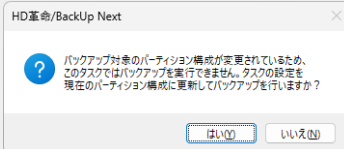
オプションの設定を変更すると、差分や増分バックアップを行っている場合はフルバックアップの取り直しとなるパターンがあります（例：「圧縮あり」を「圧縮なし」に変更）。



タスクの再設定

バックアップ後にパーティション構成（パーティションの開始位置やドライブ文字、ディスクの型番など）が変化した場合は、メイン画面でタスクを右クリック（またはログを右クリックしてタスクを再起動）すると、以下のメッセージが表示されます。ここで「はい」をクリックすると、現在のパーティション構成でタスクを再設定してバックアップを開始します。

ただし、バックアップ元のパーティションが削除されたなど、パーティションの構成によっては再設定ができない場合もあります。





タスクの背景色

タスクの背景色はバックアップの種類により異なり、以下のような配色となっています。復元のタスクも同様の色となります。

ワンステップ（ディスク）

ワンステップバックアップで「システムディスク」を選択したタスクが黄緑色で表示されます。

ワンステップ（ドライブ）

ワンステップバックアップで「システムドライブ」を選択したタスクが緑色で表示されます。

簡単ウィザード（ディスク）

簡単ウィザードバックアップで「このパソコン丸ごと」を選択したタスクが橙色で表示されます。

簡単ウィザード（ドライブ）

簡単ウィザードバックアップで「Windowsがインストールされているドライブ」を選択したタスクが薄橙色で表示されます。

詳細（セクター）

詳細バックアップで「セクターバックアップ方式」を選択したタスクが青色で表示されます。

詳細（ファイル）

詳細バックアップで「ファイルバックアップ方式」を選択したタスクが紫色で表示されます。

タイムスライス

「タイムスライスバックアップ」を設定したタスクが桃色で表示されます。

灰色のタスクが存在すると、メイン画面起動時に右のメッセージが表示されます。保存先が外付けディスクのような場合は、再接続するか電源をオンにしてください。バックアップの保存先を移動した（ドライブ文字の変更を含む）場合は、ドライブ文字を元に戻すか、そのタスクを削除して「バックアップファイルからタスクを再構成」（4-11ページ）を行い再登録してください。

背景色について

ワンステップ(ディスク)	ワンステップ(ドライブ)
簡単ウィザード(ディスク)	簡単ウィザード(ドライブ)
詳細(セクター)	詳細(ファイル)
タイムスライス	実行中
アクセス不可	復元のみ

実行中

バックアップの実行中はタスクの実行中は赤色となります。処理が終了すると、バックアップ方式に応じたタスクの色となります。

灰色

保存先として指定されているフォルダーにバックアップファイルが存在しないか、アクセスできない場合は灰色で表示されます。また、旧バージョンで作成したタスクで継続して使用できないタスクも灰色で表示されます。

黄色

タスクに登録されたバックアップファイルから復元はできませんが、タスクを右クリックしてバックアップを継続することはできません。

HD革命/BackUp Next

バックアップの保存先フォルダーにアクセスできないタスクがあります。
以下の内容を確認してください。

- ・保存先が外付けディスクの場合は再接続するか電源をオンにする
- ・ドライブ文字が変更されている場合は元に戻す
- ・タスクを削除して「バックアップファイルからタスクを再構成」を行う
- ・不要なタスクは削除する

☐ 今後、このメッセージを表示しない(N)

OK

⑥「復元」のタスク

復元を行うとメイン画面左側の復元欄に復元タスクが登録されます。

タスクには保存先や日時が表示され、復元タスクを1つ選択すると、画面右側でバックアップの種類やスケジュール、指定したオプションなどが確認できます。



〈復元タスクの右クリックメニュー〉

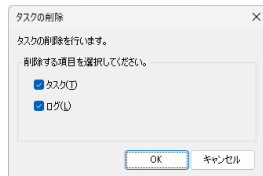
復元のタスクを右クリックするとバックアップのタスクと同様に以下のメニューが表示されます。バックアップのタスクと異なり、「バックアップ終了後シャットダウン[1回のみ]」と「詳細な進行状況を表示」は選択できません。

- ・**タスクの削除**：右の画面が表示されますので、削除する項目を選択します。
- ・**タスクをキャンセル**：実行中の復元を途中でキャンセルします。
- ・**詳細な進行状況を表示**：回復環境で復元以外で、復元中に表示される進行状況を表示します。
- ・**一つ上に移動**：メイン画面のタスク並び順を一つ上に移動します。
- ・**一つ下に移動**：メイン画面のタスク並び順を一つ下に移動します。

《右クリックメニュー》

タスクの削除(E)
タスクをキャンセル(C)
バックアップ終了後シャットダウン[1回のみ](S)
詳細な進行状況を表示(P)
一つ上に移動(U)
一つ下に移動(D)

《タスクの削除》



復元の途中でキャンセルを行うと、ファイルの整合性が取れなくなり、Windowsに問題が発生する危険性があります。できる限り復元中のキャンセルは行わないようにしてください。

● ログ

ログでは、バックアップやWindows上で復元を行う場合の進行状況と状態が確認できます。ログを右にスクロールすることでバックアップ、復元中に発生したエラーなどの詳細を確認できます。

操作	実行結果	状態	開始日時	終了日時	情報
フルバックアップ	キャンセル		2026/03/23 11:11:24	2026/03/23 11:14:52	操作がキャンセルされました。
フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/23 11:16:51	2026/03/23 11:22:19	
フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/23 10:58:22	2026/03/23 11:04:49	
フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/23 10:52:22	2026/03/23 10:57:46	エラーの内容が表示されます
フルバックアップ	完了	利用可	2026/03/23 11:26:32	2026/03/23 11:32:02	

〈ログの右クリックメニュー〉

ログを右クリックすると右のメニューが表示されます。

- ・ **タスクを再起動**：登録されたタスクの内容で再度バックアップを行います。
- ・ **タスクをキャンセル**：バックアップまたはWindows上で復元を行う復元を途中でキャンセルします。

タスクを再起動(R)

タスクをキャンセル(Q)

タスクログ(L)

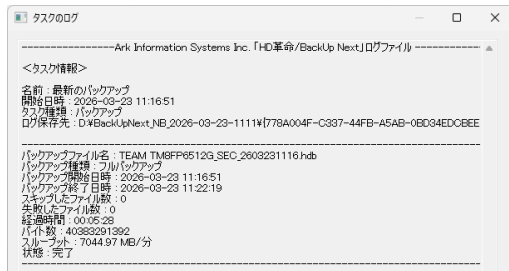
この履歴を削除(H)

バックアップファイルを削除(D)



- 復元の途中でキャンセルを行うと、ファイルの整合性が取れなくなり、Windowsに問題が発生する危険性があります。
- できる限り復元中のキャンセルは行わないようにしてください。

- ・ **タスクログ**：下の画面が表示されます。



- ・ **この履歴を削除**：選択した履歴を削除します。
- ・ **バックアップファイルを削除**：選択した履歴に紐づいたバックアップファイルを削除します。

Point

バックアップタスクにサイクル設定がある場合は、下2つのメニューが右のように変わります。

特定サイクルの履歴だけ削除する場合は、「このサイクルの履歴を削除」を、履歴に紐づいたサイクルのバックアップファイルを削除する場合は、「このサイクルのファイルを削除」を選択してください（サイクル設定については2-31ページ参照）。

この履歴を削除(H)

このサイクルのファイルを削除(G)

このサイクルの履歴を削除(S)

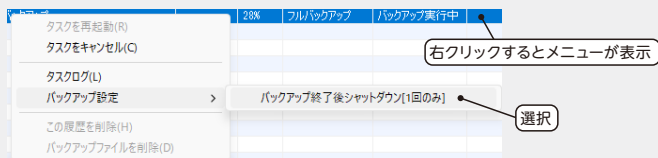


バックアップ完了後のシャットダウン

バックアップ完了後にコンピューターのシャットダウンを行いたい場合は、メイン画面で実行中のタスクまたはログを「右クリック」し、「バックアップの設定」→「バックアップ終了後シャットダウン[1回のみ]」を選択することでも行うことができます。

ただし、詳細バックアップで「バックアップ完了後に実行する操作」（2-36ページ）で動作が指定されている場合でも、設定に関係なくシャットダウンが実行されてしまいます。

また、「スケジュールの設定」で「イベント発生時」を選択し（2-29ページ）、「サインイン時」または「シャットダウン時」を指定している場合は、スケジュールに基づいたバックアップは実行されません。



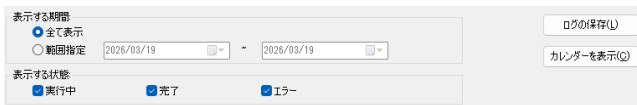
右クリックするとメニューが表示

選択

④ ログの表示設定

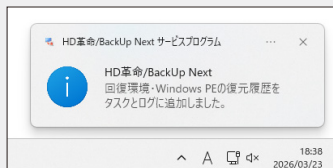
ログの表示を期間や状態に応じて変更できます。タスクが多数登録されている場合に、表示する内容を絞ることでログが見やすくなります。

「ログの保存」をクリックするとログとタスクの内容をテキストファイルで保存できます。



メイン画面起動時の復元タスクとログの登録

復元後にメイン画面を起動すると、直前に実行した復元のタスクとログが追加されます。このとき、Windowsのアクションセンターには以下の通知が表示されます。



● カレンダー

メイン画面で「カレンダーを表示」ボタンをクリックすると、バックアップ状況を示すカレンダーが表示されます。

表示される色はそれぞれ次のようになります。

バックアップカレンダー

2026年4月						
日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2

閉じる

ピンク：今日の日付
緑：バックアップが行われた日
赤：エラーが発生
黄：操作は完了したが警告あり



- カレンダー日付の色は、エラーの赤色、警告の黄色が優先して表示されます（エラーと情報がある場合はエラーが優先）。例えば、同日に行った複数のバックアップの1つがエラーとなった場合、それ以外のバックアップが正常に行われていても赤色で表示されます。
- ただし、今日の日付を表すピンクは最優先で表示されるため、エラーの有無はログで確認してください。



保存先フォルダー名と保存ファイル名の命名規則

BackUp Nextでバックアップを行うと、以下の命名規則によって「保存先フォルダー名」と「保存ファイル名」が自動的に入力されます。なお、詳細バックアップを行う場合は任意の名前に変更可能ですが、後から見て分かりやすい名前にしておくことをおすすめします。

保存先フォルダー名：「BackUpNext_バックアップ方式_作成年月日と時刻」

- ※「バックアップ方式」の文字は選択したバックアップ方式により異なり、SB（ワンステップ）、WB（簡単ウィザード）、NB（詳細）、TS（タイムスライス）となります。
- ※入力できる「保存先フォルダー名」は200文字までとなります。

保存先ファイル名：「ディスク型番_バックアップの種類_作成年月日と時刻_分類_世代数.hdb」

- ※「ディスク型番」には、初期値としてバックアップ対象のディスク名（先頭からスペースを含む22文字）が入ります。
- ※「バックアップの種類」は選択したバックアップの種類により異なり、SDK（Welcome、ワンステップ、簡単ウィザードのシステムディスク）、SDR（ワンステップ、簡単ウィザードのシステムドライブ[Cドライブ]）、TMS（タイムスライス）、SEC（詳細でセクター）、FIL（詳細でファイル）が入ります。
- ※「分類」は、差分バックアップの場合「DIF」、増分バックアップの場合「INC」が入ります。
- ※「世代数」は、何世代目に該当するかの数字（001～）が入ります。
- ※拡張子「.hdb」ファイルの他に、同名の「.hdx」ファイルが作成されます。
- ※「保存ファイル名」として入力可能な文字数は最大で22文字までとなり、スペースも1文字としてカウントします。

バックアップファイルからタスクを再構成

メイン画面にタスクが登録されていないバックアップファイルからタスクを再構築することで、そのバックアップを行った時のタスクとログをメイン画面に追加することができます。タスクを再構築するには、バックアップファイル（HDB ファイル）と共に作成されるインデックスファイル（HDX ファイル）とタスクファイル（ETX ファイル）も同じ場所に保存されている必要があります。

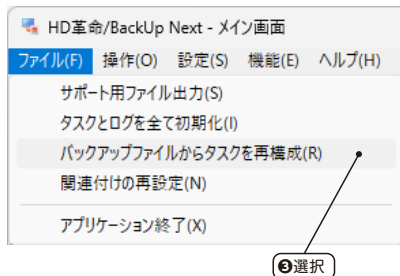
1 BackUp Next の起動

Arkランチャーで「バックアップ・復元」→「HD革命/BackUp Next」を選択します。



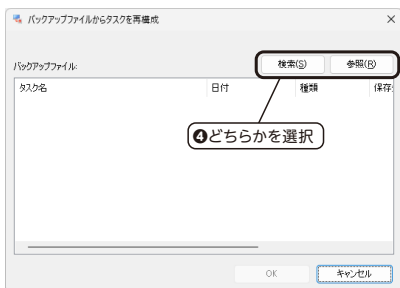
2 「バックアップファイルからタスクを再構成」を選択

メイン画面で「ファイル」メニューをクリックし、「バックアップファイルからタスクを再構成」を選択します。



3 バックアップファイルを選択

「検索」または「参照」ボタンをクリックします。



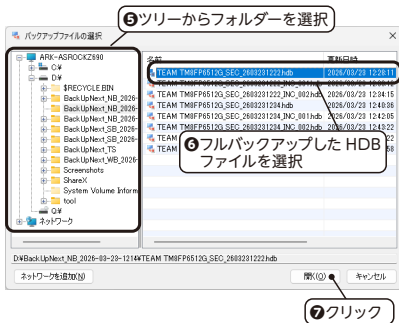
●バックアップファイルを検索

検索場所を指定して「検索開始」をクリックします。見つかったバックアップファイルが検索結果に表示されますので、再構築したいバックアップファイルを選択して「OK」をクリックします。



●バックアップファイルを参照

フォルダツリーの中から再構築したいバックアップファイルを選択して「開く」をクリックします。



- ⚠ 「参照」ボタンでバックアップファイル指定してタスクを再構築する場合、差分や増分のバックアップファイルは「初回フルバックアップ」した HDB ファイルを選択してください。
- なお、タイムスライスバックアップと Ver.4 以前で作成したバックアップファイルは、タスクを再構成することができません。

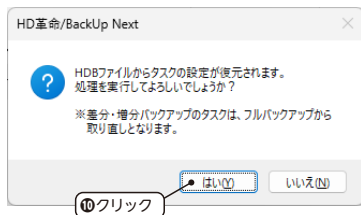
4

タスクを選択

再構築するタスクにチェックを入れて「OK」をクリックします。



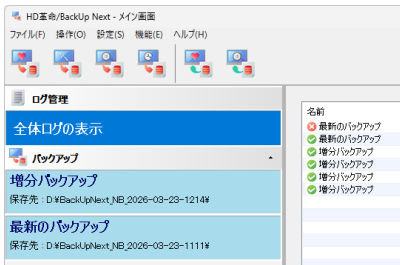
確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



5

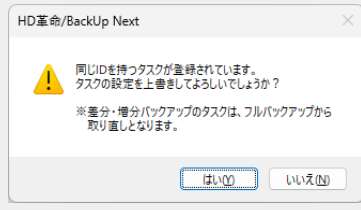
メイン画面に追加

再構築を行ったタスクとログがメイン画面に追加されます。



同じ ID のタスクを登録

メイン画面に同じ ID をもつタスクが既に登録されている場合は、上書きするかどうかのメッセージが表示されます。このとき、「タスクの詳細設定」で設定した内容も、上書きするタスクの内容に合わせて変更されます。



第 5 章

Windows PE 起動用メディアで 起動してバックアップ・復元



ここでは、Windows PE 起動用メディアでコンピュータを起動し、ドライブのバックアップ、復元を行う方法について説明しています。

Windows PE 起動用メディアで起動してバックアップ

あらかじめ作成した「Windows PE 起動用メディア」でコンピューターを起動し、バックアップを行うことができます。一部機能は制限されますが、基本的な操作方法是Windowsにインストールした **BackUp Next** と同様です。

1 コンピューターの起動

Windows PE 起動用メディアからコンピューターを起動します (1-12 ページ参照)。

2 BackUp Next の起動

Ark ランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命 / BackUp Next」を選択します。



3 バックアップ方法の選択

ツールバーで「ワンステップバックアップ」または「詳細バックアップ」ボタンをクリックします。

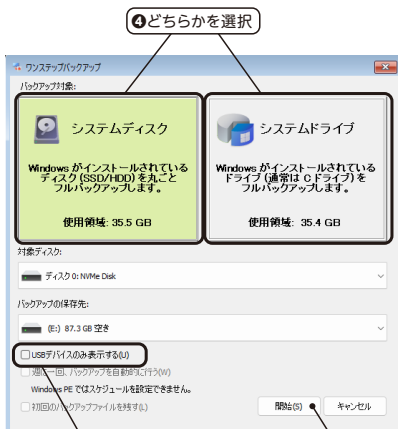


Windows PE 起動用メディアで起動してバックアップを行う場合、タイムスライスバックアップは使用できません。

4 バックアップ対象の選択

●ワンステップバックアップ

Windows上で操作するのと同様に、バックアップ対象として「システムディスク」または「システムドライブ」を選択します。起動時のバックアップの保存先はUSBデバイス (USBHDDまたはUSBメモリー) が優先となっていますので、内蔵ディスクに保存する場合はチェックを外します。

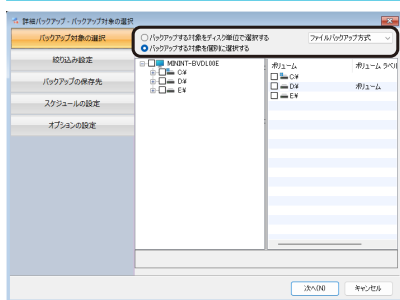
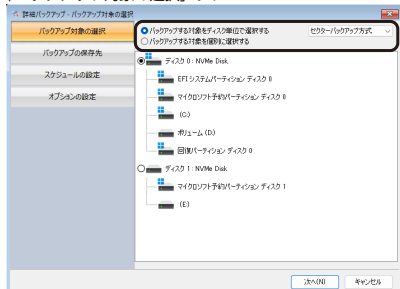


Windows PE 起動用メディアで起動してバックアップを行う場合、スケジュールの設定はできません。

●詳細バックアップ

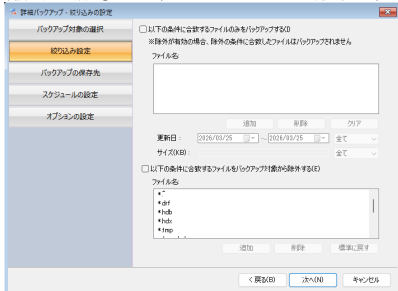
Windows上で操作するのと同様に、「セクターバックアップ方式」または「ファイルバックアップ方式」を選択し、バックアップウィザードに沿ってバックアップを行います。

「バックアップ対象の選択」タブ

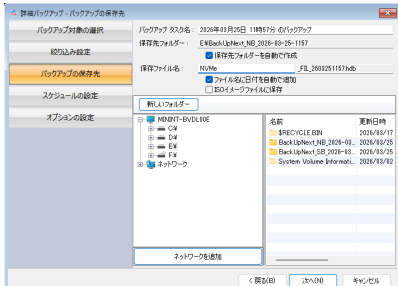
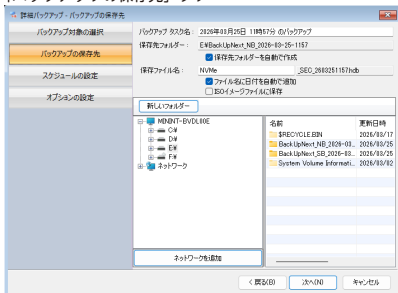


⚠ ファイルバックアップ方式では、「項目から選択」は使用できません。

「絞り込み設定」タブ（ファイルバックアップ方式のみ）

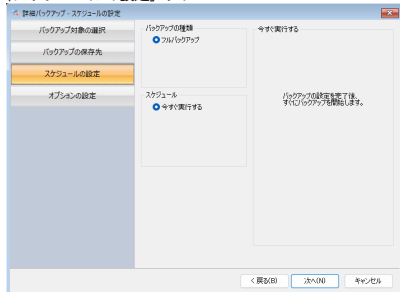


「バックアップの保存先」タブ



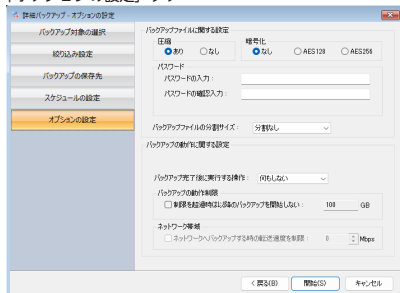
⚠ ファイル名やフォルダー名に全角文字（日本語入力）は使用できません。

「スケジュールの設定」タブ



Windows PE 起動用メディアで起動してバックアップを行う場合、スケジュールの設定はできません。

「オプションの設定」タブ



Windows PE 起動用メディアで起動してバックアップを行う場合、以下のオプションは設定できません。

- ・バックアップ方式と一時ファイル（画面に表示されません）
- ・バックアップ完了後に実行する動作の「スリープ」と「休止状態」
- ・ネットワーク帯域

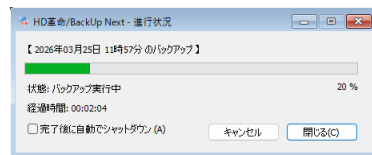
5

バックアップの実行

バックアップ中は、進行状況のウィンドウが表示されます。

「閉じる」をクリックするとこの画面は閉じますが、バックアップはそのまま続行します。

メイン画面を表示するには、Arkランチャーから行ってください。



6

バックアップの完了

バックアップが完了すると、ログには「完了」と表示されます。

名前	実行時間	進行率	操作	実行結果	状態
2026年03月25日 11時57分 のバックアップ	00:06:55	100%	フルバックアップ	完了	利用可

実行結果

完了



Windows PE 起動用メディアで起動してバックアップを行ったタスクは、仮想ディスク上に作成されるため、コンピューターを再起動すると失われます。

Windows PE 起動用メディアで起動して復元

あらかじめ作成した「Windows PE 起動用メディア」でコンピューターを起動し、復元を行うことができます。一部機能は制限されますが、基本的な操作方法はWindowsにインストールした **BackUp Next** と同様です。

1 コンピューターの起動

Windows PE 起動用メディアからコンピューターを起動します（1-12 ページ参照）。

2 BackUp Next の起動

Ark ランチャーで「バックアップ・復元」→「HD 革命 / BackUp Next」を選択します。



3 復元方法の選択

ツールバーで「簡単復元」または「詳細復元」ボタンをクリックします。



4 復元対象の選択

●簡単復元

Windows上で操作するときと同様に一覧の中から復元対象（バックアップタスク）を選択します。



- Windows PE 起動用メディアで起動して復元を行う場合は、Windows上でバックアップしたタスクは登録されていません。
- 「検索」または「参照」ボタンをクリックしてタスクを追加してください。



「簡単復元」を行う場合の対象ディスク

「簡単復元」は、バックアップを行った環境（同じディスク、同じパーティション構成）でなければ復元を行うことができません（Windows上での「簡単復元」を参照）。

タスクを選択すると、バックアップ時の環境に合致するディスクが存在するかを検索し、見つかると対象ディスクとして指定します。

このとき、ディスク型番の後ろに「バックアップ元のシステム」と表示されています。

対象ディスク

ディスク 0: PH6-CE240-L (バックアップ元のシステム)

Windows PE 起動用メディアで起動した場合、バックアップ時の環境に合致するディスクが見つからないと、次の復元先候補として空（ディスク全体が未割り当て）のディスクが対象ディスクとして指定されます。

このとき、ディスク型番の後ろに「空ディスク」と表示されています。

対象ディスク

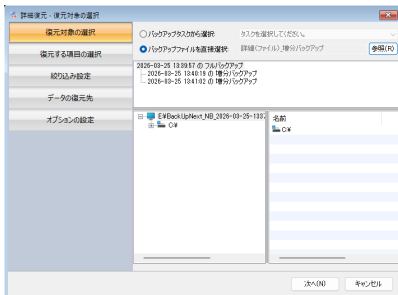
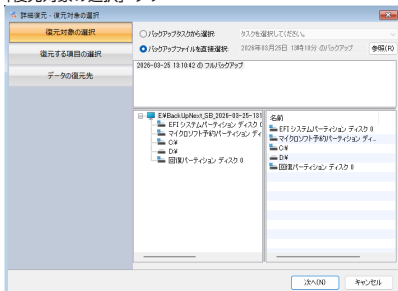
ディスク 0: PH6-CE240-L (空ディスク)

「空ディスク」と表示されているディスクに復元を行うことができますが、ディスク容量が異なるディスクに復元を行う場合は、復元先ディスク容量が小さいと各パーティションが自動的に縮小され、復元先ディスク容量が大きいと、各パーティションは元のサイズのまま復元され、後ろが「未割り当て」となります。パーティションの位置、サイズ調整はできません。

●詳細復元

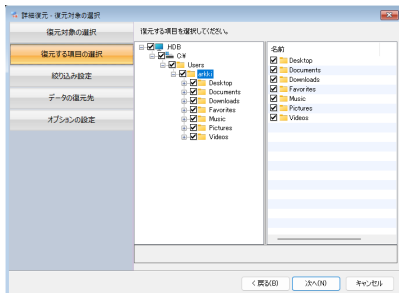
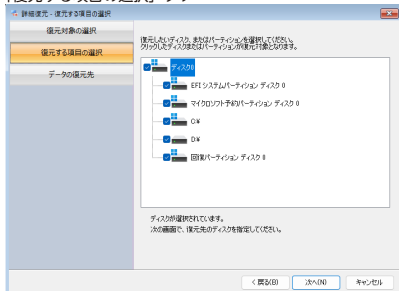
Windows上で操作するときと同様に、復元ウィザードに沿って復元を行います。以下の画面は、選択したオプションにより異なる場合があります。

「復元対象の選択」タブ

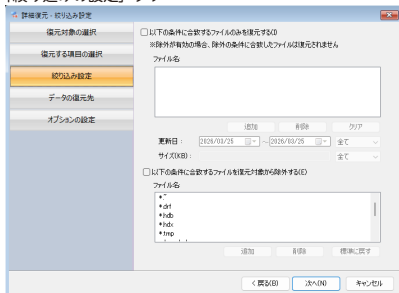


- セクターバックアップ方式でバックアップしたファイルを、詳細復元の「ディスク単位」で復元する場合は、元のシステムディスクであってもディスクを初期化して復元を行います。
- そのため、Dドライブを除いてバックアップしても（3-9ページ参照）、Dドライブのデータを残して復元することはできません（元のDドライブがあった位置は「未割り当て」となります）。

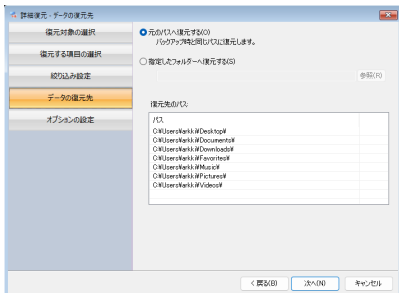
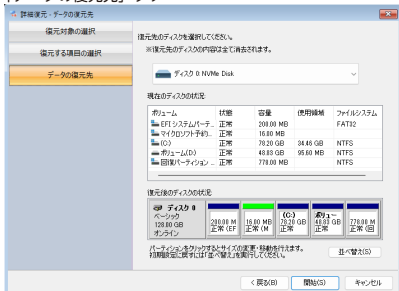
「復元する項目の選択」タブ



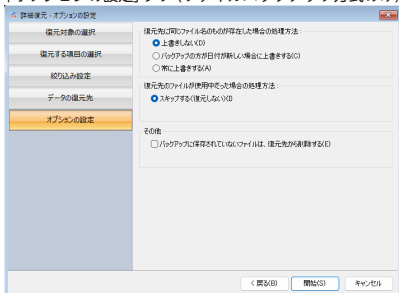
「絞り込みの設定」タブ



「データの復元先」タブ



「オプションの設定」タブ (ファイルバックアップ方式のみ)

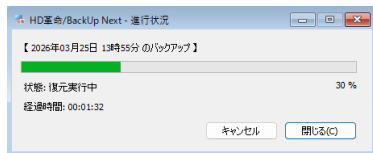


「再起動後に復元する」のオプションは選択できません (オプションが表示されません)。

5 復元の実行

復元中は、進行状況のウィンドウが表示されます。「閉じる」をクリックするとこの画面は閉じますが、復元はそのまま続行します。

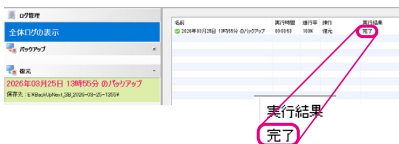
メイン画面を表示するには、Arkランチャーから行ってください。



- ⚠
- 復元の途中でキャンセルを行うと、ファイルの整合性が取れなくなり、Windowsに問題が発生する危険性があります。できる限り復元中のキャンセルは行わないようにしてください。

6 復元の完了

復元が完了すると、ログには「完了」と表示されます。



- ⚠
- Windows PE 起動用メディアで起動して復元を行ったタスクは、仮想ディスク上に作成されるため、コンピューターを再起動すると失われます。

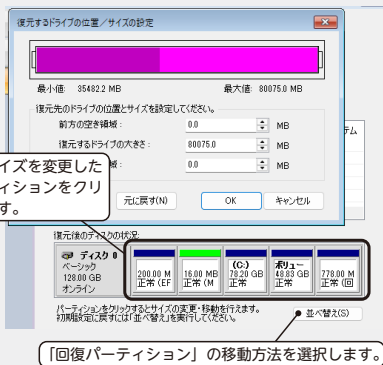


元のディスクに復元する場合のパーティション操作

Windows PE 起動用メディアで起動して「詳細復元」を行う場合、基本的な動作はWindows上で「別のディスクに復元するときのディスク状況」(3-15ページ参照)と同じになります。

元のシステムディスクに対しても、ディスクを初期化してから復元しますので、位置とサイズの設定を行うことができます(差分、増分はサイズ変更不可)。

「復元後のディスクの状況」のドライブバーで操作するパーティションをクリックすると「復元するドライブの位置/サイズの設定」画面が表示されますので、任意の位置とサイズに変更してください。



「回復パーティション」の移動方法を選択します。

Windows PE 起動用メディアで起動してロック解除

復元先のディスクが暗号化環境でロックされたドライブがある場合、ファイルバックアップ方式でバックアップまたは復元をするには、事前にロックを解除する必要があります。

ここでは、Windows PE 起動用メディアで起動してロックを解除する手順を説明します。

1 コンピューターの起動

Windows PE 起動用メディアからコンピューターを起動します (1-12 ページ参照)。

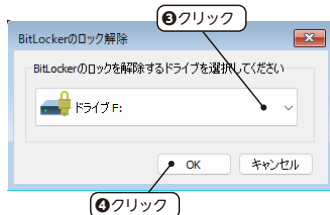
2 BitLockerドライブのロックを解除

Ark ランチャーで「便利ツール」→「BitLocker ドライブのロックを解除」と選択します。



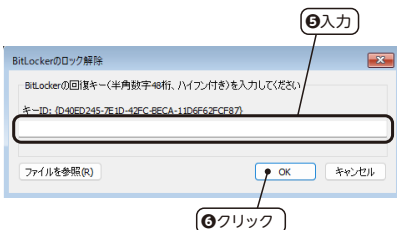
3 ロックを解除するドライブの選択

ロックを解除するドライブをリストの中から選択します。



4 回復キーの入力

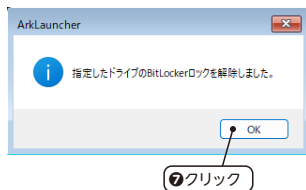
キーボードで回復キーを入力するか、「ファイル」を参照 ボタンをクリックし、暗号化時に回復キーを「ファイルに保存」したときのテキストファイルを指定します。



5 ロックの解除

ドライブのロックが解除されると以下のメッセージが表示されます。

この後は、バックアップ (5-2 ページ)、または復元 (5-5 ページ) と同じ操作で操作を行うことができます。



第6章

ツール



ここでは、HD革命/BackUp Nextを便利にお使いいただくための各種ツールの使い方について説明しています。

バックアップファイルの検査

「バックアップファイルの検査」ツールは、バックアップファイル（拡張子「hdb」）の検査を行い破損がないかなどを確認することができます。

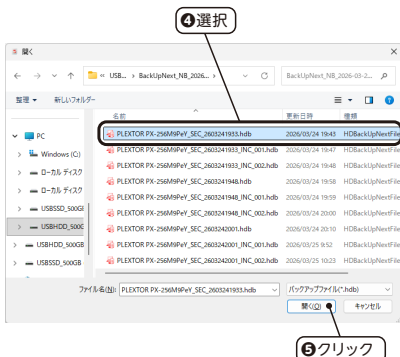
1 「バックアップファイルの検査」を選択

Arkランチャーで「便利ツール」→「バックアップファイルの検査」を選択します。



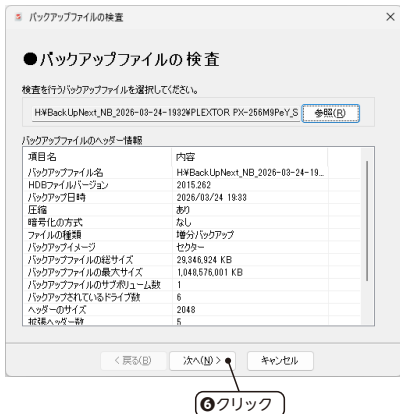
2 バックアップファイルを選択

「参照」をクリックしバックアップファイルを選択します。



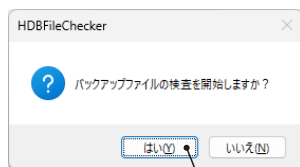
Point

差分と増分のバックアップファイルも選択することができます。



3 検査の開始

バックアップファイルの検査を開始します。



7 クリック

4 検査の実行

検査中は進行状況が表示されます。バックアップファイルのサイズによっては検査に時間がかかります。



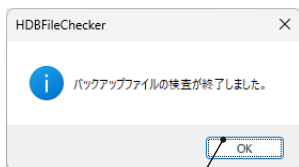
チェックを入れると詳細情報が表示されますが、検査の時間が増加します。



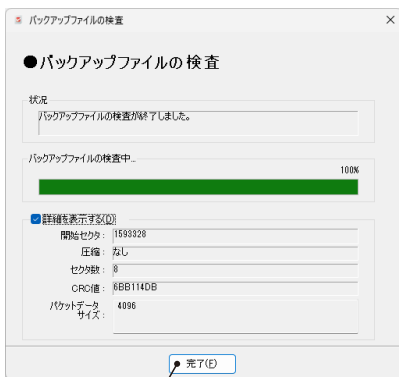
5 結果の表示

検査の結果が表示されます。

検査で異常が見つかったファイルは復元ができません。



8 クリック



9 クリック

バックアップファイルから ISO ファイルを作成

ハードディスクにバックアップを行ったバックアップファイル（拡張子「hdb」のファイル）からISOイメージファイルを作成します。

1 「バックアップファイルから ISO ファイルを作成」を選択

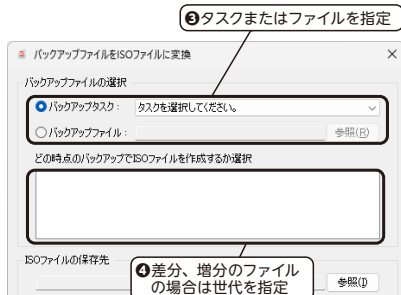
Ark ランチャーで「便利ツール」→「バックアップファイルからISOファイルを作成」を選択します。



2 タスクまたはファイルを選択

バックアップタスクまたはバックアップファイルを選択します。

差分、増分バックアップファイルは、その時点までISOファイルに含めるかを選択できます。

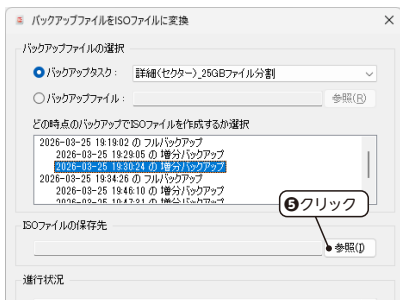


Point

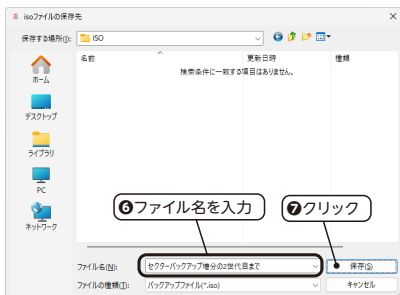
バックアップファイル（HDB ファイル）を直接選択する場合は、「フルバックアップ」したバックアップファイルを選択します。差分や増分のHDB ファイルは選択できません。

3 ISO ファイルの保存先を選択

「参照」をクリックし作成するISOファイルの保存先を選択します。



ISOファイルのファイル名を入力して「保存」をクリックします。

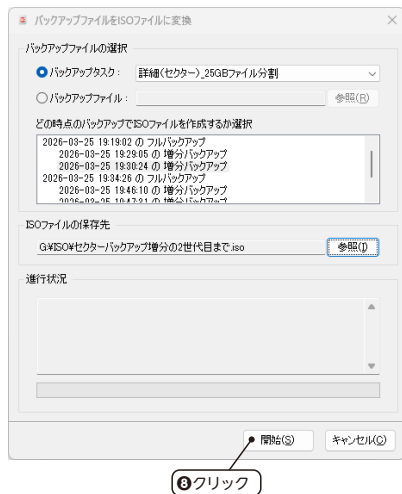


Point

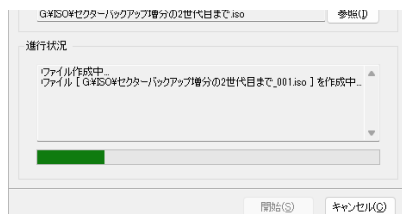
作成される ISO ファイルのサイズは、バックアップファイル（HDB ファイル）の分割サイズ（2-35 ページの①）と同じサイズに分割されて（*_001.ISO、*_002.ISO、……）作成されます。

4 ISO ファイルの作成開始

「開始」をクリックするとISO ファイルの作成が開始します。



作成中は進行状況が表示されます。バックアップファイルのサイズによっては、作成に時間がかかります。

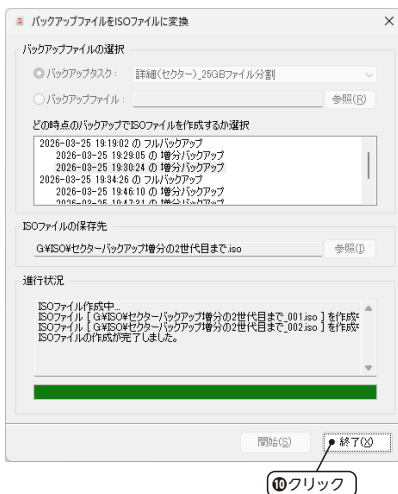


5 ISO ファイルの作成完了

作成が完了するとメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。



「終了」をクリックするとISO 作成ツールが終了します。



ISO ファイルの書き込み

ISO イメージファイルにバックアップ (2-45 ページ)、バックアップファイルから ISO ファイルを作成 (6-4 ページ) で作成した ISO ファイルをメディアに書き込むことができます。なお、ISO ファイルであれば、他のアプリケーションで作成したファイルにも対応しています。

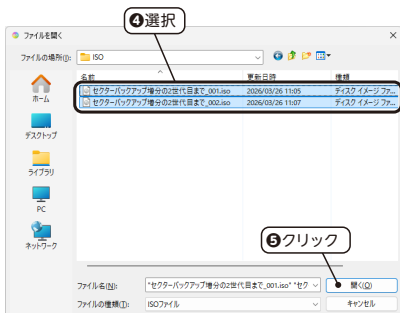
1 「ISO ファイルの書き込み」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ISO ファイルの書き込み」を選択します。



2 ISO ファイルを追加

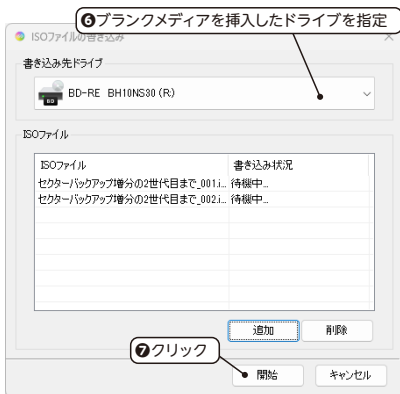
「追加」をクリックし、ISO ファイルを追加します。



3 書き込みの開始

書き込み先ドライブが複数存在する場合は、書き込み前にドライブを指定します。

ブランクメディアをドライブに挿入して「開始」をクリックすると、メディアへの書き込みが開始します。

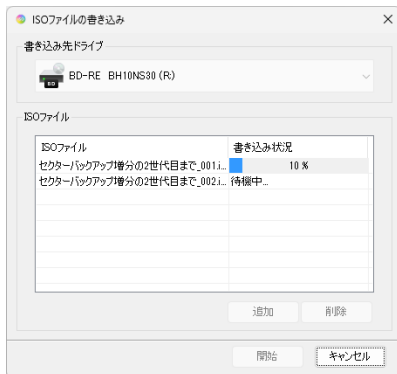


Point

ISO ファイルを複数追加することで、連続して書き込みを行うことができます。

4 メディアへの書き込み

メディアへの書き込み中は、進行状況が表示されます。



書き込みが終わるとメディアがイジェクトされ、次のメッセージが表示されます。
空のメディアを挿入してから「再試行」をクリックします。



9クリック

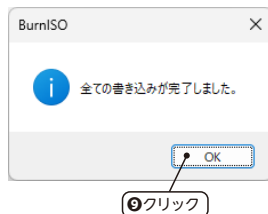


新しいメディアを挿入すると、Windows がメディアをフォーマットするかどうかのダイアログが表示されます。Windows で表示されたダイアログを閉じてから「再試行」をクリックしてください。

5

書き込みの完了

すべての書き込みが完了すると、以下のメッセージが表示されますので「OK」をクリックします。



9クリック

「キャンセル」をクリックして、ISOの書き込みツールを終了します。



10クリック



書き込み可能な BD-R/RE メディアは、2 層 (DL) までの対応となります。3 層と 4 層 (XL) には対応していません。

メディアの消去

起動CDの作成時にCD-RW、DVD±RW、BD-REメディアを使用することができますが、使用する前にメディアの消去を行う必要があります（CD-R、DVD±R、BD-Rメディアの場合は消去の必要はありません）。

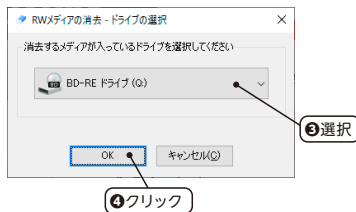
1 「メディアの消去」を選択

Arkランチャーで「便利ツール」→「メディアの消去」を選択します。



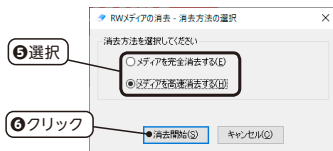
2 ドライブを選択

消去するメディアを挿入したドライブを選択します。



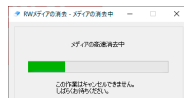
3 消去方法を選択

消去方法を選択します。



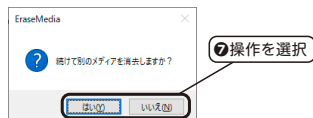
4 消去の実行

消去中は次の画面が表示されます。完全消去の場合、完了までに時間がかかります。



5 消去の終了

消去終了後、次のメッセージが表示されます。別のメディアを消去するときは「はい」、メディアの消去を終了するには「いいえ」をクリックします。



Point

RW/REメディアの消去方法

- メディアを完全消去する…メディア全体を完全に消去します。メディア全体を消去するため時間がかかります。
- メディアを高速度消去する…メディアのトラック情報を消去することにより高速に消去します。

パーティションツール

選択したディスク、またはパーティションの削除やフォーマットを行うことができます。また、MBRディスク環境では、アクティブパーティションを変更することもできます。

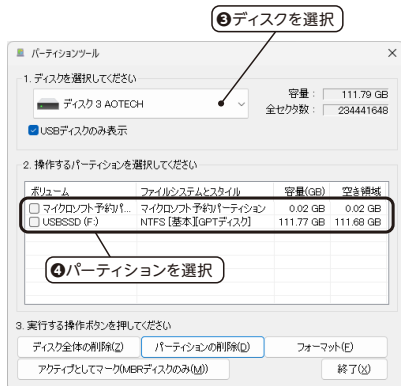
1 「パーティションツール」を選択

Arkランチャーで「便利ツール」→「パーティションツール」を選択します。



2 ディスクとパーティションの選択

「パーティションツール」の操作画面が起動しますので、操作するディスクとパーティションを選択します。

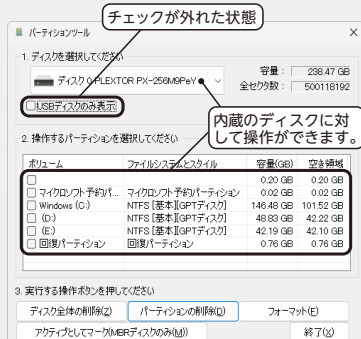


USB ディスクのみ表示

「パーティションツール」では、起動時に「USBディスクのみ表示」のオプションにチェックが入っています。これは、内蔵ディスクとUSBディスクとの識別をやすくして、可能な限り誤ったディスクを削除しないようにすることを目的としています。

なお、「USBディスクのみ表示」のチェックを外すと、内蔵ディスクも含めてすべてのディスクが表示されるようになります。内蔵ディスクを操作する場合は、チェックを外してからディスクを選択してください。

USBハードディスクまたはUSBメモリーが接続されていない状態で「USBディスクのみ表示」のチェックが入っている場合は、ディスクが空欄となり選択ができません。USBディスクを削除する場合は、接続してから「パーティションツール」を起動してください。



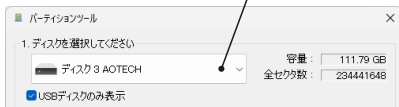
●ディスク全体の削除

ディスク全体の削除を行う場合は、選択されているディスクを確認し「ディスク全体の削除」ボタンをクリックします。

「ディスク全体の削除」では、選択されているパーティションの有無にかかわらず、すべてのパーティションが削除されます。

Windows上で操作を行う場合は、起動中のシステムドライブを削除対象として選択することはできません。

ここで選択されているディスクが対象となります。



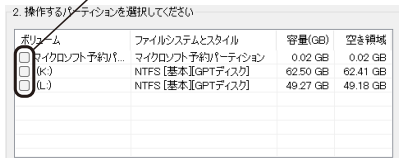
ディスク全体の削除を行うと、コンピューターを初期状態に戻す回復ドライブ（リカバリーデータ）も削除されてしまいます。

OSの再インストールを行う場合は、削除する前に「回復ドライブ」や「リカバリーディスク」を作成しておいてください。

●パーティションの削除とフォーマット

パーティションの削除とフォーマットを行う場合は、チェックボックスにチェックを入れてから「パーティションの削除」または「フォーマット」ボタンをクリックします。

ここで選択されているパーティションが対象となります。



「マイクロソフト予約パーティション」は、GPT ディスクの環境でパーティションを作成すると自動的に作成されるパーティションです。

また、システムドライブの場合は、このほかに「EFI システムパーティション」と「回復パーティション」が作成されますが、Windows上で操作を行う場合は、「パーティションツール」では対象として選択できません。

●アクティブとしてマーク（MBRディスクのみ）

MBRディスク環境でアクティブパーティションを変更する場合は、「アクティブとしてマーク（MBRディスクのみ）」ボタンをクリックします。

アスタリスク（*）マークがついているのが、アクティブパーティションとなります。

ここで選択されているパーティションをアクティブパーティションとします。

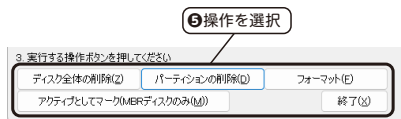


アクティブパーティションはOSの起動用として指定されたパーティションですが、インストール時に自動的に設定されています。そのため、問題がない限りアクティブパーティションを変更する必要はありません。

例えば、上記画像において「システムで予約済み」から「Cドライブ」にアクティブパーティションを変更すると、次のWindows起動時に「An operating system wasn't found」というようなメッセージが表示されWindowsを起動できなくなります。

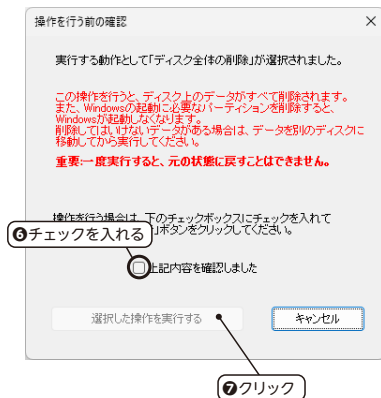
3 操作の確認

対象を選択して各操作ボタンをクリックします。



操作が始まる前に確認ダイアログが表示されます。

選択した操作によりメッセージが異なりますので、確認してから操作を実行するようにしてください。



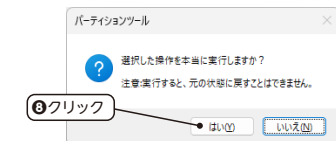
Point

チェックを入れないと「選択した操作を実行する」のボタンは押せません。

4 操作の開始

もう一度確認メッセージが表示されますので、実行する場合は「はい」をクリックします。

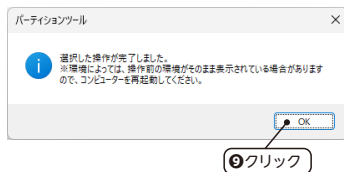
操作の実行中はコマンドプロンプトの画面が開き、選択した操作が実行されます。



これ以降は、操作をキャンセルできません。操作を止める場合は、ここで「いいえ」をクリックして「パーティションツール」を終了してください。

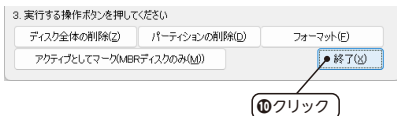
5 操作の完了

操作が完了すると次のメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。

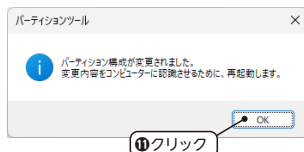


6 コンピューターの再起動

操作画面に戻りますので、「終了」ボタンをクリックします。



上で操作は終了となります。「OK」をクリックしてコンピュータを再起動してください。



ドライブ情報の取得

コンピューターに接続してあるディスクの情報を取得し、表示することができます。

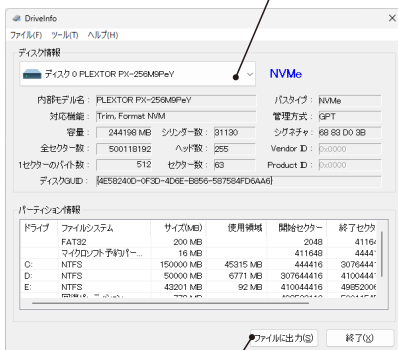
1 「ドライブ情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ドライブ情報の取得」を選択します。



2 ドライブ情報の取得

③ 情報を表示させたいディスクを選択



Point

「ツール」メニューを開き、Windowsの起動に関わる情報（GUID、MBR）を操作することができますが、Windowsの状態に問題がないときは使用しないでください。

コンピューター情報の取得

コンピューターに関する情報を取得し、表示することができます。

この機能は、Windows PE 起動用メディアで起動した Ark ランチャーには表示されません。

1 「コンピューター情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「コンピューター情報の取得」を選択します。



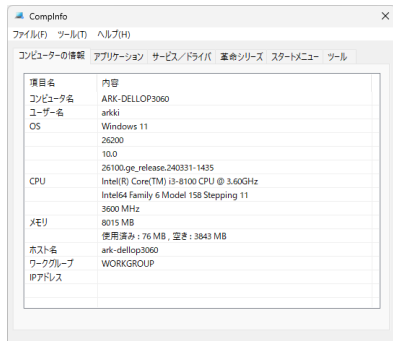
2 コンピューター情報の取得

③各タブをクリックして各情報を表示

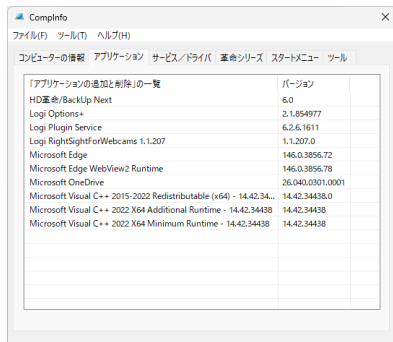


Point

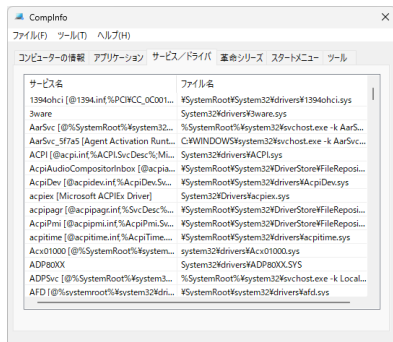
「スタートメニュー」タブでチェックしたメニューをWindowsのデスクトップに作成することができます。「ツール」タブで「ディスクの管理」「タスクスケジューラ」ほかのWindowsの機能呼び出すことができます。



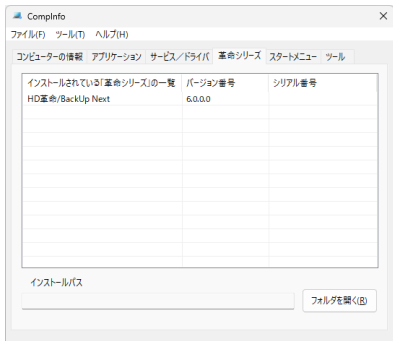
「コンピュータの情報」タブ



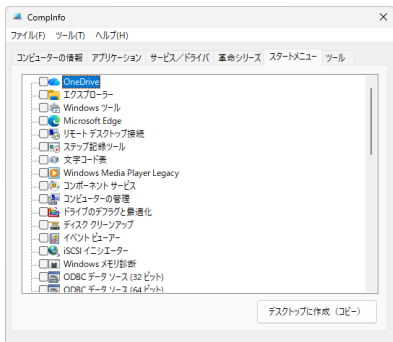
「アプリケーション」タブ



「サービス/ドライバ」タブ



「革命シリーズ」タブ



「スタートメニュー」タブ



「ツール」タブ

アップデータの確認

インターネットに接続できる環境にある場合、製品によっては起動時に「更新確認ツール」が起動することがあります。この場合、製品の最新アップデータが公開されていますので、「更新確認ツール」からアップデータのダウンロードとインストールを行うことができます。アップデータのダウンロードを行うには、製品の登録が必要です。

製品の登録と「更新確認ツール」について

●革命シリーズ製品を初めて登録する場合

革命シリーズ製品を初めてユーザー登録する場合は、「更新確認ツール」で入力したメールアドレスがそのまま新規のユーザーIDとして登録されますので、間違いがないように確認いただき入力してください。なお、「更新確認ツール」によるユーザー登録は「仮登録」の状態となり、メールアドレス、パスワード、シリアル番号のみが登録されます。

「仮登録」の状態は、アップデータのダウンロードは可能ですが、サポートへの問い合わせやオンラインショップでの優待販売などのサービスがご利用いただけません。



「更新確認ツール」で登録を行うと、入力したメールアドレス宛に「自動更新の手続き完了のお知らせ」という件名でメールが送信されます。このメールが届いていない場合は、入力したメールアドレスが間違っている可能性があります。

「本登録」には、「更新確認ツール」で入力したメールアドレスとパスワードの入力が必要となりますので、メールアドレスの間違いにより「本登録」が行えない場合は、シリアル番号をご用意いただき、ユーザーサポートまでご連絡ください。

Web サイト (<https://www.ark-kakumei.jp/selectregist>) にて残りの項目を入力して「本登録」を行ってください。「本登録」を行う場合は、「[革命シリーズ]」のユーザー登録がお済みの方で「製品追加登録」をクリックし、「仮登録」で入力したメールアドレス、パスワードを入力してください。

●すでに革命シリーズ製品の登録を行っている場合

すでにユーザー登録されている場合は、登録されているメールアドレスとパスワードを入力することで製品の追加登録を行います。

ユーザー登録されているメールアドレスと異なるメールアドレスを入力した場合は、別のユーザーIDとして登録されます。この場合、前述の「革命シリーズ製品を初めて登録する場合」と同様となります。



アップデータのダウンロードや優待販売は、登録したシリアル番号とメールアドレス、パスワードが一致しないとご利用いただくことができません。問題がなければ、「更新確認ツール」の画面ですでにユーザー登録しているメールアドレスとパスワードを入力し、同じユーザーIDへの製品追加登録という形にしてください。

「更新確認ツール」による登録と確認の流れ

1 更新確認ツール

「更新確認ツール」でメールアドレスとパスワードを入力します。

2 更新処理への移動

登録が終了するとメッセージが表示されますので、「OK」をクリックします。

3 更新処理

画面が変わりますので、「更新」をクリックします。

4 ダウンロードとインストール

アップデートファイルが自動的にダウンロードされ、アップデートのインストールが開始されます。

Point

「更新確認ツール」は、Ark ランチャーの「サポート情報」→「アップデートの確認」から起動することができます。



ネットワークドライブの割り当てと IP アドレスの設定

作成した Windows PE 起動用メディアから起動し、ネットワークドライブを使用するバックアップ・復元を行う場合は「ネットワークドライブの割り当て」が必要です。Windows 上での「ネットワークドライブの割り当て」と異なり、バックアップ・復元の実行前に毎回行う必要があります。

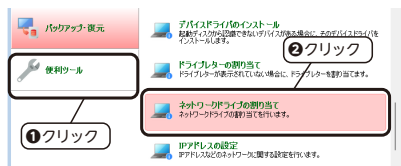
また、DHCP サーバーがないようなネットワークの場合、「ネットワークの詳細設定」によって固定 IP アドレスを設定することができます。

1 コンピューターの起動

Windows PE 起動用メディアからコンピューターを起動します (1-12 ページ参照)。

2 「ネットワークドライブの割り当て」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ネットワークドライブの割り当て」を選択します。

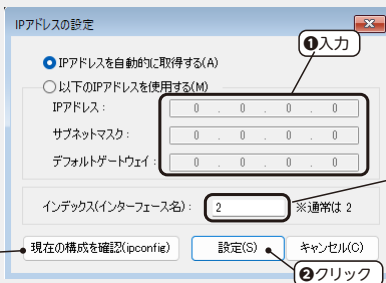


IP アドレスの設定

DHCP サーバーが存在しないネットワーク環境で固定 IP アドレスを割り当てが必要な場合、Ark ランチャーで「便利ツール」→「IP アドレスの設定」を選択し、任意の IP アドレスを割り当てることができます。

「IP アドレスの設定」画面で、ネットワーク環境に応じた IP アドレスを入力します。

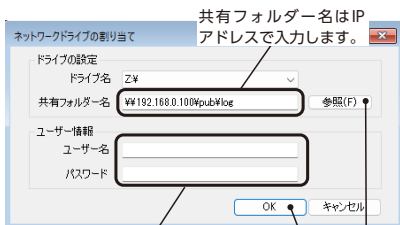
「ipconfig」コマンドを実行した結果が表示されます。



ネットワークデバイスが複数接続されているようなとき、「2」ではなく設定できない場合があります。3, 4, 5...と変更してみてください。

3 共有フォルダーを選択

共有フォルダー名に直接ネットワークパスを入力するか、「参照」をクリックして共有フォルダーを指定します。



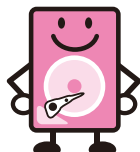
ネットワークドライブにログオンパスワードが必要な場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。

共有するフォルダーをツリーの中から選択し、「OK」をクリックします。



第 7 章

参考資料



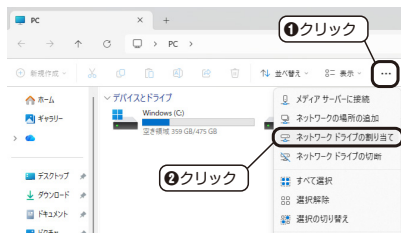
ここでは、*BackUp Next*をご利用いただく際に参考となるWindowsの操作について説明しています。

ネットワークドライブの割り当て

以下に示す操作により、「ネットワークドライブの割り当て」を行うことができます。ここでは、NAS（ネットワークハードディスク）に作成した共有フォルダー「BackUp」に対してネットワークの割り当てを行っています。

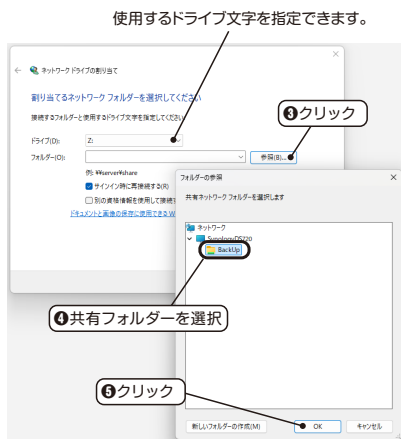
1 「ネットワークドライブの割り当て」を選択

PC（コンピューター）でツールバーの「…」をクリックし、次に「ネットワーク ドライブの割り当て」をクリックします。



2 共有フォルダーの指定

「参照」をクリックし、割り当てを行うフォルダーを選択します。

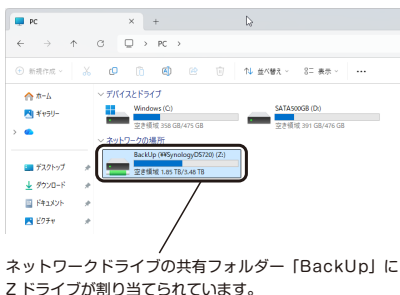


3 ネットワークドライブの割り当て

「完了」をクリックするとネットワークのドライブの割り当てが実行されます。



PC（コンピューター）を開くと「ネットワークの場所」にドライブが表示されます。

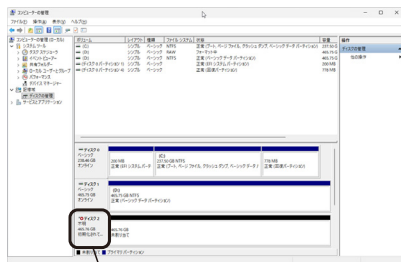
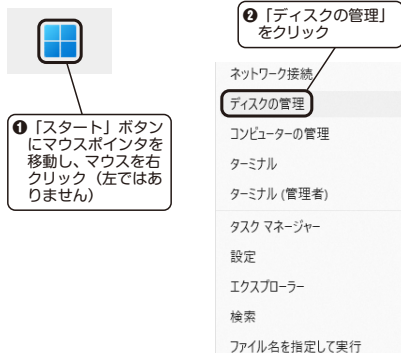


ネットワークドライブの共有フォルダー「BackUp」に Z ドライブが割り当てられています。

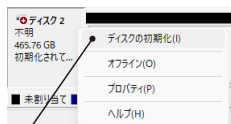
ディスクの初期化とパーティションの作成

1 ディスクの初期化

初期化したいハードディスクを接続し、「ディスクの管理」を起動します。

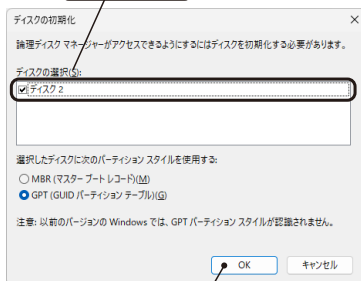


③ 「初期化されていません」の表示部を右クリック



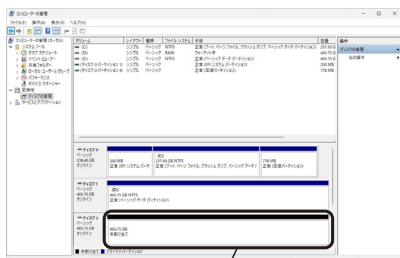
④ 表示されたメニューで「ディスクの初期化」をクリック

⑥ディスクを選択



2 パーティションの作成

初期化に続いて、「ディスクの管理」からパーティションを作成することができます。

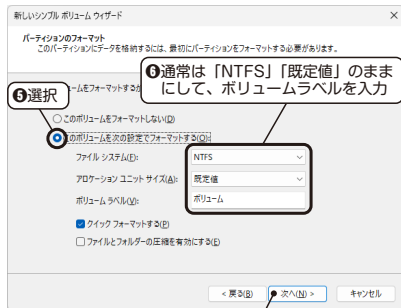
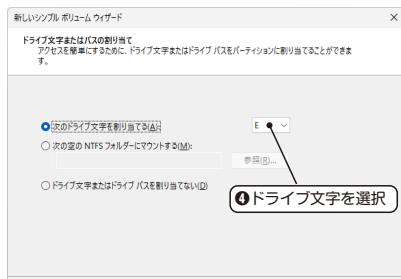
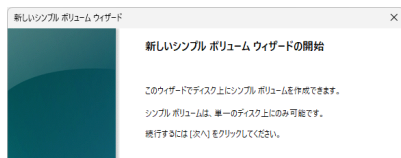


① 「未割り当て」を右クリック

②「新しいシンプルボリューム」をクリック

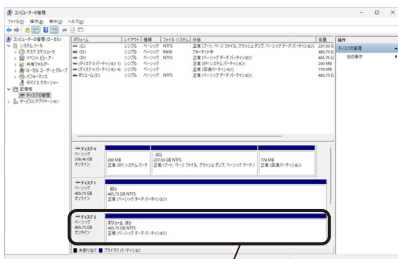
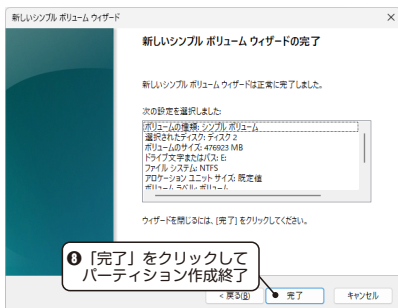


「新しいシンプル ボリューム ウィザード」が起動します。



Point

サイズが32GB以上のときは「FAT32」は選択できません。
「クイックフォーマットする」にチェックを入れると、フォーマット時間を短縮できます。



作成されたパーティション

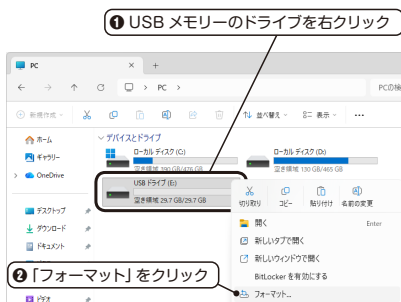
「フォーマット中」と表示されている間は、パーティション操作はせずに、終了するまでお待ちください。

USB メモリーのフォーマット

USB メモリーをフォーマットするには、以下の操作を行います。

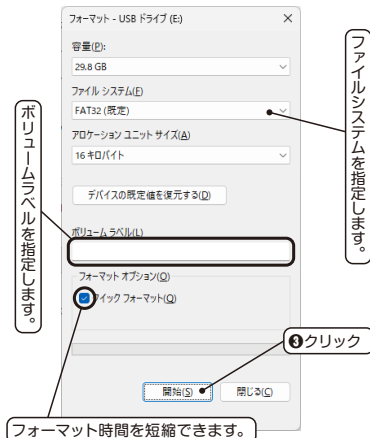
1 USBメモリーの選択

PC (コンピューター) でUSBメモリーのドライブを右クリックします。



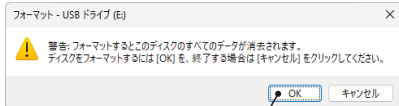
2 オプションの選択

オプションを指定して「開始」をクリックします。

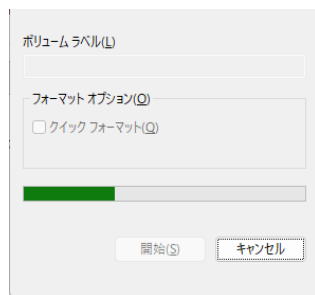


3 USBメモリーのフォーマット

フォーマット開始前に確認メッセージが表示されます。

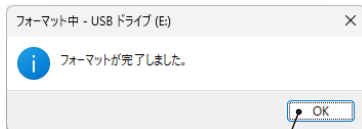


フォーマット中は進行状況が表示されます。



！
フォーマットが完了するまでUSBメモリーを取り外さないようにしてください。

「OK」をクリックして、フォーマットが完了です。



回復ドライブの作成

USBメモリーにコンピューターを初期状態に戻すための「回復ドライブ」を作成する手順を示します。USBメモリーは、環境により異なりますが8GB～32GBの容量が必要です。

1 「スタート」ボタンをクリック

「スタート」ボタンをクリックします。



2 「回復ドライブ」を選択

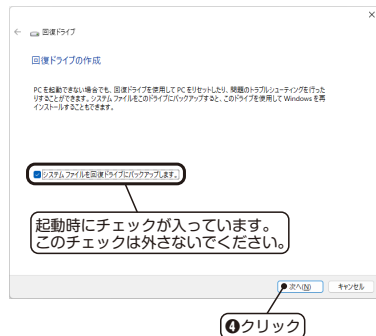
検索ボックスに「回復ドライブ」と入力し、検索結果から「回復ドライブ」（または「回復ドライブの作成」）を選択します。



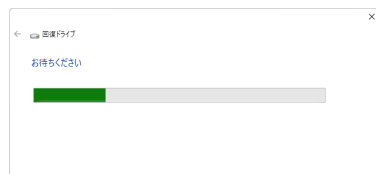
- ⚠
- メーカー製のコンピューターでは、インストールされているメーカー製アプリの中で作成できるようになっていることがあります。

3 回復ドライブの作成

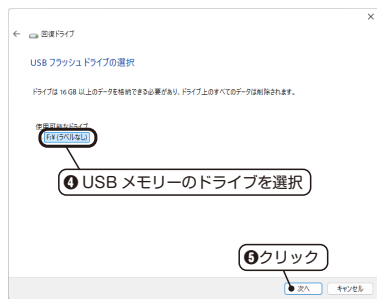
「回復ドライブの作成」画面が起動しますので、「次へ」をクリックします。



しばらくの間、「お待ちください」と表示されます。コンピューターによっては時間がかかることがあります。



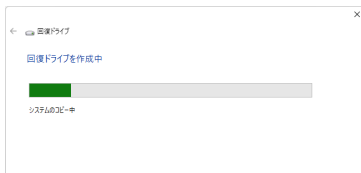
USBメモリーを接続したドライブを選択して「次へ」をクリックします。USBメモリー以外のUSBデバイスは接続を外しておくことをおすすめします。



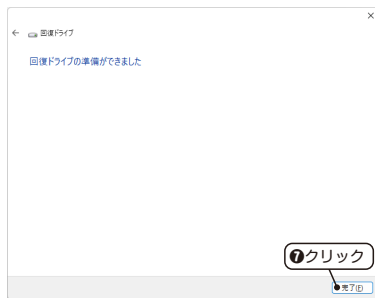
USBメモリー内のデータが削除されますので、必要なデータが残っていないか確認してください。「作成」をクリックすると、実際に作成が開始されます。



作成中は進行状況が表示されます。



作成が終了すると「回復ドライブの準備ができました」の画面に変わります。「完了」をクリックします。



- 画面内に「回復パーティションを削除します」と表示されている場合、クリックするとハードディスク内の「回復パーティション」が削除されてしまいます。Windows上でパソコンを初期化することができなくなりますので、必要がない限り選択しないようにしてください。

ここで作成した「回復ドライブ」のUSBメモリーは、作成したコンピューター専用となり、他のコンピューターで使用することはできません。別のコンピューターで作成する場合は、もう1つUSBメモリーを用意して同様の手順を行ってください。

「回復ドライブ」を使用したコンピューターの初期化方法は、お使いのコンピューターのマニュアルやメーカーのWebサイトにてご確認ください。

- ・本ユーザーズ・マニュアルはPDFファイルとして提供しており、Adobe Acrobat Reader（Adobe社の閲覧ソフトウェア）を使用し、オンラインマニュアルとしてご利用いただくことができます。
- ・Microsoft[®]、Windows[®]11、Windows PEは米国Microsoft Corporationの、米国および他の国における登録商標または商標です。
- ・その他の会社名、商品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

HD 革命 /BackUp Next Ver.6 ユーザーズ・マニュアル

2026 年 6 月 1 日 第 1 版発行

編 集 株式会社アーク情報システム

発 行 ファンクション株式会社

〒 351-0022 埼玉県朝霞市東弁財 3-17-16

© 2026 Ark Information Systems, Inc. © 2026 Function, Inc.

著作権法の範囲を超え、本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。